

第 22 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム

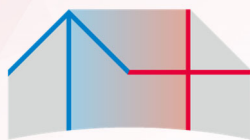
女子中高生の進路選択

～環境にとらわれず自分の興味を伸ばせるように～

資料集

2024 年 10 月 12 日(土) 10:00～16:30

中央大学茗荷谷キャンパス特大教室(1W01) & オンライン



EPMEWSE

一般社団法人 男女共同参画学協会連絡会

男女共同参画学協会連絡会 第22期委員長挨拶	1
第22回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムプログラム	2
午前の部 講演・登壇者紹介	4
男女共同参画学協会連絡会 第22期幹事学会挨拶	5
第22回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム 開催校挨拶	6
男女共同参画学協会連絡会 第22期活動報告	8
午後の部 講演・登壇者紹介	14
男女共同参画学協会連絡会 第23期幹事学会挨拶	21
男女共同参画学協会連絡会 第23期委員長挨拶	22
ポスター発表参加一覧	23
加盟学協会・大学 活動報告	24
一般社団法人男女共同参画学協会連絡会 定款	85
男女共同参画学協会連絡会のご案内	93
男女共同参画学協会連絡会第22期担当者	97
フライヤー	99



第 22 期委員長 挨拶
(一般社団法人 日本応用数学会)

いまい けいこ

今井 桂子

中央大学理工学部情報工学科 教授

ご挨拶

第 22 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムの開催にあたり、幹事学会である一般社団法人日本応用数学会を代表いたしまして、ご挨拶申し上げます。

連絡会では、理工系の女性研究者比率の低迷という現状を改善するために様々な活動しております。そのような活動の一つとして、理工系に興味をもつ女子中高生を増やすため「女子中高生夏の学校(通称 夏学)」を開催してきました。そこで、本シンポジウムのテーマを「女子中高生の進路選択～環境にとらわれず自分の興味を伸ばせるように～」としました。夏学は現在、NPO 法人 女子中高生理工系キャリアパスプロジェクトに主催を委ね、連絡会は中高生理系進路選択支援 WG を通じて協力しています。本シンポジウムの午前の部では、まず、夏学の現状について皆さんと情報共有したいと思います。

ポスターセッションを挟んで午後の部では、教育社会学の観点から教育におけるジェンダーの課題や、中高生向けの科学塾の運営から見えてきた気づき、また、当事者として体験した進路選択の現状についてお話を伺います。また、続くパネル討論では現役の学生も交え、次の世代の女子中高生が環境にとらわれずに自分の興味を伸ばせるような方策について議論し、連絡会としてどのような支援をすべきか、共に考える機会にしたいと思います。

一般社団法人 男女共同参画学協会連絡会は現在、正式加盟学協会 108 団体、オブザーバー 加盟学協会 10 団体、計 118 学協会で構成されており、今後さらなる広がりが見込まれます。幹事学会は 11 月から日本森林学会様に交代となります。引き続き、男女共同参画学協会連絡会の活動へのご協力をよろしくお願い申し上げます。

略歴

1980 年 津田塾大学学芸学部数学科卒業、1982 年 津田塾大学理学研究科修士課程数学専攻修了、1985 年 津田塾大学理学研究科博士後期課程数学専攻単位取得退学。理学博士。1985 年 東京大学工学部教務職員、1988 年 東京大学工学部助手、1988 年 九州工業大学情報科学センター助手、1990 年 津田塾大学学芸学部研究助手、1992 年 中央大学理工学部情報工学科助教授、1999 年 中央大学理工学部情報工学科教授。2017-2023 年 中央大学高等学校校長。2015 年 電子情報通信学会フェロー、2020 年 日本応用数学会フェロー。



第 22 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム

女子中高生の進路選択

～環境にとらわれず自分の興味を伸ばせるように～

【日時】 2024 年 10 月 12 日（土） 10:00～16:30

【形式】 中央大学茗荷谷キャンパス特大教室(1W01)&オンライン開催

【主催】 一般社団法人男女共同参画学協会連絡会（幹事学会：一般社団法人日本応用数理学会）

【後援】 内閣府 男女共同参画局、文部科学省、厚生労働省、経済産業省、国立研究開発法人科学技術振興機構、日本学術会議、独立行政法人国立女性教育会館、一般社団法人国立大学協会、一般社団法人日本私立大学連盟、中央大学、特定非営利活動法人女子中高生理工系キャリアパスプロジェクト

【参加費】 個人会員・一般：無料、学協会・大学等：7000 円(不課税)

（ポスター展示は別途 税込 3000 円）

【参加申込】 <https://forms.gle/uMBuGyRxidef1U8e8>

一般参加〆切：2024 年 10 月 4 日（金） ※一般の方はオンラインでご参加ください

【問い合わせ先】 連絡会 22 期事務局 (danjo_office22@djrenrakukai.org)

【目的】

男女共同参画学協会連絡会が設立されて今年で 22 年となりました。

連絡会の活動では、およそ 5 年ごとの科学技術系専門職の男女共同参画実態調査（大規模調査）の合同活動に加え、各学会においては委員会やワーキンググループが中心となり、学会員を対象としたさまざまな取組がなされてきました。現在、加盟学協会はオブザーバー学会を含め、118 となっており、今後さらなる広がりが見込まれます。一方で、多くの学協会では女性会員数の伸び悩みが懸念されています。その背景には、女子中高生が理系・文系の選択を行う時に、科学技術系に興味を持っていても理系を選びづらい事情があるのではないかと考えました。そこで、本シンポジウムでは女子中高生の進路選択、特に地方の課題に焦点をあて、女子中高生が自分の興味を伸ばせる環境構築の方策をみなさんとともに考えたいと思います。

本連絡会ではかねてから「女子中高生夏の学校（通称 夏学）」を開催してきました。現在は、NPO 法人 女子中高生理工系キャリアパスプロジェクトに主催を委ね、女子中高生進路選択支援 WG を通じて協力しています。そこで、まず本シンポジウムの午前の部では、夏学の現状について皆さんと情報共有をするとともに、本連絡会の第 22 期の全体の活動報告をさせていただきたいと思います。

ポスターセッションを挟んで午後の部では、教育社会学の観点から教育におけるジェンダーの課題や、中高生向けの科学塾の運営から見てきた気づき、また、当事者として体験した進路選択の現状についてお話を伺います。また、続くパネル討論では現役の学生も交え、次の世代の女子中高生が環境にとらわれず自分の興味を伸ばせるような方策について議論します。連絡会としてどのような支援をすべきか、共に考える機会にしたいと思います。

■プログラム

【午前の部（10:00～11:30）】

開会挨拶 日本応用数理学会 会長 速水謙 氏

歓迎の挨拶 中央大学ダイバーシティセンター所長 中島康予 氏

「多様な出会いが拓く未来：アンコンシャスバイアスを超えて」

～男女共同参画学協会連絡会に支えられた、女子中高生夏の学校（夏学）の20年～

講演：NPO 法人 女子中高生理工系キャリアパスプロジェクト 代表理事 永合由美子 氏

「連絡会活動報告」

第22期活動報告・WG活動報告・活動調査報告

【昼の部（11:30～13:00）】

ポスターセッション(昼食)

【午後の部（13:00～16:30）】

「女子中高生の進路選択

～環境にとらわれず自分の興味を伸ばせるように～」

ご来賓挨拶

内閣府男女共同参画局 局長 岡田恵子 氏

文部科学省科学技術・学術政策局 科学技術・学術総括官 先崎卓歩 氏

趣旨説明

講演 13:15～15:20

講演1 「女子中高生の進路選択をとりまくジェンダー」

宮崎公立大学 人文学部 国際文化学科 准教授 寺町晋哉 氏

講演2 「『女子中高生のための関西科学塾』の19年、

そして最近思うこと」

大阪公立大学 大学院理学研究科 物理学専攻 教授/

女子 STEAM 人材育成研究所(CYWSTEAM) 所長 細越裕子 氏

講演3 「女子中高生理系進路選択支援プログラムが与えた影響：

夏学での経験」

大阪大学 大学院医学系研究科 特任研究員/(株)リコー 朝井都 氏

休憩 15:20～15:30

パネル討論 15:30～16:20

パネリスト：午前・午後講演者（永合氏、寺町氏、細越氏、朝井氏）

お茶の水女子大学 教授 森義仁氏（女子中高生理系進路選択支援 WG 委員長）

九州大学 修士課程1年 佐藤南帆 氏

ファシリテーター：大阪大学 教授 中口悦史 氏（連絡会第22期運営委員会 副委員長）

閉会挨拶 16:20～16:30

幹事学会からの挨拶 連絡会第22期運営委員会 委員長 今井桂子 氏

次期幹事学会からの挨拶 日本森林学会 佐藤宣子 氏

講演・登壇者紹介

【午前の部】

開会挨拶

男女共同参画学協会連絡会 第22期幹事学会 会長 速水謙 氏

歓迎の挨拶

中央大学ダイバーシティセンター所長 中島康予 氏

講演

永合由美子 氏（NPO 法人女子中高生理工系キャリアパスプロジェクト代表理事）

男女共同参画学協会連絡会活動報告

第22期活動報告・WG活動報告・活動調査報告



第 22 期幹事学会 挨拶
(一般社団法人 日本応用数理学会 会長)

はやみ けん

速水 謙

国立情報学研究所・総合研究大学院大学 名誉教授

ご挨拶

第 22 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムの開催にあたり、幹事学会を務めている日本応用数理学会を代表してご挨拶申し上げます。当学会は、日本における応用数理的な研究、産業、教育等に関わる活動を支援し、ともに活動していくために、1990 年に発足しました。会員数は約 1400 名で、女性会員は約 90 名 (6.4%) です。

私事で恐縮ですが、8 月末にヘルシンキであったフィンランドと日本の応用数理のワークショップに参加する機会がありましたが、フィンランド側は発表者が 20 名中女性が 5 名 (25%)、日本側からは 28 名中 1 名でした。次の週はデンマーク工科大学の応用数学科で講演をさせていただく機会がありましたが、そこでも参加者の約 3 割が女性でした。また、多くの異なる国籍の方が参加されていて、その意味でも多様性を感じました。たまたま居合わせたイタリアの女性の教授に、「イタリアでは応用数理の分野で多くの女性の研究者が活躍されているようだが、それは学校で女子も数学を学ぶことを奨励されているからか？」と尋ねると、そのとおりだそうでした。

翻って我が国の、応用数理、数学の分野で活躍されている女性の研究者はいらっしゃいますが、もっといらっしゃってもいいように思います。その意味で本男女共同参画学協会連絡会、そして女子中高生夏の学校の働きは大変貴重なもので、今後とも益々充実して行われることを期待しています。

当学会でも 9 月の年会で託児施設を開設したり、キャリアデザインのためのランチミーティングを開催したりして関連した取り組みをおこなっています。また、当学会の佐古和恵先生と今井桂子先生のご意見を紹介させていただきますと、中高生、あるいは小学生の時からジェンダーバイアスにとられずに個人が自分の興味を広げられる環境を大人が提供することが重要で、そのために NPO 女子中高生理工系キャリアパスプロジェクトや女子中高生理系進路選択支援 WG の活動をこれからもみんなでサポートできるとよい。また、生徒のジェンダーバイアスを取り除くためには、周囲の大人の意識改革が必要で、それを大人がしなくてはいけない。特に、中高の教科において数学の面白さを知ってもらうにはどうすればよいのかを考えていますとのこと。よろしく願いいたします。

略歴

1979 年 東京大学工学部計数工学科卒業、1981 年 東京大学大学院工学系研究科計数工学専門課程 (修士) 修了、1981-1993 年 日本電気株式会社研究所、1993-2000 年 東京大学計数工学科 助教授
2001-2021 年 国立情報学研究所 教授、2002-2021 年 総合研究大学院大学 教授。

2018 年 日本応用数理学会フェロー。2023 年-日本応用数理学会 会長



開催校挨拶

なかじま やすよ

中島 康子

学校法人中央大学常任理事、中央大学ダイバーシティセンター所長
中央大学法学部 教授

ご挨拶

第 22 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムを後援させていただく中央大学を代表してご挨拶申し上げます。本日、中央大学茗荷谷キャンパスにお越しいただいた方々にお礼を申し上げますとともに、幹事学会である一般社団法人・日本応用数理学会の皆様をはじめ、男女共同参画学協会連絡会の運営・活動にご尽力された全ての方々に敬意を表します。22 年の歴史を重ねてこられたシンポジウムが本学で開催されることを大変光栄に存じます。

中央大学では 2017 年 10 月に「中央大学ダイバーシティ宣言」を策定・公表し、この宣言を具現化するため、2020 年 4 月、中央大学ダイバーシティセンターを設置しました。130 年を超える歴史をもつ大規模私立大学であるにもかかわらず、組織的・体系的に身体障害学生を支援する組織、男女共同参画推進部署がなく、多様な国籍やエスニシティ、言語・宗教、ルーツ・出自などをもつ大学構成員を包摂する公平性・公正性という観点は希薄でした。このような状況のもと周回遅れでスタートしたセンターのコンセプトはインターセクショナルリティ（交差性）です。「グローバル、多文化共生」、「ジェンダー・セクシュアリティ」、「障害学生等支援」の 3 領域を重点領域と設定し、一人一人の構成員の経験やアイデンティティの複合性・多様性をふまえ、個別ニーズにそった相談・支援を行なう一方、このようなニーズをもつ構成員が、あたかも存在しないかのような前提の社会をつくり出す制度・構造、権力関係の問題に切り込むには、領域横断的な連携・連帯が鍵を握るとの認識にたち、環境整備を行なハブとしてセンターを設置することにしました。目下のところセンターの活動の主軸を学生支援に置いており、「女子中高生の進路選択」というシンポジウムのテーマのもと得られた知見・成果を本学の取りくみにいかしてまいります。本日のシンポジウムが日本社会のジェンダー平等実現につながることを願い、実り多いものになりますよう、心よりお祈りいたします。

略歴

1983 年中央大学法学部法律学科卒業。1989 年中央大学大学院法学研究科博士後期課程（政治学専攻）退学。中央大学法学部助手・助教授を経て、2000 年から中央大法学部教授。専門は政治学・現代政治理論。中央大学法学部長などを務め、2023 年 6 月から学校法人中央大学常任理事（総務担当）・中央大学ダイバーシティセンター所長。



「多様な出会いが拓く未来：アンコンシャスバイアスを超えて
～男女共同参画学協会連絡会に支えられた、
女子中高生夏の学校（夏学）の20年～」

なごう ゆみこ

永合 由美子

特定非営利活動法人 女子中高生理工学系キャリアパスプロジェクト代表理事

◆略歴◆

東京大学大学院工学系研究科化学工学専門課程修了。

ライオン株式会社入社 研究所/マーケティング本部勤務 24年、48歳で退職。2010年より、東京大学大学院工学系研究科研究支援スタッフとして工学系広報や産学連携プロジェクトを推進。

NPO 法人 女子中高生理工学系キャリアパスプロジェクト 代表理事

INWES (the International Network of Women Engineers and Scientists) Board

日本女性技術者フォーラムメンター部会部会長

◆講演概要◆

理工系分野におけるジェンダー・バイアスを是正すべく、「女子中高生夏の学校（夏学）」は2005年に始まりました。全国から約100名が参加する2泊3日の合宿スタイルのイベントとして、男女共同参画学協会連絡会の全面的な支援の下、最先端の科学に触れることに加え、多様な人との出会いを大切にしています。理工系の進学やキャリア・パスに興味のある女子中高生参加者は、情報インプットだけでなく、自らが考えキャリア・プランを発表し、周囲がそれを応援するという一連の流れの中で、将来に向けての目標や自分自身を肯定的に見るきっかけを得ます。いわゆるサイエンス・イベントとは異なり、キャリア形成の支援に重点を置く点、身近なロールモデルである大学生・大学院生によるプログラムが中核となっている点に特徴があります。夏学の参加前後に実施しているアンケートからは、多様なロールモデルや仲間との出会いがきっかけとなり、将来への不安が払拭され、理工系進路の視野が広がり、自己肯定感向上の様子がうかがえます。

今回の講演では、夏学の20年間のあゆみとプログラムの特徴、参加者・関係者の声を中心にご紹介し、「環境にとらわれず自分の興味をのばす」ための取組について、みなさまと一緒に考えたいと思います。

男女共同参画学協会連絡会 第22期活動報告

幹事学会 一般社団法人 日本応用数理学会

Activity Report during 22nd year of the Japan Inter-Society Liaison Association Committee for Promoting Equal Participation of Men and Women in Science and Engineering (EPMEWSE)

The 22nd secretary office: The Japan Society for Industrial and Applied Mathematics (JSIAM)

This report summarizes our activities during the 22nd year (November 2023 to October 2024) of EPMEWSE.

1. 概要

幹事学会：日本応用数理学会

第22期幹事学会として、2023年11月1日から1年間、本連絡会の運営委員会開催、および事務局運営を担当しました。

開発法人科学技術振興機構、日本学術会議、独立行政法人国立女性教育会館、一般社団法人国立大学協会、一般社団法人日本私立大学連盟、中央大学、特定非営利活動法人女子中高生理工系キャリアパスプロジェクト

[組織]

委員長：今井 桂子（代表理事）

副委員長：佐古 和恵（理事）

中口 悦史（理事）

幹事学会運営委員：石田 祥子、磯島 伸、岩崎 悟、陰山 真矢、神山 雅子、齊藤 宣一、佐々木 多希子、森山 園子

[社員総会]

定時社員総会を2023年12月4日にオンライン開催しました。

[運営委員会]

下記3回の運営委員会をオンライン開催しました。

第1回 2023年12月4日

第2回 2024年3月25日

第3回 2024年8月30日

■主催行事

第22回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムを企画し、下記の後援のもと、2024年10月12日に中央大学茗荷谷キャンパスとオンラインのハイブリッドにて開催予定。

【後援】内閣府男女共同参画局（予定）、文部科学省、厚生労働省、経済産業省、国立研究

[プログラム概要]

テーマ：女子中高生の進路選択～環境にとらわれず自分の興味を伸ばせるように～

【午前の部】

講演 永合 由美子（NPO法人女子中高生理工系キャリアパスプロジェクト 代表理事）

「多様な出会いが拓く未来：アンコンシャスバイアスを超えて～男女共同参画学協会連絡会に支えられた、女子中高生夏の学校（夏学）の20年～」

【昼の部】

ポスターセッション

【午後の部】

講演 1 寺町 晋哉（宮崎公立大学 准教授）

「女子中高生の進路選択をとりまくジェンダー」

講演 2 細越 裕子（大阪公立大学 教授 / 女子STEAM人材育成研究所(CYWSTEAM) 所長）

「『女子中高生のための関西科学塾』の19年、そして最近思うこと」

講演 3 朝井 都（大阪大学 特任研究員 / (株)リコー）

「女子中高生理系進路選択支援プログラムが与えた影響：夏学での経験」

パネル討論

パネリスト：永合由美子、寺町晋哉、細越裕子、朝井都、

森義仁（お茶の水女子大学 教授）、
佐藤南帆（九州大学大学院生）
ファシリテータ：中口悦史（大阪大学 教授）

2. 主な活動

(1) 政府各所への要望活動

女性研究者・技術者の育成、および男女共同参画の一層の推進を目指し、第21期中に連絡会で承認された以下の要望書2種が、次期科学技術・イノベーション基本計画、男女共同参画基本計画等に反映されるよう、要望活動を継続的に行なっています。

・科学技術系分野における任期付き研究者の雇用問題解決に向けての要望「若手・氷河期世代研究者の待遇改善が研究力強化につながる」（2023年3月27日）

・科学技術系分野における男女共同参画推進に向けての要望「『戦略』から『実装』への転換 - 女性研究者登用をイノベーション創出の切り札とするには -」（2023年8月30日）

[提出先]

[1] 2024年1月16日(火)10:00~10:55 (Zoom)

内閣府 男女共同参画局 岡田恵子局長

[2] 2024年3月7日(木)16:00~17:40 (対面)

内閣府 政策統括官(科学技術・イノベーション担当) 松尾泰樹事務局長

[3] 2024年4月2日(木)15:15~15:45 (対面)

内閣府 男女共同参画局 岡田恵子局長

[4] 2024年4月2日(木)16:00~18:00 (対面)

内閣府 原子力委員会 委員長 上坂 充氏、
科学技術イノベ推進事務局 参事官 山田哲也氏・中江延男氏・岡田 往子先生

[5] 2024年6月10日(月)15:00~17:00 (対面)

文部科学省 科学技術・学術政策局
科学技術・学術統括官 山下恭徳氏

[6] 2024年8月22日(木)18:00~19:30 (対面)

日弁連 瀧上会長(女性)

[7] 2024年10月3日(木)15:30~ (対面)

経団連

(2) 内閣府男女共同参画推進連携会議

議員として今井委員長が参加し、2023年11月15日の全体会議への出席のほか、男女間賃金

格差チームおよび若年層の性別役割意識チームとして活動しました。

(3) WG活動

第22期は以下のWGが活動を行いました。

1. 女性研究者の採用促進に関する他国の政策と効果の調査
2. 若手育成
3. 女子中高生理系進路選択支援
4. 男女共同参画に関わる勉強会
5. 大規模アンケート
6. 提言・要望書
7. 運営検討
8. ホームページ検討

(4) 加盟の承認

正式加盟学協会（2学協会）

公益社団法人 日本薬理学会

公益社団法人 日本栄養・食糧学会

(5) 共催・協賛・後援

共催（0件）

協賛（0件）

後援（12件）

・日本農芸化学会2023年度男女共同参画シンポジウム「キャリアとライフイベントから考える働き方改革 ～10年後の自分を想像してみよう～」、2023年11月30日

・日本女性技術者フォーラム「2023年度 JWEF 女性技術者に贈る奨励賞」(JWEF奨励賞) 授賞式&記念シンポジウム、2023年10月28日

・日本放射線影響学会第10回キャリアパス・男女共同参画委員会企画セミナー「影響学会における男女共同参画の『あゆみ』と『これから』」、2023年11月7日

・四国ダイバーシティ推進委員会（徳島大学 AWA サポートセンター）四国発信！ダイバーシティ研究環境調和推進プロジェクトシンポジウム2023、2023年12月5日

・日本森林学会第135回大会学会企画「若手雇用問題についての情報交換」、2024年3月8日

- ・ 応用物理学会春季学術講演会におけるD&Iシンポジウム「若手・氷河期世代・女性研究者の声はどこまで届いているか？ ～男女共同参画学協会連絡会による大規模アンケートに基づいた要望・提言～」、2024年3月25日
- ・ 日本技術士会第6回D & I フォーラム、2024年6月9日
- ・ 日本繁殖生物学会第117回大会男女共同参画推進セミナー、2024年9月23日
- ・ 日本DNA多型学会中高生DNAシンポジウム「DNAで森羅万象を解き明かせ!!二重らせんがひも解く生命の謎 I」、2024年8月1日
- ・ 地盤工学会第59回地盤工学研究発表会市民向けセッション「サロン・土・カフェ」、2024年7月23日
- ・ 日本育種学会第146回講演会におけるランチタイムセミナー、2024年9月20日
- ・ 日本動物学会第24回男女共同参画懇談会「ワーク・ライフ・バランスを考える」、2024年9月13日

協力（1件）

- ・ 一般社団法人関西科学塾コンソーシアム
第19回 女子中高生のための関西科学塾
2024年7月29日～2025年3月23日（うち7日間）

(6) 加盟学協会の活動状況調査

2024年8月から9月に実施しました。調査結果は連絡会シンポジウムで報告し、ホームページで公開する予定です。

(7) 分担金

第22期はすべての加盟学協会から分担金を納入していただきました。

■謝辞

第22期の活動にあたり、連絡会の内外から多くの方々にお世話になりました。みなさまのご指導ご協力ご支援に深く感謝申し上げます。

ホームページ検討WG活動報告

男女共同参画学協会連絡会 ホームページ検討WG

Report of Activities by Home Page Working Group

EPMEWSE Home Page WG

Abstract: The Japan Inter-Society Liaison Association Committee for Promoting Equal Participation of Men and Women in Science and Engineering (EPMEWSE) has been actively working for gender equality in STEM in Japan through large-scale surveys, proposals and requests to the Cabinet Office, and other initiatives, since its establishment in 2002. Information about our activities and their outcomes have been presented on the association's website. The glossary of terms about unconscious bias was added on the page "Unconscious Bias Corner". In addition, we responded to requests from some organizations, including universities, regarding the "Unconscious Bias Corner".

<概要>

2020年11月1日の法人化に伴って新設した「無意識のバイアスのコーナー」を更新した。さらに、「無意識のバイアスのコーナー」に関して寄せられた大学、機関、学会等からの依頼13件に対応した。

<主な活動>

1. 無意識のバイアスの関連する書籍等のリストを更新した。

2. 無意識のバイアスをテーマにした以下の出張セミナーを実施し、ホームページに講演記録および資料を掲載した。

・ 2023年10月18日(水)北九州市立大学

ダイバーシティ啓発研修にて講演「—無意識のバイアスについて —ダイバーシティを妨げる無意識のバイアスとは—」裏出令子

・ 2023年10月7日(土)日本科学振興協会 JAAS 年次大会シンポジウム「男女共同参画で、日本の科学をもっと元気に！」にて講演「研究者社会における男女共同参画の実態と意識の20年間の変遷」志牟田美沙氏

・ 2023年10月7日(土)日本科学振興協会 JAAS 年次大会シンポジウム「男女共同参画で、日本の科学をもっと元気に！」にて講演「大規模アンケートから見える無意識のバイアス」裏出令子

・ 2023年10月27日(金)日本結晶学会年次大会にて講演「アンコンシャスバイアスと女性限定選抜(受験)の是非」熊谷日登美

・ 2023年11月22日(水)埼玉大学 SD・FD 研修にて講演「大学における無意識のバイアスとダイバーシティ」裏出令子

・ 2023年12月14日(木)愛媛大学ジェンダー協働推進センター研修会にて講演「大学でジェンダーダイバーシティを妨げる無意識のバイアスとは」裏出令子

・ 2023年12月21日(木)日本学術振興会令和5年度 日本学術振興会 男女共同参画推進に係るシンポジウム「学術の未来と「無意識のバイアス」—「男女共同参画」を科学的根拠に基づいて議論する」にて基調講演「女性研究者のキャリア形成を妨げる無意識のバイアス」裏出令子

・ 2024年3月25日(月)応用物理学会学術講演会 D&I 委員会主催シンポジウム「若手・氷河期世代・女性研究者の声はどこまで届いているか?~男女共同参画学協会連絡会による大規模アンケートに基づいた要望・提言~」にて講演「なぜ、我が国の女性研究者は増えないのか?」裏出令子

・ 2024年5月23日(木)京都大学理学研究科FD研修会にて講演「アカデミアでジェンダーギャップを生み出す無意識のバイアスとは」裏出令子

・ 2024年7月25日(木)日本大学日本大学生物資源科学部 FD 講演会にて講演「ダイバーシティ推進を妨げる無意識のバイアス」裏出令子

・ 2024年9月14日(土)日本鳥学会 2024年大会ダイバーシティ ランチョンセミナーにて講演「ダイバーシティとインクルージョンを妨げる壁 “無意識のバイアス”とは」裏出令子

・ 2024年9月26日(木)日本水産学会公開シンポジウム 男女共同参画推進委員会ランチョンセミナーにて講演「女性研究者の参画を妨げる無意識のバイアス—学会で何ができるのか?」裏出令子

・ 2024年9月30日(月)第33回日本バイオイメーティング学会学術集会 DEI (Diversity, Equity & Inclusion) セミナーにて講演「無意識のバイアス」を再認識:次世代リーダーには聴いてほしい!」熊谷日登美

(文責:ホームページ検討WG 裏出令子)

「夏学」～2024女子中高生夏の学校～

女子中高生理系進路選択支援ワーキンググループ

“NATU-GAKU”-2023 Summer School for High School Girls

Promotion of Science and Engineering Education Working Group

The members of Promotion of Science and Engineering Education Working Group joined to the driving committee of “NATU-GAKU”, a three-day summer school for high school girls, supported by STEM Career Path Project for Girls(GSTEM-CPP). In Natu-gaku’s plan, the participants are school girls and the staffs are scientists and engineers from academia and industry, school teachers and university students. The programs in Natu-gaku are supported by academic societies, companies and industrial organizations. The 2024 Natu-gaku was held on 10th to 12th of August.

(武蔵嵐山最後の夏学)

2005年を初回とする女子中高生夏の学校(夏学)は、今年で20年目を迎えます。連絡会女子中高生理系進路選択WGは夏学実行委員会に参加します。本年は、8月10日～12日の3日間、国立女性教育会館(NWEC)で実施し、女子中高生114名を受け入れました。この場所での開催は今回が最後となります。コンセプト「科学・技術・人との出会い」をもとに、実行委員長に大山口菜都美氏(日本数学会)、学生企画委員長に玉城歩氏(京都女子大学)が就き、中高生と一緒に過ごす学生TA総数は40名でした。過去の共同主催NWECが事業脱離し、事務局も実行委員会(WG)が担当し、連絡会全面支援のもと、夏学継続を目指して設立されたGSTEM-CPP(代表永合由美子氏)を主催とした実行委員会(WG)は四年目となりました。18の実験実習と40のポスター&キャリア相談が実現し、幅の広い理工系分野と多様なロールモデルを紹介する夏学は、唯一無二のキャリアイベントとなりました。

<第1日 8月10日(土)>

◆キャリア講演(13:25～15:00)、魅力的な科学・技術の研究や開発に関わる方の生活や仕事のことなど理系進路の魅力についてお話を伺い、将来理系で学ぶこと、働くことの意義や理系進路の多様性について理解を深めます。ビデオレター:石倉秀明氏(山田進太郎D&I財団COO)「好きなことをやろう」、講演:大寄郁弥氏(ヤマハ株式会社 研究開発統括部 第一研究開発部 技術応用グループ)、「“やりたい”・“出来る”・“求められる”で考えた理系選択」、成田麻未氏(名古屋工業大学 大学院工学研究科 工学専攻 材料機能プログラム)「材料開発の夢は無限大!」

◆学生企画、夏学の「軸」となるキャリアプランを目指す3日間のイベント。「結んで繋げリケジョパワー」

(15:20～16:20)、「未来マップラリー」(17:00～18:00)、「LinkWave～悩みの架け橋」(19:00～20:00)

<第2日 8月11日(日)>

◆実験・演習「ミニ科学者になろう」(9:00～11:30) 専門分野の研究者・技術者と実験・実習にじっくりと取り組みます。◆ポスター展示「研究者・技術者と話そう」(13:00～14:30)各分野で必要となる技術の基礎知識や関わる人のライフスタイルを知る機会です、◆進路・キャリア相談カフェ(14:30～16:00) 理系の学びや進路・留学などについて、多様な理系分野の様々な年代の人々との話し合い。◆学生企画「キャリアプランニング～むすんでひらいて、思いの先へ～」(16:20～18:20)

<第3日 8月12日(月)>

◆学生企画「キャリアプランニング～むすんでひらいて、思いの先へ～」キャリアプランの発表、ディスカッションと共通の目標や課題のグルーピング(9:00～11:30)

閉校式(12:00～12:15)

(夏学を知る)夏学ホームページ、

<http://natsugaku.jp/>、NPO 法人女子中高生理工

系キャリアパスプロジェクトホームページ、

<https://www.gstem-cpp.or.jp/>、をご覧ください。

(問い合わせ):森義仁(日本化学会)、

mori.yoshihito@ocha.ac.jp、今井桂子(日本応用数理

学会)、imai@ise.chuo-u.ac.jp

(お礼とお知らせ)今回も連絡会加盟団体のみなさまの暖かくまた力強い支援のもと、夏学を終了することができました。厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。来年2025年は、山本直樹氏(日本技術士会)を委員長に、8月9日(土)～11日(月)、都内オリンピック記念青少年総合センターとし、準備を始めました。引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。



活動調査報告：2024 年加盟学協会の活動調査

かみやま まさこ

神山 雅子

(株)ブリヂストン デジタルソリューション AI・IoT 企画開発部門

統計数理研究所 客員教授

日本応用数理学会 会員

◆略歴◆

1990 年 早稲田大学 理工学部 資源工学科 卒業

1992 年 早稲田大学 理工学研究科 前期博士課程 修了

1992 年～2021 年 公益財団法人 鉄道総合技術研究所 勤務

2004 年 総合研究大学院大学 数物科学研究科 統計科学 後期博士課程 修了

2018 年～ 統計数理研究所 モデリング研究系 データ同化グループ 客員教授

2021 年～ (株)ブリヂストン 勤務

◆講演概要◆

男女共同参画学協会連絡会は、2 年に 1 度、加盟学協会を対象に、男女共同参画関連の活動状況をアンケート調査しています。本講演では、今年のアンケート結果の概要をお伝えします。

講演・登壇者紹介

【午後の部】

「女子中高生の進路選択～環境にとらわれず自分の興味を伸ばせるように～」

ご来賓挨拶

内閣府男女共同参画局 局長 岡田恵子 氏

文部科学省科学技術・学術政策局 科学技術・学術総括官 先崎卓歩 氏

講演 1

寺町晋哉 氏（宮崎公立大学准教授）

講演 2

細越裕子 氏（大阪公立大学教授/女子 STEAM 人材育成研究所所長）

講演 3

朝井都 氏（大阪大学大学院医学系研究科 特任研究員/（株）リコー）

パネル討論

午前・午後講演者（永合氏，寺町氏，細越氏，朝井氏）

森義仁 氏（お茶の水女子大学 教授/女子中高生理系進路選択支援 WG 委員長）

佐藤南帆 氏（九州大学修士課程 1 年）

ファシリテーター 中口悦史 氏（大阪大学教授/第 22 期運営委員会副委員長）



講演 1

「女子中高生の進路選択をとりまくジェンダー」

てらまち しんや

寺町 晋哉

宮崎公立大学人文学部 准教授

◆略歴◆

2017年に大阪大学人間科学研究科にて博士号取得（人間科学）。兵庫教育大学、大阪大学を経て、2017年から宮崎公立大学にて勤務し、2020年より現職。

日本教育学会、日本教育社会学会等に所属。主に教師を対象としながら、ジェンダー平等という「正解」があるにもかかわらず、その「正解」に向かって実践を蓄積することが難しいのはなぜか？について研究してきた。現在は小学校管理職とジェンダーについて研究している。

◆講演概要◆

私たちは日々様々な選択・行動をし、生活しています。教育も同様で、どの高校や大学へ進学するかは中高生自身が選択しています。個人の選択は多様なはずなのに、中高生の選択の結果は偏りがみられます。私の専門である教育社会学では、個人の選択や行動に影響を与える社会的諸条件を明らかにしてきました。その代表的なものの一つが「性別」です。例えば、大学の工学系学科に占める女性の割合は16.1%、理学系は27.9%なのに対し、人文科学系は64.3%となっており、「性別」の偏りが存在しています。「性別」がなぜこれほど影響力をもつのかを「ジェンダー」という概念で紐解き、女子中高生の進路選択に存在しているジェンダーについて考えていきます。

キーワード ジェンダー、学校教育



講演 2

「『女子中高生のための関西科学塾』の19年、
そして最近思うこと」

ほそこし ゆうこ

細越 裕子

大阪公立大学 大学院理学研究科 物理学専攻

大阪公立大学 協創研究センター 女子 STEAM 人材育成研究所

◆略歴◆

東京生まれ。東京大学大学院理学系研究科化学専攻の大学院生時代を物性研究所で過ごし、博士(理学)取得。分子科学研究所相關領域研究系助手を経て、2002年10月から大阪府立大学で、分子磁性研究室を主宰。2009年より教授。大学院理学系研究科物質科学専攻、物理科学専攻を経て、2022年より大阪公立大学理学研究科物理学専攻。

2010年より、女子中高生のための関西科学塾に参画し、2014年、2021年に実行委員長。

大阪公立大学では、府大・市大学内実行委員会を発展させ、女子 STEAM 人材育成研究所(CYW STEAM)を2022年8月に設立し、関西科学塾の実施運営および教育委員会等との連携事業などを行っている。

◆講演概要◆

「女子中高生のための関西科学塾」は、2006年度に文科省の女子中高生の理系進路選択支援事業として始まり、今年度で19年目を迎える。関西圏の国公立大学の連携事業として、神戸大学、大阪大学、奈良女子大学、京都大学、大阪公立大学が輪番制で幹事校を務めている。2017年11月に一般社団法人関西科学塾コンソーシアムを設立し、各大学が正会員となり、賛助会員の協力を得て実施する体制を取っている。年間を通した行事を実施しており、A日程のロールモデルの講演と交流会に始まり、最終行事F日程の実験・実習および発表会との間に、半日の実験・実習を中高生別にC・D日程として、研究機関や企業などの見学会をB・F日程として実施している。毎年の参加者数は約400人(のべ700人程度)で、複数年度に参加する者もいる。

2014年度より実施している高校卒業以降の進路追跡調査では、回答者の8割が理系分野を選択している。この理系選択者の6割が理工系分野に進んでいることは、本事業で多様な理系分野を体験する機会を提供した成果と考えている。このアンケート調査時に、関西科学塾への協力者も募集しており、現在、80人程度がOG会へ登録し、自主的に活動をしている。

今年度初めて、理系における英語との関わり、コミュニケーションに重点を置いた行事を、B日程として実施した(在大阪神戸米国総領事館後援行事)。中高生の進路選択に影響を与える保護者を対象とする懇談会も実施しており、2014年はほとんど母親の参加であったのが、最近では父親と母親がほぼ同数参加している。15年にわたる活動を振り返りつつ、どのような変化を感じているか、思うところを述べたい。



講演 3

「女子中高生理系進路選択支援プログラムが与えた影響：
夏学での経験」

あさい みやこ

朝井 都

大阪大学大学院医学系研究科脳機能診断再建学共同研究講座特任研究員
株式会社リコーデジタル戦略部デジタル技術開発センターヘルスケア
AI 開発室

◆略歴◆

2017 年 芝浦工業大学工学部電子工学科卒業

2019 年 芝浦工業大学理工学研究科電気電子情報工学専攻修了、株式会社リコー入社

入社以来、脳磁図の解析ソフトウェアに関する研究に従事

2022 年より大阪大学大学院医学系研究科脳機能診断再建学共同研究講座 特任研究員（出向）

◆講演概要◆

2010 年、当時高校生だった私は「理系に進みたい」と思いながらも、進路について漠然とした不安を抱いていました。そんな時、学校の廊下に貼られた一枚のポスターが目にとまり、「女子中高生夏の学校」に参加することになりました。

プログラムでは、科学技術分野の様々な学びに触れる機会を得ただけでなく、同じように理系に興味を持つ仲間や、多様な分野で活躍するロールモデルと出会うことができました。この経験は、私の視野を大きく広げてくれました。

大学入学後は学生 TA として毎年参加をし、大学 4 年～修士 2 年までは中高生に向けた企画運営にも携わりました。この活動を通じて、学生 TA の先輩方や研究者の先生方と出会い、自身のキャリアについて深く考えるきっかけとなりました。

このプログラムに出会い、参加・運営を通じて感じたこと、そしてそれが私の進路選択やキャリア形成にどのように影響を与えたかについて、一経験談としてお話しします。



パネリスト

もり よしひと

森 義仁

お茶の水女子大学・日本化学会

◆略歴◆

1988年に北海道大学薬学研究科修了、1998年お茶の水女子大学理学部助教授、現在、同大学で教授、専門は非平衡系化学。同大学で、保育所長、附属幼稚園長、現在はこども園長、10年以上大学の保育事業に関わり保育の現場を知る、同大ジェンダー研究所「ジェンダー研究」編集員を兼任し社会学研究者と交流する機会を持つ。2004年から日本化学会男女共同参画推進委員会委員、男女共同参画学協会運営委員、2005年に第一回の夏の学校実行委員となり、2007年度夏の学校委員長、以降、日本化学会より連絡会運営や夏の学校運営に参加する。

◆ひとこと◆

アンケート調査や提言、夏学学校や関西塾などの連絡会の活動は、全国に広がった理工系の支援活動のひな形となり関係した多くの方の努力の成果、望まれる継続のための工夫を広く協力のもと一緒に考えたい。連絡会の活動は、科学とジェンダーを専門とする社会学研究者の関心が高く、交流できる機会が増えることを期待したい。10月12日にも社会科学研究者が来ているならうれしい。



パネリスト

さとう なほ

佐藤 南帆

九州大学大学院総合理工学府 修士課程1年

◆略歴◆

2020年 種子島高等学校卒業

2021年 学生団体のらねこ設立

2024年 鹿児島大学工学部先進工学科卒業

2024年 九州大学大学院総合理工学府入学

◆ひとこと◆

九州大学大学院総合理工学府の佐藤南帆と申します。この度は、男女共同参画協会連絡会シンポジウムにて、パネル討論に参加させていただけることを大変光栄に思っております。

私は、種子島という離島の出身で、大学進学率が低い環境の中、理系の道を選び、工学部に進学しました。学部時代には有機化学を専攻し、現在は材料分野の研究に従事しております。特に「反応経路自動探索による窒化アルミニウム有機金属気相成長法」の研究を行い、学びの多い毎日を送っております。

今年の夏には「女子中高生夏の学校」にTAとして参加し、都心部の中高生との交流を通じて、地方の学生が直面する進路選択の課題や環境の違いについて深く考える貴重な機会を得ました。この経験から、地方の女子学生が理系に進む際のサポートがますます重要であると強く感じております。

大学生時代には、種子島を拠点に学生団体を設立し、地域での活動を通じて、多様な経験と視点を得ることができました。これからも視野を広く持ち、自分の興味や研究をさらに深めていきたいと思っております。また、地方の女子学生が理系進学に向けた一歩を踏み出しやすい環境づくりに貢献していきたいと考えております。

初めてのパネル討論ということで緊張しておりますが、私自身の経験や立場を生かし、少しでも実りある議論に貢献できればと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。



ファシリテーター
第 22 期副委員長（日本応用数学会）

なかぐち えつし

中口 悦史

大阪大学 スチューデント・ライフサイクルサポートセンター 教授

◆略歴◆

1993 年 大阪大学工学部卒業、1995 年 大阪大学大学院工学研究科博士前期課程修了、1998 年 同 博士後期課程修了。博士(工学)。1998 年 大阪大学大学院工学研究科助手、2002 年 大阪大学大学院情報科学研究科助手(2007 年から助教)、2009 年 東京医科歯科大学教養部准教授。2022 年 10 月より現職、教学 IR 担当。

2015 年-2021 年 日本応用数学会理事、2020 年から 日本応用数学会男女共同参画 WG 委員。



第 23 期幹事学会 挨拶
(一般社団法人 日本森林学会 会長)

まさき たかし

正木 隆

国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所 研究リスク管理監

ご挨拶

日本森林学会の会長を務めております正木隆と申します。男女共同参画学協会連絡会の次期幹事学会は、当学会がお引き受けすることとなりました。そのため2023年に臨時委員会を組織し、当時副会長だった私が委員会の会長を務めました。その後、2024年5月の総会で私が会長に選任され、同時に佐藤宜子氏がダイバシティー担当理事となりました。そこで佐藤氏に臨時委員会の会長をバトンタッチして組織体制を一本化し、幹事学会に臨むことといたしました。男女共同参画学協会連絡会の活動と発展に全力で貢献していく所存です。

科学技術は近代日本の発展の礎でした。日本はこれから人口が減少していきませんが、だからこそ、科学技術の発展を停滞させることは日本の将来を大きく脅かします。男女の区別なく、多くの人材が科学技術分野に携わることが不可欠となります。しかし、大規模アンケートの結果をみても、日本において女性研究者が活躍する環境は依然として不十分であり、日本の将来に暗い影を落としています。この状況を打破し、改善し、女性研究者を増やすことは国家的な急務と言えるでしょう。

当学会は男女共同参画学協会連絡会での活動を通じて、日本の発展に貢献できるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

略歴

1964年、東京生まれ。1988年に東京大学農学部を卒業し、1993年、東京大学大学院農学系研究科を修了(博士(農学))、同年、森林総合研究所に入所した。その後、主に森林総合研究所においてキャリアを積み重ねる一方、農林水産省農林水産技術会議事務局の研究調査官、山梨県森林総合研究所の客員研究員、筑波大学連携大学院の教授などを歴任した。専門は造林学・森林生態学、およびそれらに基づく森林施業論。100を超える原著論文のほか、「森林づくりの原理・原則」(単著・全林協)、「森林生態学」(編著・共立出版)、「森の芽生えの生態学」(編著・文一総合)、「図説日本の森林」(編著・朝倉書店)などの教科書や一般書を発表してきた。



第23期委員長 挨拶
(一般社団法人 日本森林学会)

さとう のぶこ

佐藤 宣子

日本森林学会 ダイバーシティ担当理事
九州大学大学院農学研究院 教授

ご挨拶

次期の男女共同参画学協会連絡会の幹事学会をお引き受けしました日本森林学会のダイバーシティ担当理事の佐藤宣子と申します。これまで連絡会の活動についてほとんど存じ上げないまま、会長の重責をお引き受けすることになりました。少々心配ですが、まずは連絡会の歴史と大規模アンケートの結果をしっかりと勉強したいと思います。日本森林学会では、通常のダイバーシティ担当のメンバーの他に、男女共同参画学協会連絡会幹事対応委員会を立ち上げてバックアップ体制を作っています。委員の皆さまとも協力しながら、1年間、頑張りたいと存じます。

世界の中で著しく低い女性研究者比率を改善するためには、20歳代後半～30歳代のライフイベントと研究の両立の困難さの改善が必要です。支援制度の充実とともに、年齢制限のある研究助成制度やポストなどもネックになっていると感じます。期限付きの非正規雇用の拡大は研究継続の改善ではなく、悪化させている問題だと認識しています。さらに、選択的夫婦別姓制度の導入については、国際的活躍が期待される研究者にとって死活問題です。こうした問題を社会に可視化しながら、少しでも改善の方向に向かうように努力したいと思います。皆さま、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

略歴

1961年、福岡県生まれ。1984年、九州大学農学部林学科卒業、86年九州大学大学院農学研究科修士課程林業学専攻修了、89年同博士課程修了(農学博士)。大分県きこ研究指導センター研究員、九州大学農学部助手、助教授を経て、2007年から現職。2017年～2022年九州大学農学部附属演習林長を兼務、現在、林業経済学会会長、日本学術振興会学術システム研究センター専門研究員、NPO法人九州森林ネットワーク理事長。専門は、森林学会の中で社会科学分野である森林政策学や山村経済学。著書に、『地域の未来・自伐林業で定住化を図る～技術、経営、継承、仕事術を学ぶ旅～』(2020年、全国林業改良普及協会)、『ほんとうのエコシステムってなに?』(2023年、編著書、農山漁村文化協会)など。趣味は生け花、山道運転。

ポスター発表参加一覧

加盟学協会（学協会ID順）

002	化学工学会	030	日本地球惑星科学連合
003	高分子学会	032	生態工学会
006	日本化学会	036	日本建築学会
007	日本原子力学会	037	種生物学会
009	日本女性科学者の会	044	日本技術士会
010	日本植物生理学会	045	日本植物学会
011	日本数学会	050	日本中性子学会
013	日本生態学会	059	日本内分泌学会
014	日本生物物理学会	125	日本表面真空学会
018	日本動物学会	135	日本組織細胞化学会
021	日本物理学会	137	応用物理学会
023	日本森林学会	162	日本水産学会
024	地球電磁気・地球惑星圏学会		

ワーキンググループ

女子中高生理系進路選択支援WG

大学等

広島大学

東京女子医科大学

東北大学

活動報告一覧

加盟学協会（学協会ID順）

002	公益社団法人	化学工学会	046	一般社団法人	園芸学会
003	公益社団法人	高分子学会	047	公益社団法人	日本農芸化学会
005	一般社団法人	日本宇宙生物科学会	048	一般社団法人	日本解剖学会
006	公益社団法人	日本化学会	050	日本中性子科学会	
007	一般社団法人	日本原子力学会	055	一般社団法人	日本熱帯医学会
009	一般社団法人	日本女性科学者の会	056	一般社団法人	日本応用数理学会
010	一般社団法人	日本植物生理学会	059	一般社団法人	日本内分泌学会
011	一般社団法人	日本数学会	061	日本海洋学会	
013	一般社団法人	日本生態学会	063	日本熱帯生態学会	
014	一般社団法人	日本生物物理学会	064	日本加速器学会	
015	一般社団法人	日本生理学会	105	公益社団法人	地盤工学会
016	一般社団法人	日本蛋白質科学会	116	公益社団法人	土木学会
018	公益社団法人	日本動物学会	125	公益社団法人	日本表面真空学会
020	日本比較内分泌学会		126	日本鳥学会	
021	一般社団法人	日本物理学会	135	日本組織細胞化学会	
023	一般社団法人	日本森林学会	137	公益社団法人	応用物理学会
024	地球電磁気・地球惑星圏学会		138	一般社団法人	日本流体力学会
025	日本神経科学学会		141	一般社団法人	日本数式処理学会
026	日本バイオイメージング学会		142	一般社団法人	日本植物病理学会
028	一般社団法人	日本育種学会	147	一般社団法人	日本放射線影響学会
030	日本地球惑星科学連合		148	一般社団法人	日本DNA多型学会
032	生態工学会		149	公益社団法人	日本食品科学工学会
033	錯体化学会		153	一般社団法人	軽金属学会
034	一般社団法人	日本進化学会	162	公益社団法人	日本水産学会
036	一般社団法人	日本建築学会	164	公益社団法人	日本生化学会
037	種生物学会		165	一般社団法人	日本痛風・尿酸核酸学会
041	公益社団法人	日本畜産学会	169	日本大気化学会	
044	公益社団法人	日本技術士会	172	公益社団法人	日本気象学会
045	公益社団法人	日本植物学会			

大学等

国立大学法人 広島大学

学校法人 東京女子医科大学

化学工学会における男女共同参画の取組

公益社団法人 化学工学会(男女共同参画委員会, future_inquiry@scej.org)

The Promotion of Gender Equality in the Society of Chemical Engineers

The Society of Chemical Engineers, Japan (Gender equality committee, future_inquiry@scej.org)

Abstract:

Our committee has promoted gender equality to develop and improve the research/education environment for women chemical engineers through the following activities. 1) In 2011, the Women's Prize was established and the winners of the prize will act as role models for young chemical engineers. 2) A nursery room is arranged during the autumn and annual meetings which admitted 5 people free. 3) The workshop is provided to develop a network of women chemical engineers. 4) The messages from role models about their research and carrier are introduced in our scholarly journal. 5) We joined the IUPAC Global Women's Breakfast event from 2020.

1. 学会紹介

本学会の一番重要な務めは、化学工学の学術的水準の進展を支え、人材を育成し、それらの成果を有機的に社会へ還元するための中心的学会として活動することです。そのため、日頃から産・学・官が協力できる数多くの場を提供しています。

2003年度に設立された化学工学会男女共同参画委員会は、化学工学の多様化、国際化、複雑化に対応できる人材育成とイノベーションの実現を目指して、「ダイバーシティ促進の側面から、「女性賞」や「女性技術者ネットワーク」を設立するなど、様々な活動を行っています。

2. 学会員構成 (2024年8月1日現在)

学会の特徴として、正会員に企業会員が多いということが挙げられます。個人会員に対する女性の割合は、この21年間で3%から11.4%に上昇しました。また、理事27名中女性は5名(内1名は副会長、女性割合は19%)となっております。

	男性	女性
正会員	4462名	366名 (7.6%)
学生会員	988名	333名 (25.2%)
法人会員	477社	

3. 本年度の主な委員会活動状況

1) 女性賞受賞講演とダイバーシティフォーラム開催

2011年に化学工学会女性賞を創設しました。本賞は業績に加えてワーク・ライフ・バランスの実現や男女共同参画推進への貢献を総合的に評価して女性個人を表彰するものです。年会において、受賞講演会と合わせて、著名な女性指導者と意見

交換をする場、及び女性研究者・技術者が研究発表をする場などを提供する“ダイバーシティフォーラム”を開催しています。

2) 年会・秋季大会における保育サービスの実施

2013年より、育児中の会員の大会参加をサポートするために、大会期間中の保育サービスを実施しています。2014年からは、一日5名まで費用を学会で全額負担しています。2021年度にはコロナ禍における新たな試みとしてオンライン学会時における託児サービスの費用補助を行いました。

3) 女性技術者ネットワーク

年に数回、情報交換の機会が少ない女性技術者、研究者を中心に、お互いの貴重な経験や悩みを共有して、問題解決に向けて進んでいけるように情報交換の場を設けています。企業からの参加者が多く、毎回活発な議論が行われています。

4) 学会誌での紹介

学会誌「化学工学」で連載中の「広がれ！ダイバーシティ」において、活躍する女性研究者・技術者の方にご自身の研究生活やキャリアアップについてご執筆頂き、広く会員に紹介しています。

5) Global Women's Breakfastへの参加

応用化学研究に携わる世界中の女性研究者が世界各国で時を同じくしてBreakfast Meetingという形で集い、男女共同参画の重要性を世界的に共有することを目的としたIUPACのイベントに2020年から参加しています。

高分子学会における男女共同参画推進の取り組み

高分子学会 ダイバーシティ委員会

(委員長・中 建介・京工繊、赤井日出子・三菱ケミカル、秋山恵里・花王、奥村知世・旭化成、佐藤春実・神戸大、清水 洋・奈良先端大、徐 于懿・阪大、高井まどか・東大、長田裕也・北海道大、永野修作・立教大、長谷陽子・豊田中研、Christine Luscombe・OIST)

Activities for Gender Equality in the Society of Polymer Science, Japan

The Society of Polymer Science, Japan

Abstract:

Activities of women network in the Society of Polymer Science, Japan (SPSJ), started more than 20 years ago- in the occasions of annual meetings. A day nursery school in the annual meeting began in 2002 ahead of the times, and the gender equality promotion committee was established in 2006. In order to promote the return to work after some life events, SPSJ introduced the renewed membership system for both women and men. The Seminar for the gender equality has been held each year at the SPSJ annual meeting.

1. 男女共同参画に対する学会の取り組み

高分子学会では、20数年前インフォーマルに開始された高分子女性研究者の会(WPSJ)のネットワークを中心として、女性研究者が年会や討論会時に交流を図ってきました。年会・討論会での保育室の設置は他学会に先駆け2002年より行い、男女共同参画学協会連絡会にも発足時から参加し、2006年度には男女共同参画委員会を設置しました。2024年にはダイバーシティ委員会に名称変更し、幅広い活動を行っています。

2. 今年度の活動

(1) 第16回高分子学会男女共同参画セミナー

日時：2024年6月5日(水)12:00~12:45
(第73回高分子学会年次大会併設)

「高分子学会男女共同参画セミナー」は、産官学における研究者・技術者の男女共同参画について学会として何が出来るかを考える機会として、高分子年次大会に併設で開催され、学生を含む様々な年齢層や職域から、男女を問わず多くの方々にご参加いただき、活発な意見交換が行われてきました。第16回セミナーでは、研究所ご所属の研究者から、ご自身の経験に基づく「ダイバーシティ推進に必要なもの」についてご講演いただきました。54名(男性36名、女性18名)の方にご参加いただき質問も多く活発なセミナーとなりました。

講演：育休体験記とその後

～育児休業はキャリア形成の阻害要因か？～

山田悟史(高エネルギー加速器研究機構)

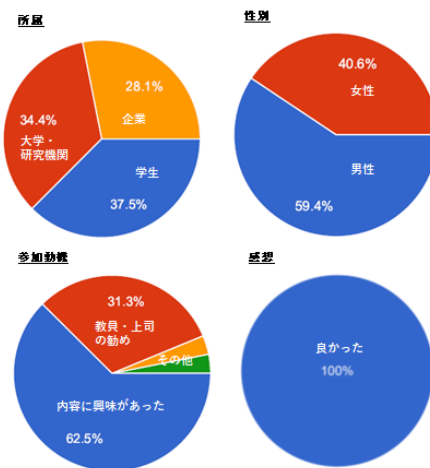


図. セミナー参加者のアンケート結果

(2) ダイバーシティ懇談会

第73回高分子討論会ではランチョン交流会を開催予定です。

(3) 学会誌「高分子」での連載「先輩からのメッセージ—仕事と私事—」

産学官さまざまな機関の幅広い年齢層の先輩から、若手研究者、学生に向けて、男女共同参画の視点を入れた温かいメッセージを送る企画です。2008年6月から掲載を開始し、これまでに延べ約220名の方に寄稿いただきました。掲載記事は学会の男女共同参画ホームページで公開しておりますので、是非ご覧下さい。

(<https://main.spsj.or.jp/danjo/shigoto.html>)

(4) 年会・討論会での保育室の設置

(5) ホームページの運営

高分子学会HP(<http://www.spsj.or.jp/>)から

日本宇宙生物科学会-活動報告2024

日本宇宙生物科学会（清水美穂・帝京大・shimizu.miho.xr@teikyo-u.ac.jp, 加藤浩・三重大・katohiro@gene.mie-u.ac.jp, 横谷香織・筑波大・yokotani.kaori.fn@u.tsukuba.ac.jp, 跡見綾・農工大・帝京大・aatomi1708@gmail.com・跡見順子・帝京大・atomi.yoriko.xr@teikyo-u.ac.jp）



Japanese Society for Biological Sciences in Space - Activity report 2024

Japanese Society for Biological Sciences in Space (Miho Shimizu・Teikyo Univ.・shimizu.miho.xr@teikyo-u.ac.jp, Hiroshi Katoh・Mie Univ・katohiro@gene.mie-u.ac.jp, Kaori Tomita-Yokotani・Univ. Tsukuba・yokotani.kaori.fn@u.tsukuba.ac.jp, Yoriko Atomi・Teikyo Univ.・atomi.yoriko.xr@teikyo-u.ac.jp)

Abstract: Japanese Society for *Biological Science in Space* is including the several study fields, astrobiology, planetary science, biology, eco-engineering and natural ecosystems. We will participate in *Japan Inter-Society Liaison Association Committee for Promoting Equal Participation of Men and Women in Science and Engineering (EPMEWSE)* under the widely scientific knowledge.

＜日本宇宙生物科学会について＞ 日本宇宙生物科学会は、太陽系や地球の歴史の解明と平行して生命の起源を探るアストロバイオロジー、地球という星で進化しその環境に適応してきた多様な生物のありさまを明らかにする惑星生物学、そして人類の宇宙への進出を実現するための生物・生態系工学、そしてそこから分かる“人間の生命・生物特性”といった広い分野を包含する科学領域です。生命がこの地球上に生まれて以来約37億年という長い歳月の間に、生物は次第に進化し様々な種に分かれ、またあるものは滅亡してきました。現存する動物や植物、菌類など様々な生物は、長い間地球上の環境の中でその生命を連続させ、各々の種を維持してきたものです。近年、地球上の重力や磁力、放射線、光、空気の組成など種々の環境要因が生命の維持や発生、生物個体や群の行動など生物の基本的な現象と密接にかかわりあっていることが次第に明らかになりつつあります。生命の持つ奥深さと美しさは、その原理と機構が科学的に解明されていくにつれて、益々深く認識されるようになっていきます。しかしその原理と機構は、地球上での実験のみでは完全に理解することはできません。生物科学の視野を広げ、宇宙環境における生物の環境因子に対する感受性と適応、生活環境の構成等を知ることは、生命の基本原理の解明にとって重要であり、基礎生物学の発展に寄与すると期待されます。また、国際宇宙ステーションの存在意義ときぼうでの科学実験は、人類の平和への寄与という大きな使命があります。

＜日本宇宙生物科学会の男女共同参画学協会連絡会における活動＞ 日本宇宙生物科学会は、男女共同参画社会への意識は高く、連絡会発足時から参加・協力しその内容を実践する努力を行っています。日本宇宙生物科学会の男女共同参画社会への取り組みは、科学を通してこれを当たり前に取り入れる基盤を確立することです。生命科学の視野を宇宙にまで広げて学際的に研究を行ない「生命の存在様式」を明らかにし人類の生命観、宇宙観の確立をめざす学会です。

＜科学者生活委員会の活動として＞ 日本宇宙生物科学会の男女共同参画委員会は、「科学者生活委員会」の中で活動しています。科学者個々の生涯を対象とし、次世代に科学や技術に携わる中で得てきた知恵

の継承を行うことが出来る場を提供することが重要と考えています。今後も宇宙生物科学における多様な生物・生命研究成果のネットワークを大いに活かし、複雑な人間社会の調和を、科学・技術を基盤にして未来の平和社会に向けて貢献していきます。

＜本連絡会における活動として＞ 科学者生活委員会は「男女共同参画に関する勉強会WG」を、生態工学会と協力して開催しています。特に、2018年から発足した「次世代応援シンポジウム」内において、「NAGOMI」会という、常にいつでも誰とでも語り合い知り合える場を発足し、昨年はNAGOMinに名称を変えて2カ月に1度程度の頻度で提供し活動しています。科学者の一生を通じた話題と世代を超えた語り合いに力を入れています。アルテミス計画や、日本の実験棟「きぼう」・国際宇宙ステーション(ISS)の2030年の終了を見据えて民間企業と協力した宇宙生命科学実験が盛んに検討されている中、関連の話題もNAGOMinに取り入れて、研究活動に役立つ情報提供も行っています。

＜日本宇宙生物科学会の男女共同参画学協会連絡会におけるこれまでの主な活動＞ 2010-2011年は第9期男女共同参画学協会連絡会の幹事としてwithコロナのオンライン時代に先駆けて会議資料の電子化を最初に行った。3.11直後の委員会であったことから、時代の要求を鑑み「いのちと健康」をテーマにしたシンポジウムを開催し、要望書を提出しました。日本学術会議発行の学術の動向に特集記事が掲載されました。プレWGの世話役として第三回大規模アンケート実施に貢献しました。その際に作成した国の政策と連絡会アンケートの対応年表はいまも活用されています。宇宙生物科学会で展開してきた「重力健康科学」をふまえ、25期学術会議小委員会の活動として第6期科学技術・イノベーション計画に盛り込まれた総合知および健康・社会参加寿命延伸を視野に入れた人間中心の科学と教育についてシンポジウム・会合を開催し、ムーンショット型研究開発事業のPD等、国が主導する大型プロジェクトの牽引役に男女比率の偏りがあることを含めて科学技術・イノベーション事務局長とも意見交換を行いました。宇宙戦略基金の公平な分配にも注視しています。＜日本宇宙生物科学会ロゴマーク＞(右上) 会員から公募で選ばれたロゴマークです。宇宙の中に青い地球が浮き彫りになります。

日本化学会における男女共同参画推進委員会の取り組み

男女が共に働く豊かな多様性社会



公益社団法人日本化学会(男女共同参画推進委員会, info@chemistry.or.jp)

Activity of the Gender Equality Committee (GEC) in the Chemical Society of Japan (CSJ)

The Chemical Society of Japan (Gender Equality Committee, info@chemistry.or.jp)

Abstract: CSJ is a key society for all fields of chemistry. The gender equality committee was established in 2002 and aims to realize a gender-equal society in chemistry field. In 2003, CSJ decided a positive action plan to increase the ratio of female members both on the board and committees up to 20% by 2010, and achieved a female president and vice presidents. The committees have held annual symposium, contributes to encourage not only female chemists, but also young members of the CSJ. The CSJ Award for Young Female Chemist (up to 2 people each year) was established in 2012. This award is granted for significant research results in fundamentals and applications of chemistry and for contribution to gender equality activities.

1. 日本化学会とは

日本化学会は明治11年(1878年)に創立され、化学と化学工業の全分野を網羅する基幹学会である。正会員は15,428名(うち女性1,402名)、役員31名(うち女性4名)である(2024年7月現在)。

2. 男女共同参画推進委員会とその活動

2002年7月に男女共同参画学協会連絡会を発足させた中心学会の一つ。同年9月に本学会内にも男女共同参画推進委員会を発足させ、2003年1月の理事会にて、下記のポジティブアクションが承認、その実現を目指して活動を行ってきた。

1)理事会、支部、部会、委員会等における女性役員の比率が2010年までに20% になるように女性の登用に努める。

2)日本化学会が主催する学会、講演会等において基調講演や招待講演者の中に 女性科学者を含め、ロールモデルとして示す。

3)優れた女性化学者を顕彰する賞を創設する。

そして、2005年度より女性理事の会長指名枠を新設し、女性登用を推進。2018-2019年度会長に川合真紀氏(分子研所長)が就任し、初めての女性会長が実現した。副会長としても、2019-2020年度に加藤昌子氏(北大)が初めて、2022-2023年度に相田美砂子氏(広大)が就任している。

2024年度は委員12名(女性7名)。委員長は三浦佳子(九州大学)。

3. 女性化学者奨励賞

2013年度に創設。学術研究に傑出した業績と貢献があり、社会貢献にも努め、国内外での研究活動・交流を通して、我が国の女性化学者の地位向上に寄与し、科学者・技術者を目指す学生や若手研究

者の目標となる若手女性化学者(40歳未満)を表彰。2023年度第12回の受賞者は、新津藍氏(理研)「膜ペプチド理論設計による生体分子材料の開発とその動的機能・構造」、村田慧氏(東大生研)「有機金属錯体を用いる可視・近赤外光反応の開発」。これまでに24名を表彰しており、ロールモデルとして活躍いただいている。

4. IUPAC世界女性朝食会(2024)

日本化学会と化学工学会では3年前より共催で、IUPACの世界女性朝食会(時間は昼食時間)に、日本全体で連携した形で参加しています。化学系の研究者や技術者、学生たちが食事やティータイムの時間を使って気軽に集まり、意見や情報交換などのネットワークづくりを行うことを目的としています。今回の時間は2024年2月27日(火)12時00分~13時30分、北海道、東北、関東、関西(近畿)、中国・四国、九州の6つのサイトを拠点とし、オンラインでの交流会を行いました。12:00-13:00 各サイトでの交流会(好きなサイトに参加可能)、13:00-13:30 全体交流会(各サイトの世話人などの情報共有の場)

5. 女子中高生夏の学校

本委員会は、学協会連絡会の女子中高生理系進路選択支援WGの世話役団体を長年務めている。そのWGの活動でもある女子中高生夏の学校2004年が8月10日~12日開催された。化学会は、実験では、昨年に続き「キッチンサイエンス」を実施し、ポスター・キャリア相談には企業から委員2名と大学から委員名が参加した。

※日本化学会男女共同参画推進委員会の活動:

<http://www.chemistry.or.jp/activity/cooperation>

日本原子力学会ダイバーシティ推進委員会 — 活動報告2024

一般社団法人日本原子力学会(ダイバーシティ推進委員会、kaiin@aesj.or.jp)

The AESJ Diversity Promotion Committee - Activity report 2024

Atomic Energy Society of Japan (The AESJ Diversity Promotion Committee, kaiin@aesj.or.jp)

The Society was founded on February 14, 1959. We are pursuing academic and technical progress related to the peaceful use of nuclear energy, contributing to the promotion of R&D in Japan, and working in accordance with the purpose of establishment to strive for mutual awareness among members. Since May 2017, as the current committee, it is not limited to gender equality, but also recognizes the diverse values of a wide range of academic members and builds an environment where further development is possible.

1. 学会紹介

本会は1959年2月14日に創立され、原子力の平和利用に関する学術および技術の進歩を図り、我が国の研究開発の振興に寄与するとともに、会員相互の啓発に努めていくという設立の趣旨に沿って活動しています。2022年10月には、政府のGX実行会議の方針発表を踏まえ、本会の理事会声明として、「GXに向けた社会への貢献について」を発信しました(<http://www.aesj.net/gx>)。ダイバーシティ&インクルージョンの推進に取り組むことで、GXに関する多様な視点やアイデアを生み出す創造性・適応性を高めることができ、GXに関する多様なニーズや要望に応える柔軟性・適応性を高めることも可能であると考えられます。ダイバーシティ&インクルージョンの推進は、当会全体で取り組んでいく課題としています。

2. 学会員の構成(2024年9月4日現在)

本会には19部会、5連絡会があり、原子力・放射線分野の多くの専門領域から構成され、また、全国8地方支部においても独自の活動を展開しています。会員種別及び総数については下表に示す通りです。本会のダイバーシティ推進はまだまだ進んでいない状況にあります。女性比率の向上や小・中・高等学校の先生方を対象とした教育会員数の増加を目指し、引き続き、あらゆる方に参加いただける学会としての活動・体制づくりを進めていきます。

表 会員種別ごとの会員数

会員種別	会員数	女性会員数(比率)
正会員	5,476名	328名(6.0%)
学生会員	371名	45名(12.1%)
推薦会員	20名	1名(5.0%)
教育会員	6名	1名(16.7%)
総数	5,873名	375名(6.4%)

3. 主な活動状況

本会ダイバーシティ推進委員会は、2003年1月に男女共同参画ワーキンググループとして発足して以来、本会の中での男女共同参画に関する啓発活動、提言を行ってきました。2007年6月には委員会に昇格し、2017年5月よりダイバーシティ推進委員会に名称を変更して、女性会員の比率向上、委員会での活躍促進、若手研究者のキャリア・サポート等、効果的なダイバーシティ&インクルージョンについて検討を行っています。

また、発足から20年経った2023年1月、「ダイバーシティ&インクルージョン推進のためのアクションプラン」を策定しました。このアクションプランに沿って、新たなステージの活動を進めていきたいと考えています。

このほか、主な活動について紹介します。

1) 年会・大会でのポスターセッション

2013年春の年会から、ダイバーシティ推進に関する様々なテーマに着目した企画セッションを実施しています。

2) 女子中高生夏の学校

「ポスターとキャリア相談」と「実験・実習」という形で出展し、原子力・放射線の面白さを中高生に伝えています。

3) ロールモデル集の制作

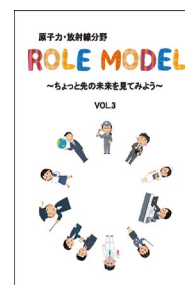
原子力・放射線分野について具体的に仕事のイメージを持ってもらうことを目的として、「ロールモデル集」を制作しています(2017年第3版)。

4) 情報発信

ホームページのほかに Facebook を利用した情報発信を始めています。ぜひご覧ください。

<http://www.aesj.or.jp/~gender/>

<https://www.facebook.com/aesj.diversity/>



ロールモデル集(2017年第3版)



一般社団法人日本女性科学者の会活動報告 2024

一般社団法人日本女性科学者の会 会長：梅津理恵（東北大学金属材料研究所 教授）
事務局：仙台市青葉区片平 2-1-1 東北大学金属材料研究所
附属新素材共同研究開発センター内
E-mail : office@sjws.or.jp Tel & Fax : 022-215-2199

Activity Report 2024 of the Society of Japanese Women Scientists

General incorporated association The Society of Japanese Women Scientists (SJWS), President Rie Umetsu,
Institute for Materials Research, Tohoku University, 2-1-1 Katahira, Aoba-ku, 980-8577 Japan
E-mail: office@sjws.or.jp Tel & Fax: 022-215-2199

Abstract :

The Society of Japanese Women Scientists (SJWS) was established in April 1958 to foster friendship among female scientists, facilitate knowledge exchange among them in various fields of research and provide support during their career with the ultimate goal of advancing world peace. There are a wide range of members in SJWS, including researchers in science, engineering, medicine, pharmacy, and agriculture, belonging to universities, research institutions, as well as researchers and engineers from companies. SJWS is providing opportunities to facilitate the exchange of knowledge in various fields of academic researchers particularly for women scientists.

■設立経緯と沿革

1958年「女性科学者の友好を深め、研究分野の知識の交換を図り、女性科学者の地位の向上を目指すと共に、世界の平和に貢献すること」を目的とし、前身である日本婦人科学者の会が設立されました。1996年6月に日本女性科学者の会 (SJWS) と改名し、現在、会員数は約270名ながら理学・工学・医学・薬学・農学等を専攻する大学や研究機関に所属する研究者、企業の研究者・技術者など多岐に渡り、幅広い科学・技術分野をカバーしています。

■活動

1. 奨励賞・功労賞贈呈式

2024年6月2日(日)に、令和6年度(第29回)SJWS奨励賞・功労賞贈呈式、および奨励賞受賞記念講演会が、お茶の水女子大学(ハイブリッドによる配信)にて開催されました。

冒頭会長の挨拶の後、内閣府科学技術イノベーション推進事務局事務局長・松尾泰樹様と内閣府男女共同参画局局長・岡田恵子様より祝辞を頂き、その後贈呈式と記念講演会を執り行いました。終了後は交流会も開催され、受賞者を囲んで和やかな時間を過ごしました。

<第29回 奨励賞3名>

大谷 美沙都氏(東京大学大学院新領域創成科学研究科・教授(応募時准教授))「植物の可塑的な細胞増殖・分化能制御の分子基盤の解明とその応用展開」
建石 寿枝氏(甲南大学フロンティアサイエンス研究科・准教授)「非二重らせん核酸に調節される遺伝子発現機構の解明とその制御法の開発」
焼山 佑美氏(大阪大学大学院工学研究科・准教授)

「フルオロスマネン類が示す結晶内ダイナミクスと誘電特性に関する研究」

<第29回 功労賞1名>

大倉 多美子氏(第7代日本女性科学者の会会長、元慶應義塾大学 医学部先端医科学研究所、元お茶の水女子大学生 活環境教育研究センター)

2. イベント

2023年10月3日(火)にオンラインにてJSTの創発的研究支援事業の説明会を行い、希望者には推敲支援も行いました。

3. 会誌等の発行

日本女性科学者の会学術誌を刊行(年1回/2011年より電子化)し、日本女性科学者の会NEWSを発行(年2回)しました。

4. 女子中高生夏の学校(夏学)への参加

男女共同参画学協会連絡会活動を本会の重要な活動として位置付け、夏学WG等に積極的に参加しています。2024年8月10日(土)-12日(月)に国立女性会館にて開催された夏学に参加し、実験・実習やポスター・キャリア相談等を担当しました。

5. 第14回学術大会

本年度は関西・中四国ブロックが担当し、10月13日(日)に甲南大学フロンティアサイエンス学部ポートアイランドキャンパスにて「～相利共生～サイエンスでつなげる未来」をテーマとして開催されます。第一部は7名の招待講演者による講演、第二部は基調講演、第三部はポスター発表です。なお、ポスター発表では、若手・学生優秀発表賞を授与する予定です。これからも若手および次世代女性研究者の育成に取り組んでいきます。

日本植物生理学会 2024年活動報告

日本植物生理学会 (濱田隆宏・岡山理科大学・hama.micro@ous.ac.jp)

Activity Report 2024 of JSPP

The Japanese Society of Plant Physiologists; JSPP (Takahiro Hamada · Okayama University of Science)

Abstract: The Gender Equality Committee of the Japanese Society of Plant Physiologist (JSPP) was established in 2011, in order to foster female researchers and improve the research environment. This year 2024, we held a luncheon seminar at the Annual Meeting in March 2024. We also conducted a free childcare service for Annual Meeting participants at the Annual Meeting site. Both of these events provided good opportunities for JSPP members to think about gender equality activities.

1. 男女共同参画委員会セミナーの開催

2024年3月17日～19日に行われた第65回神戸年会において「そうだ 会社をつくろう」と題したこれまで男女共同参画セミナーでは取り上げることがなかった起業をテーマとし、自分で会社を作るという新たなキャリアパスの可能性を議論しました。当日は若手からシニアまで幅広い年代の学会員が参加し、100名以上の参加がありました。講師として、アクプランタ株式会社 CEO の金 鍾明氏をお招きし、「社会実装のために起業する科学者に求められること」と題した講演をおこなっていただきました。講演では、研究者とは違った起業家としての視点の大切さ、研究の新規性ではなく社会的ニーズを把握することの重要性、資金調達についてなど、起業の経験に基づいた実践的なお話を聞くことができました。研究から得たアイデアを、実社会におけるニーズに応えるソリューションとして、投資家にアピールをして資金を調達するやり方や、仲間を作って仕事を広げていく方法など、普段聴くことのできない起業家ならではのご経験を教えてくださいました。また、何よりも楽しんで仕事をするというマインドを忘れずに、生き生きと会社を営まれていることが伝わり、植物生理学会員のキャリアの選択肢として、起業の可能性を示していただきました。ご講演のあとには、金氏に加えて、パネリストとして小倉里江子氏(横浜バイオテクノロジー株式会社取締役研究開発部長)、野田口理孝氏(グランドグリーン株式会社技術顧問、京都大学教授)、および山本篤氏(ホンダ技研株式会社・東京大学

大学院博士課程社会人学生)をお迎えし、起業についてのパネルディスカッションをおこないました。

(2) 保育室の設置について

神戸年会では年会会場となった神戸国際会議場に保育室を設置し、保育サービス会社に保育士の派遣を依頼しました。保育室の設置に関しては、事前調査で大方の人数を把握し、その後実際の本登録が行われています。神戸年会の事前利用希望調査(12月)では16名の参加者から利用希望が出され、本登録(2月)を行った参加者が10名(登録子供人数13名)、実際の利用者は8名(子供人数11名)となりました。

昨年度からの変更点としては、子供達への食事サポート(食事は保護者が用意)が実施されました。これは昼の時間帯に委員会の担当や会議、ランチョンセミナー、研究打ち合わせがある参加者からの要望に応えたものです。また子供の体調が急に悪化して学会の現地参加を諦めた参加者もおられましたが、今回の神戸年会ではオンライン参加が可能でした。また遠方からの子連れの出張が大変であるために、当初からオンライン参加を予定している方もおられたようでした。昨今、運営の労力や経費の問題から対面とオンラインのハイブリッド開催を中止する学会も数多くありますが、日本植物生理学会では、オンラインでも参加可能な体制をサポートしていきたいと考えています。

日本数学会の男女共同参画社会推進への取り組み
日本数学会(嶽村智子・奈良女子大学・sm18031@cc.nara-wu.ac.jp)

Activities for the Promotion of Gender Equality in Mathematics

The Mathematical Society of Japan (Tomoko TAKEMURA・Nara Women's University)

Abstract: This report gives a summary of activities conducted by the Committee on Gender Equality of the Mathematical Society of Japan. The committee is involved in advancing gender equality in Japan, within the field of Mathematics as well as society as a whole. As a regular outreach activity for middle and high-school girls, MSJ participated in the “Natsugaku”, a summer school for girls with experiments, practice sessions and poster presentations. In addition to outreach, the committee has also been involved in helping with child care, in particular, setting up a nursery room at the annual meeting of the MSJ. Moreover, the committee has also organized networking and information sharing sessions at the annual meeting of the MSJ, one for female researchers and students in mathematics, another for researchers and students in mathematics balancing research/study with caring for children.

◆男女共同参画社会推進委員会の歴史

1877年設立の東京数学会に始まり、日本数学会は140年余の歴史を有しています。現在、会員総数は約5000名、その内の女性会員比率は7%です。日本数学会は2002年に男女共同参画学協会連絡会準備会に参加し、2004年9月に「男女共同参画社会推進委員会」を正規委員会として設置しました。以降、積極的に男女共同参画推進に取り組んで来ましたが、2019年10月佐々田槇子氏(東京大学)、坂内健一氏(慶應義塾大学)によって公開されたレポート「日本の数学界における男女共同参画の現状と提案」により、日本の数学界は男女共同参画について、課題を多く抱えていることが明らかとなっています。

◆男女共同参画学協会連絡会における活動

日本数学会は、男女共同参画学協会連絡会設立時から正式加盟学会として参加しています。2013年には平田典子氏(日本大学)を委員長として12期幹事学会を務め、2015年の政府各所への要望書提出では、幹事学会及び提言・要望書WGメンバーと協力して活動しました。今後も、要望書や基本計画の理念が結実するよう、学協会の一員として積極的に活動を継続していきたいと考えています。

◆「女子中高生夏の学校」への参加

日本数学会は、女子中高生夏の学校を主催するNPO法人女子中高生理工学系キャリアパスプロジェクトの賛助会員になっています。日本数学会として実験「目に見えないちょっと先を予測してみよう!」、ポスター展示「1+1が0になる!? ~モジュールで広がる数字の世界~」、キャリア相談「進路・キャリア相談カフェ」に参加し女子中高生へ数学の魅力を伝えました。

◆学会開催時の託児補助

例年、学会開催時(3月、9月)に、会場大学の一

室を借用した保育室の設置を行っています。今後、いかに子育て世代を支援して行くか、議論を重ねて行く予定です。

◆学会開催時の懇談会の企画・シンポジウムの共催

これまで学会開催時(3月、9月)に女性研究者の交流・情報交換を目的とした「女性だれでも懇談会」に加え、子育て世代の数学者の交流・情報交換を目的とした「数学者の、研究と子育て懇談会」を開催しました。今後も継続的に開催予定です。上記の企画に加え学会開催時(9月)に「数学・数理科学の教育・研究の現状-次世代人材育成に向けて-」を教育委員会主催・男女共同参画社会推進委員会共催で開催しました。

◆データの収集

数学の研究・教育における男女共同参画社会の推進に関する調査のため、より広い統計データの収集・公開を検討しています。

日本生態学会 男女共同参画活動報告

日本生態学会キャリア支援専門委員会

Recent activities for the gender equality and encouraging young scientist career in Ecological Society of Japan (ESJ).

Committee of supporting career, Ecological Society of Japan

Abstract: The Ecological Society of Japan (ESJ), established in 1953, has aimed at advancing research in ecology while promoting gender equality and supporting young scientists. Since 1999, the annual meeting has included a nursery. In 2008, the society began holding forums to support gender equality and the careers of young scientists and also started participating in summer science educational programs in ecology for female high school students. In October 2010, the Committee for Supporting Careers was founded to further these goals of gender equality and career support for young scientists.

日本生態学会は、1953年に設立され、生態学の進歩と普及をはかることを目的とし、学術雑誌の発行や年次大会の開催の他、自然保護に関する内閣への要望書の提出など、さまざまな活動を展開している。2023年度の会員総数は3660人（うち女性913人、比率21.0%）である。男女共同参画に関する活動としては、2007年の第5回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムから学会として参加し、男女共同参画学協会連絡会の主催する大規模アンケートに協力している。2010年3月には、男女共同参画や若手研究者のキャリアパスの問題に特化した専門委員会を新設し、その活動を強化することが総会で決議され、2010年10月にキャリア支援専門委員会が発足した。男女共同参画および若手研究者のキャリア支援に関する活動を一体的に行っている。

◆**全国大会開催時における託児所の設置.** 日本生態学会では全国大会を年1回開催しており、毎年約2000人の参加がある。大会開催時における託児所の設置は、1999年から始まった。当初は有志により設置であったが、続く2000年では大会本部により設置され、2001年では学会として継続して託児室を設置するという方針が全国委員会と総会で確認された。以後、コロナ禍をはさみ基本的に毎年開設されており、利用者数も増加傾向にある。2021年のオンライン学会では、学会参加者の居住地で利用した託児料金の一部を補助した。

◆**全国大会開催時におけるファミリー休憩室の設置.** 2013年より全国大会時に子連れの大会参加者が予約なし・無料で利用できる「ファミリー休憩室」を設置している。オムツ替えや授乳の他、親子での昼ごはんや、おもちゃや絵本で遊ぶこと等ができる。

◆**「女子中高生夏の学校～科学・技術・人との出会い～」への参加.** 2008年より、野外観察を中心とした実習を提供している。河川敷や開催地である国立女性教育会館敷地内などで、身近な自然の生物・生態の観察をテーマとして実施してきた。2024年はポスター発表、進学&キャリア相談、実習「ミニ科学者になろう」に参加した。

◆**男女共同参画と若手キャリア支援のためのフォーラムの開催.** 2008年より毎年、全国大会時に男女共同参画と若手支援をテーマにしたフォーラムを開催している。2023年は以下のフォーラムをオンラインで開催した。1) U05 3月17日 12:15-13:45 Room B 生態学分野のダイバーシティ:誰もが参加しやすい学術空間の実現に向けて

Diversity, Equity & Inclusion in Ecology: Creating an Academic Space for Everyone

2) 男女共同参画学協会連絡会の幹事学会(2022年11月～2023年10月)の活動報告(会長直轄の男女共同参画タスクフォースから数名)

◆**キャリア支援相談室の設置及び CPD 認定プログラム参加・受講証明書の発行.** キャリアパス多様化促進の一環として、2012年より全国大会において学会員向けの就職相談会や企業パンフレットの展示を行っている。2022年の大会では、キャリア支援ランチセッションを開催した。また2022年からいくつかの集会を建設コンサルタンツ協会(JCCA)のCPD認定プログラムとし、希望者に参加・受講証明書を発行した。

◆**日本生態学会は多様性・公平性・包摂性を重要な価値と位置づけ、その実現に向けて積極的に取り組むことを宣言するため、2024年3月18日付で、日本生態学会 ダイバーシティ推進宣言をホームページに掲載した。**

日本生物物理学会における男女共同参画および若手支援の取り組み

日本生物物理学会(須藤 雄気・岡山大学, *sudo@okayama-u.ac.jp [学会理事])

Efforts for Promoting Equal Participation of Men and Women and for Encouraging Young Scientists in the Biophysical Society of Japan

*The Biophysical Society of Japan (Yuki Sudo・Okayama Univ. *sudo@okayama-u. ac. jp, [Board Member.]*

The Biophysical Society of Japan (BSJ) forms a committee to plan and organize the activities of the society related to the promotion of equal participation of men and women and for encouraging young scientists. This year, the committee will 1) organize the symposium to discuss equal participation of men and women and support young researchers, 2) organize the briefing session to support job hunting for young researchers, 3) select winners of the early career award in biophysics, and 4) participated in the summer school for girls at high school presenting a poster.

(一社)日本生物物理学会では、男女共同参画と若手研究者の次世代人材育成を重要課題として位置付けている。そのため、理事会内に男女共同参画・若手支援委員会を組織し、学会としての活動を実施している。また、男女共同参画において指摘される問題の多くは、男女を問わない若手研究者全体の研究環境に関する問題であるという認識から、委員会名に「若手支援」を入れ、若手全体を支援することに力を注いでいる。令和6年度には、以下の4点の活動を計画している。

- 1) 男女共同参画・若手支援シンポジウム開催
- 2) キャリア支援説明会&相談会の開催
- 3) 学会年会における若手奨励賞の実施
- 4) 女子中高生夏の学校における展示

1)男女共同参画・若手支援シンポジウムの開催

当学会では、毎年年会でシンポジウムを開催している。シンポジウムは、通常、学会の費用負担によるランチンセミナー形式を取り、毎回多数の参加者を集めている。

昨年度の年会では、2023年11月16日に、「ハイブリッドイベントのベストプラクティスを考える」というタイトルでシンポジウムを開催し、様々な立場や経験をお持ちの生物物理学会に所属する研究者4名およびシステム開発を基盤として学術分野に貢献するIT企業1名に登壇していただき、パネルディスカッション形式で今後のハイブリッドイベントの在り方について議論することで、ハイブリッドイベントのベストプラクティスを考える機会とした。

2)キャリア支援説明会&相談会の開催

当学会では、若手研究者や学生の今後のキャリア形成の一助となるように、年会時にキャリアコンサルタントとして(株)アカリクの方を迎えて、博士課程の大学院生、ポスドク向けの就活ガイダンス、及び就職相談会を開催している。昨年度も、年会(2023年11月14日-16日)@名古屋において開催した。

3)年会における若手奨励賞・学生発表賞の実施

当学会では、平成17年度より、年会時の若手招待講演で優れた研究発表を行った35歳以下の研究者に対して若手奨励賞を授与している。平成28年度からは、若手奨励賞に加え、それ以外の招待講演者に授与する「若手招待講演賞」を新設した。また、応募資格を改訂し、出産等のライフイベントを経験した方の応募条件を緩和している。さらに、平成28年度の年会から「学生発表賞」を、平成31年度からは高校生・高専生の発表に対する表彰を行っている。

4)女子中高生夏の学校における展示

当学会は、例年“女子中高生夏の学校(夏学)”にポスターを出展し、女子高校生、高校の先生などに対して、学会の活動を紹介している。ポスター作成には、「生物物理若手の会」メンバーの協力を得て、大学院学生会員による説明も行っている。本ポスター説明により、生物物理の研究分野の紹介やタンパク質や細胞の働き等の具体的な研究テーマに触れ、理解を深めてもらっている。また、職業としての研究者や、理系への進路相談など、今後の進路を考えるきっかけになっている。

活動報告：日本生理学会男女共同参画推進員会

日本生理学会男女共同参画推進委員会(西谷 友重・和歌山県立医科大学・073-441-0629)

The activity reports of “Promotion of Gender Equality” Committee and “Women in Physiology of Japan (WPJ)” in the Physiological Society of Japan (PSJ)

The Physiological Society of Japan (Tomoe Nishitani · Wakayama Med. Univ. /073-441-0629)

Abstract: A survey of past luncheon symposium participants indicated that one of the most interesting topics was creating a gender-neutral environment. While other countries have advanced gender equality efforts in recent years, Japan lags behind due to insufficient gender education. In the 101st PSJ, we held a luncheon symposium entitled “Gender Equality for Men and Prospect for the Future by Young People -What is a gender-neutral environment where men and women can live together comfortably?”. We have also implemented a "Life Event Support" program, to encourage researchers facing various life events to attend the PSJ Annual Meeting. Several new initiatives were introduced this year, including full support for the use of the kid's room at meeting, partial travel expense support for accompanying pre-school children, and entry cards for accompanying family members, all of which were very well received. WPJ organized a symposium with four women presenters, and the Aya Irisawa Award selected one mid-career and one young individual. We continue to propose "Strategies for Enjoying Both Career and Life" for the next generation.

第101回大会ランチンシンポジウム報告:本シンポジウムは、学会員アンケート結果から「男性・女性研究者とともに働きやすい環境づくり」に関する興味が高かったことから企画された。「男性にとってのワークライフバランスと若者たちの思い～男女共に共存できる環境とは～」と題して、男子大学院生や男性研究者からみた日本の男女共同参画について、それぞれ堀井鴻佑氏(近畿大学・大学院生)と椎名貴彦氏(岐阜大学・教授)からご講演いただき、また、社会全体としてのアプローチの一つとしての里親制度について田北雅裕氏(九州大学・准教授)にご講演いただいた。会場には約100名が参加し、会場からは多くの質問が挙がり活発な討論が繰り広げられた。また、参加者への事後アンケートの集計結果から、若い世代(20代)は他の世代に比べて、「学校等でジェンダー教育を受けている」と回答した者が多いことがわかった。本アンケートの集計結果は日本生理学会のHPへ配信し学会会員へ周知させた。
ライフイベント支援事業: 学会参加促進のための経済支援について、今年は予算を 2.5 倍に拡大して実施した。これまでの大会参加中にかかる託児費用・介護費用支援に加え、本年度新たに

1)大会設置託児室の完全無料化、2)同伴する未就学児の旅費の一部支援を開始した。大会設置託児室は3日で延べ12名、交通費2名、学童費1名分の支援ができた。申請に関し、証明書や切符などの写真をメール添付で送信するという簡便な申込方法に変更した。その他、「家族カード」(同伴家族の入室許可証)も発行し、大会終了後に行ったアンケートでも全て大好評であった。

学協会連絡に関する活動: 2026年度に改正される各基本計画の策定に向けて、学協会連絡会では提言要望活動を実施中である。本推進委員会も、引き続き活動に協力しており、本年度も本委員会から委員が参加している。特に科学技術分野における男女共同参画を推進するべく、今後も活動を継続していく。

生理学女性研究者の会(WPJ)の活動:大会シンポジウム、入澤彩賞:第101回大会では「生命現象のステートシフト機構を探る」と題して、女性4名の講演者によるWPJ後援シンポジウムを開催し、講演後に親睦会を開催した。入澤彩賞では中堅枠1名、若手枠1名が受賞した。2枠はともに、研究の独創性と業績、ライフ・ワークバランス、学会及び社会貢献の3点を考慮して選出された。

男女共同参画活動報告

日本蛋白質科学会

(担当役員：村田武士(千葉大)、藤間祥子(奈良先端大)、日本蛋白質科学会男女共同参画ワーキング)

Activity Report of Working Group on Gender Equality

Protein Science Society of Japan

Takeshi Murata (Chiba Univ.), Sachiko Toma (NAIST), Working Group on Gender Equality of Protein Science Society of Japan)

The Protein Science Society of Japan (PSSSJ) was established on 1 April 2001, following the merger of three organizations: the Protein Engineering Society of Japan, the Forums on Protein Structures and the Principles of Protein Architecture. The society has approximately 1,260 members. Since 2003, we have invited lecturers from a range of backgrounds to present at our annual conference. This year, we focused on the diverse career paths that a doctorate can open up, as well as the social contribution possibilities that come with obtaining a doctorate. We were pleased to have two lecturers provide these topics for discussion. In addition, PSSJ has provided childcare services in conjunction with the annual conference since 2005.

日本蛋白質科学会は、2001年4月に設立された、現在会員約1260名の学会です。2024年度は学生会員と一般会員の女性の割合は、それぞれ約32%と13%です。男女共同参画学協会連絡会には、2003年11月から参画しています。

2003年に、男女共同参画ワーキンググループ(後藤祐児(阪大)、白木賢太郎(筑波大)、田口英樹(東工大)、長野希美(産総研)、山縣ゆり子(熊本大))で、年会を中心とした活動に取り組み、その後メンバーが増えてきました。現在は下記のメンバーで活動しています。

赤澤陽子(産総研)、河合(野間)繁子(千葉大)、北尾彰朗(東工大)、栗栖源嗣(阪大)、清水敏之(東大)、白木賢太郎(筑波大学)、鈴木智香子(第一三共)、茶谷絵理(神戸大)、藤間祥子(奈良先端大、R6/R7年度担当役員)、禾晃和(横浜市大)、光武亜代理(明治大)、本野千恵(産総研)、姚閔(北大)、村田武士(千葉大、R5/R6年度担当役員)、谷中冴子(東工大)、養王田正文(東京農工大)(五十音順・敬称略)

1. 第24回年会(2024年)での男女共同参画活動

ワーキンググループでは、学会の年会にあわせて、2003年から毎年、学会内外で活躍する講師を招き、男女共同参画や若手の活躍などに関する講演やパネルディスカッションを主催しています。ランチオンセミナーとして開催しており、2016年からは若手育成との共催で行っています。例年100名以上の参加者があります。2024年度年会は以下に記載する内容でワークショップ(ランチ

ンセミナー)を行いました。

日程：6月13日(木) 11時15分-12時05分

司会：村田武士(千葉大)

話題提供：正木法雄(JST助成事業推進部)

澄田裕美(京都大学 医生物学研)

概要：「若者(特に女性)が博士号を取得しなくなるセミナー」

過去20年間にわたり、日本の博士号取得者数が顕著に減少しました。特に、女性の博士号取得者は全体の約20%に留まり、この数字は日本の高等教育や研究分野におけるジェンダー不均衡の深刻さを示しています。この現状を踏まえ、若者(特に女性)が高等教育へ進むことの価値と魅力を再発見する機会の提供を目的としました。JSTの正木様からは、次世代研究者挑戦的研究プログラム(SPRING)を含む博士人材の育成・支援施策と博士人材のキャリアなどについて話題提供いただきました。京大の澄田様からは、自身のキャリアパスや現在の研究支援業務の紹介と、実体験に基づいた博士号取得のメリットをお話いただきました。その後、質疑応答と総合討論を行いました。

2. 男女共同参画学協会連絡会活動への参加

A) 運営委員会への参加：担当役員が主に参加

B) 第20回シンポジウムへの参加

日時：令和6年10月12日(土)

場所：中央大学(ハイブリッド開催)

村田武士(千葉大学)がオンラインで参加

公益社団法人日本動物学会 男女共同参画活動報告

日本動物学会男女共同参画委員会 担当理事&委員長: 黒岩 麻里・北海道大

委員(第12期): 矢澤 隆志・旭川医大、佐藤 陽子・鳥取大、中内 祐二・山形大、鈴木 大地・筑波大、小柴 和子・東洋大、柴 小菊・筑波大、広瀬 慎美子・東海大、吉田 薫・桐蔭横浜大、佐倉 緑・神戸大、山下 高廣・京都大、石川 由希・名古屋大、関口 俊男・金沢大、長田 洋輔・岡山理科大、定本 久世・徳島文理大、濱生 こずえ・広島大、御輿 真穂・岡山大、金子 たかね・九州産業大、萩野 由紀子・九州大

事務局: zsj-society@zoology.or.jp

Annual report on the activity of the Zoological Society of Japan for equal participation of men and women in science

The Zoological Society of Japan

The Zoological Society of Japan (ZSJ) is an academic society whose purpose is to contribute to the development and dissemination of a wide range of zoological studies. It has been 24 years since ZSJ held the 1st annual meeting to discuss diverse issues facing women scientists. The annual meeting is now called “ZSJ Meeting on Equal Participation of Men and Women in Science”, providing a forum to discuss wider issues concerning work life balance and research activity of scientists irrespective of gender.

<公益社団法人日本動物学会(ZSJ)について>

本学会は2012年に公益社団法人となり、2018年に140周年を迎えた。動物科学研究の発展と普及を目的とし、すべての動物を対象に、すべてのアプローチを包含しつつ「生物の共通原理と多様性を理解する」ことを目指す学術団体である。

2001年に将来計画委員会で男女共同参画事業を開始し、第1回女性研究者懇談会を開催した。2003年から男女共同参画委員会が独立し、2008年より男女共同参画担当理事を配置し、2013年から大会時の企画は男女共同参画懇談会となった。

<男女共同参画の活動>

女性研究者奨励OM賞の公募

2001年に女性会員の動物科学研究を奨励する賞を設立して表彰してきたが、2012年から対象を「動物科学を研究するすべての女性研究者」に拡大した。

【2024年度の受賞者】

木矢 星歌

金沢大学特任研究員(学振特別研究員 RPD)
「活動依存的なドーパミン神経の機能変化による記憶制御機構」

松村 律子

山口大学時間学研究所助教(テニュアトラック)
「哺乳類の概日時計分子機構における新規機能ユニットに関する研究」

学会組織

動物学会男女共同参画委員会の活動

年次大会時の男女共同参画懇談会の開催

2001年より年次大会において男女共同参画懇談会を実施してきたが、今年度で24回目を数える。今年度の長崎大会(於長崎大学文教キャンパス)における懇談会は、「ワーク・ライフ・バランスを考える」と題して、本委員会とキャリアパス小委員会の合同で、ランチョンセミナーとグループディスカッション形式で実施することになった。なお、長崎大会は、妊娠、育児、介護、体調不良等によりオンラインでの参加が難しい場合に、オンラインにて参加できるようになっている。グループディスカッションはこれまでの具体的なテーマからより拡大したテーマとして、【働き方と日々の生活(キーワード:テレワーク, 育児, 介護)】【勤務地(キャリアパス)と日々の生活(キーワード:単身赴任・共働き, 育児, 介護)】【研究と日々の生活(キーワード:研究, 授業, 家事, アルバイト)】の3グループにわかれて行う予定である。

日本比較内分泌学会 男女共同参画活動報告
日本比較内分泌学会 ダイバーシティ&インクルージョン委員会
(岡田令子・静岡大学・okada.reiko@shizuoka.ac.jp)

Activity Report of Gender Equality in the Japan Society for Comparative
Endocrinology

*The Japan Society for Comparative Endocrinology (Reiko Okada・Shizuoka University・
okada.reiko@shizuoka.ac.jp)*

The Japan Society for Comparative Endocrinology aims to advance the understanding of animal evolution by comparing the endocrinological mechanisms of various species. At the 47th Annual Meeting held at Kyushu University, the Diversity and Inclusion Committee organized a seminar entitled "Ideal, Real, and Feasible Issues in Gender Equality". In this seminar, Professors Yuki Sudo and Hiroko Tsukamura presented an analysis of the fifth large-scale survey and ongoing projects at Nagoya University to address these issues, respectively.

日本比較内分泌学会は1975年に創立された学会で、内分泌学的な生体調節機構の比較という観点から動物の進化を解き明かすことを目指す研究者、学生などから構成されています。各会員の研究分野は生物学・農学・医学・薬学などであり、2024年8月現在の会員数は約400名です。

2017年より、本学会の年次大会においてダイバーシティ&インクルージョン委員会(2022年度までは男女共同参画委員会として活動)主催のランチョンセミナーを行なっています。2023年度は、第47回日本比較内分泌学会大会及びシンポジウム九州大会(九州大学)の中で下記のセミナーを実施しました。

2023年 ダイバーシティ&インクルージョンセミナー「男女共同参画の理想と現実とできること」

2023年11月18日(土)13:10-14:10

「男女が共に生きる社会へ: 第五回大規模アンケートからの視座」須藤雄気(第20期男女共同参画学協会連絡会・理事/副委員長・岡山大学学術研究院医歯薬学域)

「大学の活性化戦略としてのジェンダー平等と名古屋大学の取組」東村博子(名古屋大学副総長(多様性・男女共同参画担当)・大学院生命農学研究科)

本学会は2003年から男女共同参画学協会連絡会に正式加盟学会として参加しており「大規模アンケート」に回答した経験がある会員も多くいますが、その結果について周知されているとは言えませんでした。須藤先生に2021年の第5回大規模アンケートから明らかになった問題や課題について解説していただくことで、理解を深めることができました。2021年時点でも男女共同参画には程遠い状況に危機感を覚えた参加者が多かったようです。

東村先生には、進路選択や採用・昇任などの人事といった様々なところで性別による差が生じている事情と、名古屋大学での取り組みについて紹介していただきました。『無意識のバイアス』があらゆる面で障壁となっていることを改めて実感しました。

幅広い年齢層の会員がセミナーに参加しましたが、特に学生や若い参加者からの質問が多く、自身の進路選択やキャリア形成に直結する問題として関心が高い様子がうかがえました。時間内に回答できなかった質問には、後日須藤先生から回答していただき、本学会ウェブサイトに掲載させていただきました(<https://jsce1975.jp/sankaku.html>)。

本委員会では、全ての人が自分の望む形で研究を続けて活躍できる環境づくりに引き続き取り組んでいきたいと考えています。

日本物理学会ダイバーシティ推進委員会活動報告

日本物理学会

(小林 夏野・北海道大学・kayakobayashi@es.hokudai.ac.jp
成木 恵・京都大学・m.naruki@scphys.kyoto-u.ac.jp
濱口 幸一・東京大学・hamaguchi@phys.s.u-tokyo.ac.jp
肥山 詠美子・東北大学・emiko.hiyama.a3@tohoku.ac.jp
宮島 顕祐・東京理科大学・miyajima@rs.tus.ac.jp)

Recent Activities of Diversity, Equity, & Inclusion Committee in the Physical Society of Japan

The Physical Society of Japan

*(Kaya KOBAYASHI, Hokkaido University, kayakobayashi@es.hokudai.ac.jp
Megumi NARUKI, Kyoto University, m.naruki@scphys.kyoto-u.ac.jp
Koichi HAMAGUCHI, University of Tokyo, hamaguchi@phys.s.u-tokyo.ac.jp
Emiko HIYAMA, Tohoku University, emiko.hiyama.a3@tohoku.ac.jp
Kensuke MIYAJIMA, Tokyo University of Science, miyajima@rs.tus.ac.jp)*

Abstract: We report on the recent activities of the Diversity, Equity, & Inclusion Committee, in the Physical Society of Japan (JPS). The 5th (2024) Fumiko Yonezawa Memorial Award was given to three winners. As an educational activity, the committee members have joined the summer camp for junior-high and high-school girls.

日本物理学会は1877年に東京数学会社として発足したのち、1946年に設立された。現在の会員数は約15,000人である。会員の女性比率は増加し続けているものの、現在も6~7%程度であり、世界的に見て低い。2002年7月に発足した男女共同参画推進委員会は、2023年1月よりダイバーシティ推進委員会と名称を改め、物理学において女性はもとよりさまざまな研究者の多様性を尊重し、各人が能力を発揮できるための活動を行っている。以下、この1年間の主な活動を報告する。

【1】米沢富美子記念賞 第5回受賞者決定

本会では女性会員の活躍を讃え奨励するため、2019年度に米沢富美子記念賞を設立し、毎年の受賞者を年次大会で表彰している。2024年度は第5回受賞者として、女性会員3名を表彰した。

【2】次世代教育支援

2005年度より本学会員を「女子中高生夏の学校」に実行委員および企画担当委員として派遣している。今年度は対面形式で8月10-12日の3日間開催され、本委員会委員が実験やポスターの企画に参加した。また、2006年度より継続的に支援している「女子中高生のための関西科学塾」は、2021年度からは賛助会員として協賛している。今年も7月28日のA日程より順次開催されている。

【3】学協会連絡会活動

学協会連絡会運営委員会、シンポジウム、大規模アンケートの結果を受けた提言WG、などに参加している。

【4】国際交流

2023年7月10-14日に開催されたInternational Conference on Women in PhysicsにAAPPS Women in Physics WG 委員長、副委員長として本委員会委員が参加し、発表を行なった。

【5】秋季・年次大会での託児室の開設

本会では毎年春と秋に全国大会を開催しており、いずれも約5,000名の研究者が参加している。本委員会が主体となり大会託児室を設置し、希望者は事前申込みにより誰でも利用できる。利用者数は増加傾向にある。

【6】全国大会でのミーティング開催

全国大会にて本委員会主催のミーティングを開催してきた。2023、2024年には「外国人にとって居心地の良い物理学会とは」と題したミーティングを実施した。また2024年の年次大会ではミーティング「私が考えるダイバーシティ」を開催する。

【7】広報活動

物理学会誌と委員会HPに委員会報告やイベントの活動報告を掲載している。

日本森林学会 ダイバーシティ推進活動報告

日本森林学会(佐藤宣子^{1*}・村上拓彦^{2**}・猪俣雄太³・小田智基³・大田真彦⁴・木村恵⁵・久米朋宣¹・高田乃倫^{予6}・
成田あゆ⁷・新田響平⁸・松本麻子³・宗岡寛子³・山下詠子⁹・練春蘭¹⁰
¹九州大学・²新潟大学・³森林総合研究所・⁴長崎大学・⁵秋田県立大学・⁶岩手大学・
⁷北海道立総合研究機構林業試験場・⁸秋田県林業研究研修センター・⁹東京農業大学・¹⁰東京大学
*sato.noriko.842@m.kyushu-u.ac.jp, **muratac@agr.niigata-u.ac.jp)

Annual report on diversity promotion activity of the Japanese Forest Society

The Japanese Forest Society (Noriko SATO¹, Takuhiko MURAKAMI,² ¹Kyushu University, ²Niigata University,
¹sato.noriko.842@m.kyushu-u.ac.jp, ²muratac@agr.niigata-u.ac.jp)

Abstract: Founded in 1914, the Japanese Forest Society (JFS) is the only academic society in Japan that deals comprehensively with forests and forestry. Our activities began in 2002 with the establishment of a nursery at the time of the conference, and in 2003 a Director of Gender Equality was placed on the Board of Directors. We became an official member of EPMEWSE in 2004. In 2018, the name was changed from Director of Gender Equality to Director of Diversity Promotion. Information Exchange on Employment Issues for Young Researchers was held on March 8, 2024 during the 135th Annual Meeting of the Forest Society of Japan.

1. 一般社団法人日本森林学会について

日本森林学会は、1914(大正3)年に創立された、森林・林業・林産物を総合的に扱う日本で唯一の学会です。森林に関する基礎・応用研究から現場での森林管理や行政に携わる会員が一同に会しているところに特徴があります。男女共同参画学協会連絡会には2004年1月に正式に加盟しました。2024年3月1日時点で、学生を含む正会員数は2,243名で、そのうち486名(21.7%)が女性です。学生会員では37.3%が女性となっています。2022-2023年度の全役員(理事+主事)および代議員に占める女性の割合はそれぞれ33.3%と29.2%、2024-2025年度でも37.8%と32.6%であり、比較的高い割合を維持しています。

2. 男女共同参画・ダイバーシティ推進活動の経過

2002年度の大会時に保育室を設置する試みから始まり、2003年4月に男女共同参画理事が設置され、2003年11月に男女共同参画主事が設置されました。その後、2014年の日本森林学会100周年記念事業(第125回大会)で「森林分野におけるダイバーシティ宣言」を採択しました。2018年5月には「男女共同参画」を「ダイバーシティ推進」に変更し、同年12月に、女性、外国人、障がい者、LGBT等の属性を有する様々な会員が円滑に学会活動に参画できる環境を整えていくことを目指し、学会内に臨時委員会を設置しました。この委員会は2020年5月に常任委員会であるダイバーシティ推進委員会となり、現在、理事と主事の他12名の委員を置き、活動を行っています。

3. 学会大会におけるダイバーシティ推進活動

第5回大規模アンケートの解析結果から、就職氷河期世代(1970年から1984年生まれの人)が年齢制限などで多くの支援から外れ、現在もポストドクを渡り歩いている窮状が明らかになりました。このことを受けて、第135回日本森林学会大会会期中の2024年3月8日(金)12:00-13:30に、日本森林学会ダイバーシティ推進委員会の企画として「若手雇用問題についての情報交換」を開催しました。まず、若手・ポストドク雇用問題に詳しく、男女共同参画学協会連絡会で活動されている志牟田美佐先生に「若手・氷河期世代研究者の待遇改善が研究力強化につながる—科学技術系研究者の雇用に関する調査結果から—」と題したご講演をいただきました。次に、ポストドク経験者2名から、それぞれ、「11年間に6つの研究室のポストドクをして考えたこと」、「ライフイベントとキャリア形成の間で考えたこと」、そして、採用側2名から、それぞれ、「研究職をめざす皆さんへ—森林総合研究所の採用について—」、「近年の大学における教員採用の傾向と問題」と題した話題提供をしていただきました。その後、「ポストドク問題を解決するために必要なこと(制度と個人で)」をテーマにパネルディスカッションを行いました。会には58名の参加があり、開催後のアンケートでは、「若手研究者と採用側の双方の視点からの話を聞くことができ参考になった」、「研究者という仲間同士、問題意識を共有して改善の方向に向かうよう声を上げていくことが重要と感じた」といった意見が寄せられました。

地球電磁気・地球惑星圏学会活動報告

地球電磁気・地球惑星圏学会

(男女共同参画担当運営委員 中溝葵(情報通信研究機構)、大矢浩代(千葉大学)

ダイバーシティ推進ワーキンググループ diversity@sgepss.org)

Annual report for promoting equal participation of men and women in SGEPSS

Society of Geomagnetism and Earth, Planetary and Space Sciences (SGEPSS)

*(Aoi Nakamizo (NICT), Hiroyo Ohya (Chiba University), and SGEPSS Diversity Promotion Working Group
diversity@sgepss.org)*

Abstract: Society of Geomagnetism and Earth, Planetary and Space Sciences (SGEPSS) covers Atmospheric Sciences, Space electricity, Earth and Planetary surface physics, and Solid earth geodynamics fields. 730 members are involved with 11.5 % female members in SGEPSS (as of September 2024). Since July 2003, SGEPSS had belonged to EPMEWSE as an observer committee, to establish a working group for promoting equal participation of men and women in SGEPSS before SGEPSS was formally affiliated with EPMEWSE in April 2005. This is an annual report of SGEPSS activities related to the promotion of equal participation during the year from September 2023 to August 2024.

【2023年9月～2024年8月の活動について】

地球電磁気・地球惑星圏学会(SGEPSS)は、超高層物理学、プラズマ物理学、大気力学・化学、固体地球科学、惑星科学、宇宙科学など多様な専門領域の会員(2024年9月時点での会員数:730名、女性比率:約11.5%)で構成されている。2003年7月に男女共同参画学協会連絡会にオブザーバー加盟した直後、これに対応する形で男女共同参画検討・提言WGを設置し、2005年4月に正式加盟した。本学会の2023年9月から2024年8月までの活動について、下記に報告する。

【ダイバーシティ推進ワーキンググループ活動】

上記WGが発展し、2020年5月に発足したダイバーシティ推進WGの大きな成果として、2021年10-11月のダイバーシティ関連アンケートの実施・分析、報告書の公開(2022年9月)がある。このアンケート結果を参考にしながら、ダイバーシティ推進に関する方策を定期打合せにて検討するとともに、2023年度秋季年会ではその一つとしてダイバーシティ推進懇談会を開催した。また、当学会における若手奨励賞の応募資格の見直しについて、運営委員へ提言するなどの活動を行なっている。

【秋季年会中の保育室設置および利用料補助】

2005年の秋季年会で初めて保育室を設置して

以来、毎年各地で開催される秋季年会において、保育室の設置・斡旋、利用料金補助を実施している(利用料金補助:学会会員の場合全額補助、非会員の場合500円/1時間となるように補助。食事や保険料などは除く)。2020、2021年度とオンライン開催が続き、ハイブリッド開催となった2022年度では利用希望は無かったが、2023年度は、2家族3名の乳幼児の利用希望があり、「一般社団法人にこにこサポート」を利用したサービスを提供した(1家族は直前で体調不良となりオンライン参加に切り替え)。

【女子中高生夏の学校 ～科学・技術者・人との出会い～】

昨年度に続き国立女性教育会館にてオンサイト開催された「女子中高生夏の学校」(2024年8月10～12日)において、当学会の若手アウトリーチ活動STEPLEと共同で、ポスター発表およびキャリア相談に対応した。ポスター発表では、当学会の研究テーマの一つであるオーロラについて、オーロラ発生装置を用いながらその発光原理を学んでもらうとともに、当分野に関わる国内外の宇宙空間探査ミッションの紹介、当分野を学ぶことができる国内の大学・研究機関等を紹介した。

日本神経科学学会 2024 年度の活動報告

日本神経科学学会（渡部文子・東京慈恵会医科大学・awatabe@jikei.ac.jp）

Activity Report in 2024, The Japan Neuroscience Society

The Japan Neuroscience Society

(Ayako M. Watabe, Jikei University School of Medicine, awatabe@jikei.ac.jp)

日本神経科学学会は、脳神経系研究の推進を目的に1974年に設立された団体であり、現在約6200名の会員で構成されています。2017年より旧男女共同参画委員会を発展的に解消し、ダイバーシティ対応委員会が発足しました。今年度の大会は2024年度7月に福岡において現地開催という形式で開催されました。今後の課題を含め同委員会の活動について報告致します。

1. 現地開催学会と今後の課題

本学会における過去 10 年間の大会参加者数を調べたところ、女性比率は 2015 年度の 24.8%から毎年着実に増加し、2020 年度の web 開催では 28.1%、2021、2022 年度のハイブリッド開催では 30%を超えました。2023 年度以降、オンサイトのみの開催形式ですが、女性比率は高止まりしており、昨年度が 30.8%、今年度は 31.3%と過去最高となったのが大きな特徴です。参加人数自体は一昨年のハイブリッド大会が最大で 3500 人超だったのに対し、今年度は現地開催ながら 3 学会合同大会だったこともあり、3,300 人超となりました。年代別に見てみると、10 代は女性比率が 80%、20 代も 46%と、若手の女性参加者はこの 10 年間で倍増しています。詳細な分析は専門委員会の報告を待ちますが、参加が増えている若手女性研究者が年次大会に参加しやすい環境を整備することは、女性研究者が継続して研究活動に従事するために必須であると考えられます。また、30 代、40 代の参加者女性比率は 31%、23%と 10 年前に比べてわずかに増えているものの、中間管理職にあたるこの世代は、家庭でも子供の受験や親の介護など、出張を伴う活動が困難なワークライフバランス状況を反映するのかもしれませんが、未就学児

を抱える世代への支援に加えて、今後はこうした中堅世代への対策も必要であると考えます。

2. 子育て中の研究者の活動支援

本学会では 2004 年以来、継続して大会中の託児室を設営しており、子供と一緒に利用できる休憩室も設置しています。今年度は、託児所利用者は延べ 91 名、1 日平均 23 人の利用があり、昨年度から大きく利用者が増加しました。今後はポスター会場等における親子スペース設置等を含め、次年度以降も積極的な取り組みを継続する予定です。

3. 大会中のダイバーシティ対応委員会企画

今年度は、ランチタイムミニシンポジウム「Meet your role models ～第一線を走る研究者によるキャリア紹介と若手に向けたメッセージ、および聴衆参加型ディスカッション」が理研の久保郁先生、東北大学の竹内秀明先生、UC Irvine の五十嵐啓先生企画のもと開催されました。本年度はダイバーシティに取り組む姿勢をより明確に、Yale 大学の岩崎明子先生、東京大学の後藤由希子先生（Brandeis 大学の Gina Turrigiano 先生は体調不良のため急遽欠席）よりご講演頂きました。また後半では聴衆参加型ディスカッションも行い、全て英語の講演ながらフロアからは大学院生など若手からの活発な質問も飛び交い、特に若手研究者の熱意が感じられる会となりました。

ダイバーシティ対応委員会としての活動も8年目に入り、学会としてのダイバーシティ対応の活性化とその可視化を今後さらに高めて行きたいと考えております。

日本バイオイメーjing学会 活動報告(2023年10月~2024年9月)

日本バイオイメーjing学会男女共同参画委員会
(洲崎悦子・就実大学、朽津和幸・東京理科大学、田中直子・大妻女子大学、
樋口ゆり子・京都大学、加藤有介・東京薬科大学、橋本香保子・千葉工業大学)

Activity Report of the Bioimaging Society (October, 2023 - September, 2024)

Gender Equality Committee in the Bioimaging Society (Etsuko Suzaki, Shujitsu Univ. ; Kazuyuki Kuchitsu, Tokyo Univ. of Sci. ; Naoko Tanaka, Otsuma Women's Univ. ; Yuriko Higuchi, Kyoto Univ. ; Yusuke Kato, Tokyo Univ. of Pharm. Life Sci. ; Kahoko Hashimoto, Chiba Inst. of Tech.)

Gender Equality Committee in the Bioimaging Society runs the activities to become conscious of "Gender Equality" to the members of the society. As an annual event, the members participated in the poster session of "Summer School for Female Students". The Committee tries to keep promoting "Diversity, Equity and Inclusion" to the society.

<学会の紹介>

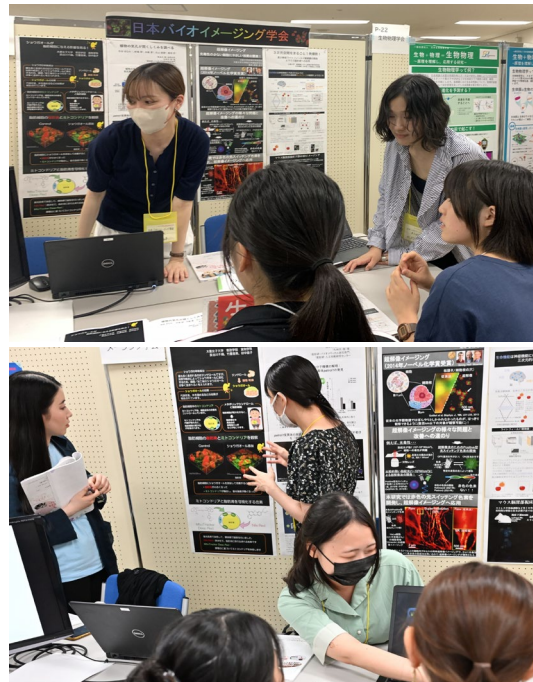
日本バイオイメーjing学会(1991年10月設立)は、「生命現象に関わるイメーjing」をテーマとして掲げ、手法の開発から応用まで、極めて幅広い研究領域に関わる研究者の学際的交流の場である。学会誌として、国際英文誌「bioimages」と、邦文誌「バイオイメーjing」を刊行している。学術集会では、4つのベストイメーjing賞を設けており、受賞者の画像は、学会HPのみならず、邦文誌の表紙や女子中高生夏の学校のポスターでも用いられている。学会として若手研究者を対象とした奨励賞を設けており、また、今年度からスカラーシップアワードも新設され、若手の活躍を期したサポートに力を入れている。

会員数は総数268名で、その内訳は一般会員数194名(うち女性36名、比率19%)、学生会員数74名(うち女性34名、比率46%)である。女性の会員比率は、昨年と比べて一般会員が3%、学生会員が10%の増加で、全体の会員比率は26%となり7%も増加した。また、理事・評議員の女性比率は昨年と変わらず、各々13%(15名中2名)、19%(36名中7名)である。また、女性評議員7名中の4名は男女共同参画委員であり、委員会活動を通じて学会内で認知され、他の委員会でも活躍している。

<男女共同参画への取り組み>

2005年2月に男女共同参画学協会連絡会への加盟を契機に学会内の一委員会となり今年度で19年を迎えた。現在は6名の委員で活動している

が、来年度から新たに1名が加わる予定である。女子中高生夏の学校への参加を重要な活動と位置づけ、今年度も田中委員を中心として6名(教員2名、学生4名)がポスター展示&進路・キャリア相談カフェに参加した(下図)。また、9月末の総会時には、日本大学の熊谷日登美先生をお招きして「無意識のバイアスを再認識:次世代リーダーには聴いてほしい!」と題するセミナーを開催する予定である。



今後は、委員会名やメンバーの刷新を検討し、連絡会と連携しながら学会の規模に見合った共同参画のための活動を継続していく予定である。

日本育種学会 ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)推進委員会活動報告

日本育種学会(三村真生・東京大学, 縣歩美・名古屋大学, 岩田洋佳・東京大学)

Activity report of Diversity & Inclusion in the Japanese Society of Breeding

Japanese Society of Breeding

(Manaki MIMURA · The University of Tokyo, Ayumi AGATA · The University of Nagoya,

Hiroyoshi IWATA · The University of Tokyo)

Abstract: Japanese Society of Breeding has been established in 1951 for aiming at the progress of the research and the technology, interchanges and cooperation of the researchers, and the spread of knowledge on breeding science. We publish two journals quarterly, "Breeding Science" in English and "Breeding Research" in Japanese and hold a meeting twice in a year. Percentages of women are 17.8% of the general member, and 29% of the student member in 2024. The activities for diversity and inclusion in the society are reported here.

日本育種学会は、品種改良の科学である育種に関する研究および技術の進歩、研究者の交流および知識の普及をはかることを目的として1951年に設立された。当学会は年2回の講演会の開催、シンポジウム等の開催および講演協賛、英文/和文学会誌(Breeding Science/育種学研究)の刊行、学会賞、奨励賞および論文賞の授与、国際交流の推進を行っている。会員数は2024年現在1,379名であり、一般会員996名(男性792名, 女性177名, 不明27名), 学生会員320名(男性150名, 女性93名, 不明77名), その他の会員63名となっている。女性会員の占める割合は、一般会員で17.8%, 学生会員で29%であり、昨年とほぼ同じである。

<男女共同参画のあゆみ>

日本育種学会は2006年4月に男女共同参画学協会連絡会に正式加盟し、2007年4月に「男女共同参画推進委員会」を発足した。2019年度から学会運営委員会の幹事長が委員長を担当することになり、現在、委員会は男性2名、女性4名で構成されている。2024年9月から、より広範な公平性を目指すため、名称を「男女共同参画推進委員会」から「ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)推進委員会」に変更した。

<活動状況>

1. 男女共同参画セミナー等の開催

講演会会期中に育種学会における男女共同参画を目指したテーマのランチタイムセミナーを企画している(これまでに計15回開催)。2023年秋

季大会講演会では、深尾武司先生(福井県立大)に「米国での妊娠、出産、育児や大学での支援体制について」として、会場でご講演頂いた。当日は100名以上の学会員の出席があり、日米の保険や育児支援制度の違いなどを学び、大変実りのあるセミナーとなった。2024年秋季大会講演会では、松井知子先生(ノボザイムジャパン株式会社)に「いいところも悪いところもいろいろありますー北欧バイオ企業での人材育成と組織づくり」という演題でご講演頂く予定である。

2. 講演会会期中の保育室の設置

状況により設置形態は異なるが、講演会会期中の保育室の設置を継続している。2011年からは、大会運営マニュアルに組み込むよう保育室の利用規定や申請書等を整備した。

3. 女性の登用

会員全体の女性比率を踏まえ、学会役員等の女性比率10%以上を目標に女性登用に努力するよう要望している。2010-2011年には学会役員における女性比率は目標の10%を達成し、2024年は20%(65名中13名)に達している。

4. ホームページの開設

学会ホームページ内にダイバーシティ&インクルージョン(D&I)推進委員会のページを開設し、活動報告やアンケート調査結果、ランチタイムセミナーの資料等、内閣府男女共同参画局等へのリンクを掲載している。

(<https://jsbreeding.jp/activity/gender-equality/>)

2024年度 日本地球惑星科学連合 男女共同参画活動報告

日本地球惑星科学連合ダイバーシティ推進委員会 e-mail: office@jpgu.org

Activity Report of the JpGU Committee for Diversity Management and Talent Pool for FY2024

Committee for Diversity Management and Talent Pool, Japan Geoscience Union (JpGU)

Promoting equality, diversity and inclusion (EDI) is an urgent issue that needs to be addressed for all JpGU members to use their abilities and individuality to the fullest and to develop earth and planetary sciences soundly. For this purpose, we regularly survey the career pathways of early career geoscientists, which will provide a basis for discussing how to promote EDI in our community. We also hold PR events to motivate the younger generations, especially female students, to specialize in earth and planetary sciences. In order to perform such activities, we work in solid cooperation with our 49 member associations, international geoscience communities, and domestic academic communities of broad disciplines such as the Science Council of Japan and the EPMEWSE.

<委員会の概要>

日本地球惑星科学連合(JpGU)は、地球惑星科学を構成する全分野をカバーする学術団体である(2023年7月26日現在、個人会員約1万名、団体会員49学協会)。JpGUダイバーシティ推進委員会では、地球惑星科学分野における男女共同参画、多様な人材が能力を発揮できる環境作り、および学生・キャリア初期研究者のキャリア支援に関する様々な取り組みを行っている。毎年5月に開催されるJpGU大会においてダイバーシティに関するセッションやイベントの開催、保育ルームの開室支援、キャリア相談ブースの開設を行っている。そのほか、キャリアパスアンケートの実施、「女子中高生夏の学校」への協力、男女共同参画学協会連絡会への参加・協力などの活動を行っている。2021-2022年度に実施・解析が行われた第5回科学技術系専門職の男女共同参画実態調査(大規模アンケート)では、JpGUダイバーシティ推進委員延べ7名がアンケートの実施WGと解析WGにメンバーとして参加した。第6回の大規模アンケートの実施準備にも携わっている。

<活動報告>

2024年5月26日(日)～31日(金)

JpGU2024年大会は、5月26日(日)～31日(金)に、幕張メッセで開催された。大会初日の26日(日)、中高生向け展示企画「地球惑星科学系のキャンパスライフとキャリアパス」を開催した。地球惑星科学が学べる大学・研究室のリストや学会の紹介ポスターの展示、よろず相談会、地球惑星科学を学んだ先輩によるミニ講演会を実施し、盛況であった。「JpGU Meeting トークスタジオ」というトーク企画では、大学・研究機関における研究生活

について、3人の女性研究者が、ジェンダーの視点を交えて語り合った。幕張メッセ内に保育ルームを設置したほか、会場外での保育支援を実施した。また、キャリア初期研究者に対するキャリア相談会を実施した。

若手研究者国際アンケートの実施への協力

JpGUは2023年に海外の地球惑星科学分野の12学協会と共同して、若手研究者国際アンケートを実施した。このアンケートの目的は、地球惑星科学分野の若手研究者の要求や課題を国際比較を通じて把握し、若手研究者の研究環境の向上や、学会による若手研究者支援活動の改善のために役立てることである。現在、アンケートの報告書を作成中である。

2024年8月10日(土)～12日(月)

2024年度の「女子中高生夏の学校」は昨年度と同様に埼玉県国立女性教育会館で行われた。JpGUは他の学協会と共同でこのイベントを後援した。参加した生徒数は98名、実験参加団体は18団体、ポスター参加団体は39と、盛況であった。実験実習(テーマ:「地球、衛星、惑星の物質と表面を調べよう」)では、7名の生徒が参加して堆積物の観察と地球・惑星・衛星探査データ解析を行った。普段見慣れない海底の堆積物や探査データの実験に興味を持って取り組み、講師も驚くほどであった。ポスター展示では日本気象学会と合同でポスターの展示(タイトル「太陽系・地球・大気現象の過去・現在・未来を科学する」)するとともに、誕生日の天気がわかるチラシも配り、関心を集めていた。キャリア相談カフェはポスター会場では各専門分野について、大会議室では文理選択、部活と勉強の両立、会社で働く、といった多様なテーマで相談を受け付けた。

生態工学会の活動と報告(2024)

生態工学会(加藤浩・三重大学・katohiro@gene.mie-u.ac.jp, 安部智子・東京電機大学・t_abe@mail.dendai.ac.jp, 木村駿太・JAXA・kimura.shunta@jaxa.jp, 新井真由美・日本火星協会・araimayumi4649@gmail.com, 清水美穂・帝京大学・shimizu.miho.xr@teikyo-u.ac.jp, 跡見順子・帝京大学・atomiyoriko@gmail.com, 横谷香織・筑波大学・yokotani.kaori.fn@u.tsukuba.ac.jp)

The Society of Eco-Engineering, 2024

The Society of Eco-Engineering (<http://www.see.gr.jp/>)

Abstract: Our society is “The Society of Eco-Engineering”. We are interesting in environmental research and engineering. In our society, we try to promote the gender equality in the committee of the activation of scientific social communication for the next generation. We established “Young researcher’s committee for Eco-Engineering, YRC-Eco” six years ago. We are continuing to have a chance to exchange the several opinions in individual way of life and discussed in a wide generation at the annual conference. We regard the human harmony with the natural environment. We will promote the percentage of women member in our society.

<生態工学会の紹介>

生態工学会は、工学的手法を駆使して、物質循環の仕組みを解明し、人類が共存できる生態系を維持していくためにはどのような行動指針を持たなければならないかの追求を目指す学協会である。将来の有人宇宙活動や月面・火星基地などにおける生命維持に使われるであろう小規模な閉鎖生態系も研究の対象としている。

<生態工学会の理念>

地球はその重力によって物質的に閉鎖された空間を形作っている。その環境は、数十億年という長い年月を経て、発生、進化、消滅を繰り返してきた生物たちによって作られ、数多くの生物種からなる生態系の働きで維持されてきている。昨今、人間のあまりにも急激な経済活動の発展に起因する資源の乱用と大量の廃棄物の放出によって、調和の取れた生態系の存続が危うくなってきたことから、生態工学会は、このかけがえのない地球で人類が継続して生存するために、人類の活動が自然生態系に調和することが不可欠であると考え、自然生態系に調和した持続可能な循環型社会はどうあるべきか日々追究している。

<生態工学会が目指す循環社会>

生態工学会が目指す循環型社会は、食糧や資源などの安全で有効な生産と活用そして再利用による自然環境に負荷を与えない物質循環がなされている社会で、温室効果ガスや環境ホルモンなどの有害ガスを排出・蓄積しない再生可能なエネルギーの生産と活用がなされている社会である。そしてこれを可能とする社会システムの機能による自然と調和した安全・安心な人間社会である。

<男女共同参画社会推進の取り組み, 2024>

”次世代科学社会活性化委員会”の中の“若手の会”は、2016年に発足し、まる9年目を迎

えた。若手組織を安定して継続するシステムも構築した。今年はNAGOMI会活動を中心に、若手からシニアの研究者に研究生活、研究の考え方について話題提供していただいた。これは様々な研究分野の考え方の理解に、最終的に男女共同参画に関する問題解決のきっかけになると期待する。全世代の博士や修士人材活用のために、何が必要で何をすべきか、また、男女共同参画に関する問題洗い出し、今後の高齢者の増加と若者の減少の時代を考慮した対策が必要であることから、若手からシニアまでの幅広い年代層で議論を行うことが必須である。

日本宇宙生物科学会と協力して、「男女共同参画に関する勉強WG」を継続している。2018年から発足した「次世代応援シンポジウム」内から発展したNAGOMI会は、幅広い年代層の中で、いつでも誰とでも語り合い知り合う場となるよう、2021年度から発足した。日本宇宙生物科学会と協力し、2024年現在、「NAGOMin」と名称を変更して隔月1度の頻度で話題を提供し活動している。「NAGOMin」は、科学者の生涯を通した話題を、世代を超えて語り合いの場として、「研究者の生活 - 世代を超え伝えたいこと・知りたいこと」をオーガナイズしている。生態工学会の男女共同参画社会に対する貢献と意識は、なお一層高まっていると受け止めている。

<生態工学会のロゴマーク>



生態工学会のロゴマークは、人間を中心におき、エネルギー源である太陽と技術を象徴する歯車が描かれ、その周囲に生態系を構成する動物と植物が配置されている。人間社会の豊かさを常に考え追究している。調和を重んじて、次世代の男女共同参画社会確立にも強く促進したいと考え、実行しようと試みる学術団体である。

錯体化学会 ダイバーシティ推進委員会 活動報告

ダイバーシティ推進委員会 牧浦理恵 (委員長, 大阪公立大学, rie.makiura@omu.ac.jp)
長谷川靖哉 (北海道大学), 堀頭子 (芝浦工業大学), 張中岳 (熊本大学),
大久保将史 (早稲田大学), 石井あゆみ (早稲田大学), 萩原宏明 (岐阜大学)

Activity report of Diversity committee, Japan Society of Coordination Chemistry (JSCC)

Diversity committee, Rie Makiura (Chair, Osaka Metropolitan Univ., rie.makiura@omu.ac.jp)
Yasuchika Hasegawa (Hokkaido Univ.), Akiko Hori (Shibaura Inst. Tech.), Zhongyue Zhang (Kumamoto Univ.),
Masashi Okubo (Waseda Univ.), Ayumi Ishii (Waseda Univ.), Hiroaki Hagiwara (Gifu Univ.)

Abstract: JSCC established Gender-Equality committee in 2006 and changed to Diversity committee in 2020, to act widely related to diversity from a broader perspective. We hold a lunch-on seminar to share and learn recent diversity activities, and offer child-care services during the annual meeting of JSCC.

【錯体化学会におけるダイバーシティ推進委員会】

錯体化学会では、2006年に男女共同参画委員会が設置された。性別の違いに限らず、より広い視点でダイバーシティに関する活動を進めるべく、2020年にダイバーシティ推進委員会と改名した。2023年9月時点での会員数1020名のうち、女性会員数は121名 (12%)である。本学会におけるダイバーシティに対する現状や意識状況の調査や、今後どのような方向に向かうべきかという共通認識のあり方を検討することから始め、毎年セミナーを企画し、会員および学生会員への問題提起と啓蒙活動を行っている。近年は、外国人等のマイノリティにも幅を広げ、多様な人材が参加しやすい学会活動とはどのようなものかを議論している。

【2023年主催のセミナー】

錯体化学若手研究会「錯体化学若手の会夏の学校2023」の特別セッションとして「国際化社会における新しいキャリアパス: ~進学の先にある多種多様な働き方~」(2023年8月3日)として、福岡の九州大学・日新プラザ及びオンラインのハイブリッドでパネルディスカッションが開催された。キャリアや人生、経験をもとに、新たなキャリアパスを選択する際の認識、チャレンジするメリット、必要とされる多文化スキルの準備について、下記4名の方にご登壇頂いてパネルディスカッションを行った。

宮田潔志 (米国コロンビア大学 PD、九州大学 理学研究院准教授)

成田明光 (マックス・プランク高分子研究所 Ph.D./Project Leader、沖縄科学技術大学院大学(OIST) 准教授)

Jinjia Xu (物質・材料研究機構 Ph.D.、米国 Purdue Univ., U. of Florida, UIUC PD, U. of

Missouri, Asst. Prof.)

Benjamin Le Ouay (ピエール・マリ＝キュリー大学 Ph.D.、九州大学大学院 助教)



主催者より「人生は予測不可能ですが、それが人生の魅力です」とメッセージを伝え、参加者からは「少し先の未来や道路を考える上でとても勉強になった」などの感想が届いた。

【託児所の設置】

錯体化学会では、第65回討論会時(2015年)に初めて託児所を設置し、以降継続して討論会会期中に、託児所を開設している。2018年度より、英語での案内も実施している。

【理事会への要望提出】

学会全体として取り組むべき内容、例えば女性理事を増やすための施策や、学会HPの英語ページの充実化、年齢制限が設けられている奨励賞への応募者に対してライフイベント等の休業期間を考慮する、討論会のハイブリッド開催など、ダイバーシティ推進に向けた要望書を本学会の理事会に提出し、迅速なアクションを促している。

日本進化学会の活動報告

日本進化学会(別所上原学・東北大学・学際科学フロンティア研究所)

Activity Report

Society of Evolutionary Studies, Japan (Manabu Bessho-Uehara, Tohoku University)

Abstract: Our society is highly motivated in promoting gender equality in science. In 2017, we conducted a questionnaire survey for members about childcare support during the annual meeting. As the result that 90% of respondents answered that childcare support was necessary, we started the childcare supports during the annual meeting since 2018 with the financial support. In annual meeting in 2023, the childcare support service, including care for sick children and nursery room for all participants, was well-prepared. In addition, a break room with a kids' space, available for use without prior reservation, has been set up in the 2024 meeting.

日本進化学会では、多くの会員が男女共同参画に対する意識を持っている。2017年に会員に向けて年大会中の託児支援サービス設置に関するアンケート調査を実施したところ、90%の回答者から設置した方がよいとの回答があった。その結果を受けて、2018年より年大会での男女共同参画予算枠を設置し、年大会開催中の託児支援のための予算確保を開始した。2019年の北海道大会において、就学児を含めた託児支援を実施し、のべ15名の利用があった。2020年、および2021年の年大会は、コロナ禍のため、オンライン開催となり、保育支援は実施されなかったが、子育て世代からオンライン開催となったことで参加しやすくなったとの意見もあり、今後の年大会の開催様式について考えさせられる出来事となった。2022年の沼津でのハイブリッド大会を経て、2023年に対面での沖縄大会での開催の運びとなった。沖縄大会の準備期間中に、早くから託児支援設置の要望があった。大会事務局の尽力により、託児室の開設のみならず、利用児の急な発熱などにも対応できるよう、病児保育についても対応の準備がされており、懇親会中にも託児室を開設しており、利用者に寄り添った支援が企画されていた。また、申し込みなしで利用可能なキッズスペース付き休憩室の設置や家族連れを含めた幅広い世代で参加しやすいような懇親会の企画と家族同伴が可能であるとあらかじめアナウンスするなど、託児支援を利用していない子ども連れの参加者にも配慮した大会運営であった。このような手厚い託児支援の継続のために、引き継ぎが今後の課題となる。

また、2023年年大会では、シンポジウム企画と

して「進化学者が子を抱えてガッツリ研究発表する。果たして無事終えることができるのか?!」という意欲的かつ試験的な試みもあり、おおむね好意的な感想が寄せられた。

2023年の沖縄大会の託児支援に関するアンケート調査結果は満足度の高いものであり、2023年の年大会が今後の幅広い世代、立場の学会員に開かれた年大会としての成功例となった。これらの様子や、また運営側の取り組みについても学会のニュースレターに記事として学会HPから公開している。

2024年の神奈川大会でも事前申し込みが必要な託児所の設置と申し込みなしで利用可能なキッズスペース付き休憩室を設置した。また、あらかじめ全ての会場で子供同伴可能と周知し、子連れでの聴講と休憩の行き来が自由にできる工夫もした。

日本建築学会における男女共同参画活動報告

一般社団法人日本建築学会 男女共同参画推進委員会(委員長 藤田 香織・東京大学)

Annual report on the activities for gender equality in the Architectural Institute of Japan: AIJ

Architectural Institute of Japan (Kaori FUJITA, The University of Tokyo)

Abstract:

The number of women members in the Architectural Institute of Japan: AIJ accounts for 16.9% of 34,281 all members as of 2024. We set up a Committee of Promotion for Gender Equality in AIJ in 2007. Then announced the Principle and the Action Plan for Gender Equality in AIJ and the field of architecture in 2008.

In 2018, over 10 years after set up committee, we have formulated a new action plan for next 10 years. In addition, after we have held the "Women's Members Meeting" at each branch of AIJ, we declared to set up a "Nationwide Architectural Gender Equality Network Meeting" as a platform to consolidate and share the activity.

日本建築学会は、正会員 34,281 人(2024 年 3 月時点)、産学官一体の大規模学会です。うち女性会員比率は 16.9%で、2009 年の 12.2%に比べて 4.7 ポイント、上昇しています。若い年代ほど女性比率が高い傾向があり、学部学生を主とする準会員では、1,365 人のうち女性準会員比率は 38.5%と 1/3 を超えて、年々増加しています。建築分野では今後ますます女性が増え、活躍する場がひろがっていくと予想されます。

そうしたなか、男女共同参画推進委員会を設置し、本会理事あるいは委員会において女性が登用される体制づくりに努めるとともに、業界における男女共同参画にかかわる実態調査、情報発信、交流活動を行っています。学会運営においても、理事会を始めとして表彰、総務、各専門分野の学術推進に関わる各種委員会の委員における女性の人数には常に留意し、学会として様々な議論の場における多様性が確保されるよう働きかけを行っています。

<沿革>

- 2005年：「男女共同参画社会における建築に関する特別研究委員会」を発足
- 2007年：男女共同参画推進委員会を常置委員会として設置し、平行して男女共同参画学協会連絡会に正式加入
- 2008年：「男女共同参画推進行動計画」策定
- 2018年：「男女共同参画推進新行動計画」策定
- 2019年：「全国建築男女共同参画ネットワーク宣言2019」

<基本理念>

日本建築学会における男女共同参画の推進により、建築の多様で広範な分野における両性

の自由で平等な参画と、ワーク・ライフ・バランスを実現し、持続可能な多様で豊かな生活空間の創造と改善を目指す。

これまで、3回にわたるアンケート調査を実施し、建築分野の民間企業、大学等における、男女共同参画の現状や課題を探ってきました。

さらに、2016年度より全国の九つの支部において「建築学会女性会員の会」を組織し、建築業界で働く女性の間での情報交換・交流や男性の育休取得の促進など、男女共同参画促進のための様々なイベントを行ってきました。2016年から現在に至るまで、開催されたイベントは52件、延べ参加人数は1800名を超えています。2023年度は、北海道・東北・東海・北陸・九州の各支部においてオンライン等で開催し、各地域の特色を活かしながらも、地域を越えた交流が進められています。

2024年度大会ではパネルディスカッション「アカデミアへの女性進出に向けたアドバイス」を開催しました。若手に向け、アカデミア(大学や研究機関)に就く多様な世代から、制度や家族の活用、組織への働きかけにより改善されることが多いことが示唆されました。ライフイベントの中では、結婚・子育てと、テニユア制度へ移行するために多くの成果を求められる時期が一致します。この世代への重点的な組織からの支援の有効性が示され、その支援が強く求められました。その一方で、数字は年々改善されているため、いずれ解決するという楽観的な見方では、10年後に気づいても、人の育成は時間がかかることから、問題への対処は大きく遅れることも指摘され、引き続き本会の活動の継続と相互連携の重要性があらためて認識されました。

種生物学会 男女共同参画活動報告
種生物学会 (新田 梢・麻布大学・kozue.nitta@gmail.com)

Recent activities for gender equality in the Society for the Study of Species
Biology (SSSB)

*Society for the Study of Species Biology (SSSB) (Kozue Nitta・Azabu University・
kozue.nitta@gmail.com)*

Abstract: The Society for the Study of Species Biology (SSSB), founded in 1980 to promote studies related to species biology of plants. Number of society member in 2024 is 358 of which 30.2% are females. The society contributed the Large-Scale Survey of Actual Conditions of Gender Equality in Scientific and Technological Professions conducted by the Japan Inter-Society Liaison Association Committee in 2007 and joined the Liaison Association in January 2008. At the annual symposium of the society, a nursery was provided for three days in or near the symposium venue since 2013. The total numbers of children joined the nursery were 11 (2018), 6 (2019) and 7(2023).

<種生物学会について>

<http://www.speciesbiology.org/>

種生物学会は、植物実験分類学シンポジウム準備会として発足した。1968年に「生物科学第1回春の学校」を開催し、1980年に種生物学会に移行した。進化生物学、植物分類学、生態学、育種学、林学、農学、保全生物学など様々な分野の研究者が交流・議論する場となっている。1986年に学術雑誌Plant Species Biologyを創刊し、1999年～2018年まではBlackwell社/Wiley-Blackwell社により、2019年からは日本生態学会が発行する英文学術誌のひとつとしてWiley社により発行されている。今日的なトピックスを選び、毎年開催してきた「種生物学シンポジウム」は、2024年12月で56回を数える。第29回からシンポジウムの内容は、和文学会誌として出版されおり、「花生態学の最前線」(2000年)以後、「タイムカプセルの開き方: 博物館標本が細ぐ生物多样性の過去・現在・未来」(2024年10月予定)まで、単行本(種生物学研究シリーズ)として文一総合出版から発行されており、学生や若手研究者の手引き書としても活用されている。

<会員構成と女性比率>

2024年9月における個人会員総数は358人(うち女性108人、比率30.2%)である。内訳は一般会員270人(うち女性72人、比率26.7%)、学生会員88人(うち女性36人、比率40.9%)である。学生

会員では女性比率は4割を超えるが、一般会員では女性比率が大きく減り、大学院進学後に研究職に残る比率の差が現れていると考えられる。

<男女共同参画の状況>

2008年1月から同連絡会に正式加盟した。2021年の第5回大規模アンケートでは、学会員数に対する回答者比率が31.9%となり、参加学協会の中でトップであった。

特にポジティブアクションは実施していないが、2007年から2023年までの学会賞(若手奨励賞)の受賞者29名のうち11名が、論文賞受賞者28名のうち17名が女性であった。2023年の種生物学シンポジウムの企画者・招待講演者(9名)のうち、企画者3名が女性であった。

<シンポジウムにおける託児サービスの提供>

種生物学シンポジウムは基本、合宿形式で開催し、2013年から会場内に託児室を設置又は近隣の託児施設を活用している。2018年は3日間で延べ11名、2019年は3日間で延べ6名の利用があった。2020年と2021年はオンライン、2022年はハイブリッドで開催し、託児室は開設されなかった。2023年は久しぶりの合宿形式で、託児利用は2日間で延べ7名、子連れ6家族、パートナー参加が4家族に上り、子供同士の交流も生まれていた。託児運営も、費用を半額分、学会や大会運営費用から補助した。今後も、家族で参加しやすい運営や企画が課題である。

日本畜産学会 男女共同参画活動報告

日本畜産学会 若手奨励・男女共同参画推進委員会
(学会事務局 TEL.: 03-3828-8409 E-mail: info@jsas-org.jp)

Japanese Society of Animal Science - Activity Report of gender equality

Japanese Society of Animal Science (URL:www.jsas-org.jp)

Japanese Society of Animal Science (JSAS) was established in 1924 for all the people who are involved in the animal industry in a variety of ways, directly or indirectly. The objective of JSAS is to contribute to advance and growth of animal science and the animal industry of Japan. In addition, JSAS is releasing updates on animal science to the world, building up closer links with organizations concerned in Japan and abroad. As of Jul 2024, the society has 1,579 members and supporting groups in all. The members are attached to a wide range of fields such as industries, governmental agencies and organizations of higher education. JSAS has been promoting gender equality by holding symposiums/seminars, providing childcare services at the annual meeting, etc.

<日本畜産学会について>

日本畜産学会は、畜産及び社会と動物のかかわりに関する学術研究の発表、情報交換の場としてその進歩普及を図り、わが国における畜産学および畜産業の進歩・発展に資することを目的として1924年に設立された。現在は公益社団法人日本畜産学会として、国内だけでなく海外の関連組織との交流・連携を深めて広く世界へ最新の学術情報を発信するよう努めている。研究発表会(年1回)および学術講演会を開催し、機関誌(英文誌 Animal Science Journal; 和文誌 日本畜産学会報)を発行している。

2024年7月現在の総会員数は1,579名(うち正会員1,196名、学生会員166名)で、正会員に占める女性会員の割合は20.2%、学生会員に占める女子学生の割合は42.8%である。全体的に会員数は減少しているが、正会員の女性比率は微増であった。しかしながらその半面、学生会員の女性比率は大幅に減少した。

<畜産学会における男女共同参画の歩み>

日本畜産学会では、2009年に「若手・女性のための委員会」を設立し、2011年からは委員会の名称を「若手奨励・男女共同参画推進委員会」に変更して、学会大会開催時の保育室常設、シンポジウムの開催、男女共同参画学協会連絡会への正式加盟などを行ってきた。学生会員の女性比率が高いことから、2013年度からは、若手会員有志による活動組織(若手企画委員会)をこの委員会の内部組織として位置づけ、男女共同参画に

関わる活動を学生・若手研究者のキャリア形成支援活動と連携して行っている。

<2023-2024年度活動状況>

(1) シンポジウム・セミナー開催

第131回日本畜産学会大会(2023年9月18-21日)の開催期間中に以下を開催した。

☆シンポジウム「どうする? 北海道の大学機関におけるダイバーシティの現状と取り組み」(参加者数:83名)

☆若手企画委員会主催シンポジウム「どうする? どうなる!? 日本の畜産業界 ~現状と現場を知る~」(参加者数:128名)およびサイエンスナイトシンポジウム「つなげよう、世の中と自分の研究」(参加者数:52名)。

(2) ホームページ等での情報発信

学会 HP 内男女共同参画および若手企画のページより、大会企画の案内・報告、イベントへの参加報告、読み物等の情報を発信している。

(3) その他

学会役員・委員への女性の登用について、現在、理事会および機関誌編集委員会等に参画する女性会員は8.4%である。近年、女性会員が功労賞(2013年度)および学会賞(2014, 2017年度)を受賞し、また、学会大会会長(2015年度)となった他、2021年度、初めて女性会員が名誉会員に推戴された。

日本技術士会の活動紹介

公益社団法人日本技術士会(飯島玲子・男女共同参画推進委員会委員長・reiko.iijima@tk.pacific.co.jp)

Introduction to the activities of The Institution of Professional Engineers, Japan

The Institution of Professional Engineers, Japan (IPEJ)
(Reiko Iijima・Chairperson of Gender Equality Committee・reiko.iijima@tk.pacific.co.jp)

Gender Equality Committee of the Institution of Professional Engineers was established with the following objectives. (1) Developing active public relations activities to increase the number of female professional engineers. (2) Clarify the superiority of the professional engineer qualification in the career path of female engineers, improve the visibility of the professional engineer qualification and cooperate in promoting gender equality in companies. (3) Develop support activities for the formation of a prosperous society through science and technology and for the promotion of the formation of a gender-equal society. D&I activities are also carried out.

1. 委員会の目的

委員会は以下の目的で2011年5月に設置された。

- (1) 女性技術士の増加を図るための積極的な広報活動の展開
- (2) 女性技術者のキャリアパスにおける技術士資格の優位性を明確化し、技術士の知名度向上を図ると共に企業における男女共同参画推進に協力
- (3) 科学技術による豊かな社会の形成、および男女共同参画社会形成推進に向けた支援活動の展開

2024年9月現在、委員21名(男性7名、女性14名)、委員補佐15名(男性4名、女性11名)で構成、女子学生・女性技術者支援、Diversity & Inclusion、広報を軸とした種々の活動を展開している。

2. 2023年度の主な活動

◆女子学生・女性技術者支援

技術者・技術士を目指す女子学生・女性社会人向け懇話会「技術サロン」を、6月、9月、12月、3月の4回開催。6月には中学生が初参加した。



◆Webキャリアモデル発信

Webサイトにて、技術士のロールモデルとしてキャリア形成の事例(男性・女性)を紹介している。また、イクボスや男性技術士のイクメン・イクボスモデルも掲載し、男女問わず多様なキャリア形成、ワーク・ライフ・バランスを発信している。

◆第6回D&Iフォーラム

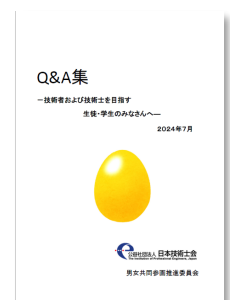
「D&IからDE&Iへ～Equity(公平性)の理解を深める～」をテーマに開催。横山広美氏(東京大学)のご講演後、グループ討議で現状や課題を共有し、気づきやこれからやっていきたいことなどを話し合った。オンラインで約120名が参加した。



◆冊子「中高生向けQ&A集」の発行

2022年に作成した「Q&A集—技術者及び技術士を目指す方へ—第2版」は過去の技術サロンで参加者から寄せられた質問に対し、当委員会からの回答をまとめたもので、女性のみならず、技術士を目指す男性にも好評。女性の部下を持つ上司にも参考となる冊子である。

この内容を元に2024年8月に「中高生向けQ&A集」を発行した。Webサイトにも掲載している。



◆月刊「技術士」のシリーズの一部を公表

2024年6月、月刊「技術士」の連載として2014年に開始した男女共同参画シリーズの記事のうち、約50編をWebサイトに掲載し広く紹介した。

3. 男女共同参画推進委員会Webサイト

http://www.engineer.or.jp/c_cmt/danjyo/

学協会日本植物学会におけるダイバーシティ推進の取り組み

(公社) 日本植物学会 (ダイバーシティ推進委員会委員長 高山浩司・京都大学・大学院理学研究科)

The Approaches to the Diversity in the Botanical Society of Japan

The Botanical Society of Japan (Koji Takayama, Kyoto University.)

Abstract: The Botanical Society of Japan was established in 1882 to promote researches in wide range of plant biology. The Society publishes a *Journal of Plant Research* for international distribution, as well as organizes an annual meeting with oral and poster presentations, symposia, and public lectures. In our society, women represent about 30% of 1800 members. To promote gender equality, we established the committee on gender equality in 2011. In 2020, this committee was renamed “diversity promotion committee” to reflect a broader focus promoting the diversity not only in gender but also in career and lifestyle. Through special lectures at our annual meetings, we aim to raise awareness of diversity within the society. (<https://bsj.or.jp/jpn/members/kyodosankaku.php>)

1. 日本植物学会について

日本植物学会は 1882 年に発足、2012 年に公益社団法人となった。学会誌「植物学雑誌 (現在は *Journal of Plant Research*)」は明治 20 年発刊以来 130 年以上続く伝統ある学術誌である。2024 年 1 月現在で、総会員数約 1800 名のうち、女性会員が 30% 程度の高割合を占めている。2005 年より男女共同参画学協会連絡会にオブザーバー加盟、2012 年に正式に加盟した。学会内では 2010 年に男女共同参画 WG を設置すると共に第 1 回の男女共同参画ランチョンセミナーを開催、翌 2011 年には男女共同参画委員会が正式に発足した。更に性別のみならずキャリアパスやライフスタイルの多様性を推進するため、2020 年に委員会名をダイバーシティ推進委員会に改称した。毎年 9 月の日本植物学会大会においてセミナーを開催し、継続的なダイバーシティ推進活動を進めている。

2. 活動報告

2023 年 9 月 8 日、日本植物学会第 87 回大会 (北海道大会) の現地開催 2 日目に、ダイバーシティ推進セミナー「コロナ禍を経て大会の ‘これから’ を考える」を現地および Zoom によるハイブリッド形式で実施した。セミナーの冒頭では、寺島一郎・東京大学名誉教授・日本植物学会会長が挨拶を行い、続いて成川礼・東京都立大学准教授・ダイバーシティ推進委員会委員長が、このテーマを取り上げた経緯を説明した。コロナ禍により強制的に導入されたオンライン形式の学会は、これまで参加が難しかった会員層に新たな参加機会を提供し、ダイバーシティの拡大に

一定の効果をもたらした。しかし一方で、会場でのネットワーキング機会の損失や大会運営側の負担増加といった懸念もあり、今後の大会のあり方を改めて考える契機とし、より多くの会員にとって有意義な学会大会を目指すために、このセミナーを開催した。

議論はパネルディスカッション形式で進行し、東山哲也氏 (東京大学・教授)、高山浩司氏 (京都大学・准教授)、片山なつ氏 (東京大学・准教授)、平田梨佳子氏 (京都大学・特定研究員)、大竹桃氏 (東北大学・博士後期課程) の 5 名がパネリストとして参加した。議論のテーマとして、1. 若い世代にとってオンラインの方が気楽か? 2. 就職ポスト探しにおいてコロナ前後で変化はあったか? 3. 平日と休日のどちらが大会に参加しやすいか? 4. 持続可能な大会運営とは? の 4 つのテーマを取り上げた。これらの問い対して、パネリストそれぞれが異なる立場からの意見を述べ、いずれも正解が一つではない難しい問いであることを共有することができた。また、北海道大会のハイブリッド運営を主導した高林厚史氏 (北海道大学・助教) や、次回の宇都宮大会の大会会長を務める篠村知子氏 (帝京大学・教授) から、大会運営の苦労や次回大会の方針についての発言があった。

すべての参加者のニーズを満たすことは困難であるものの、大会運営方針が決まったならば、その枠組みの中で参加者と運営が一体となって大会を盛り上げることの重要性を再認識する機会となった。セミナー後に実施したアンケートには約 60 名の会員が回答し、特に自由記載欄には多くの意見が寄せられ、反響のセミナーの大きさを感じた。

園芸学会 男女共同参画活動報告

園芸学会(東出忠桐・農研機構・ton@naro.affrc.go.jp,
吹野伸子・農研機構・nbk@naro.affrc.go.jp)

Japanese Society for Horticultural Science - Activity Report of gender equality

*Japanese Society for Horticultural Science, JSHS
(Tadahisa HIGASHIDE・Institute of Vegetable and Floriculture Science, NARO・
ton@naro.affrc.go.jp, Nobuko FUKINO・Institute of Vegetable and Floriculture Science, NARO,
nbk@naro.affrc.go.jp)*

Abstract: The Japanese Society for Horticultural Science: JSHS was established in 1923 with the aim of promoting horticultural research and technology. The Society publishes a quarterly English-language journal, The Horticulture Journal (Hort. J.), and a quarterly Japanese-language journal, Engeigaku Kenkyu (“Horticultural Research”). The society organizes spring and autumn annual meetings with oral and poster presentations, symposia and public lectures. The committee on gender equality was set for promoting gender equality in the society.

園芸学会は園芸に関する研究および技術の進歩を図るために1923年(大正12年)に創立され、春・秋2回の大会を開催し、果樹、野菜、花き、利用の4部会に分かれて研究発表を行っています。2015年(平成27年)1月より一般社団法人園芸学会となりました。「The Horticulture Journal」(英文誌)、「園芸学研究」(和文誌)ともに年4回(1月、4月、7月、10月)が学会誌として発行されています。学会には各地域に支部(東北、北陸、東海、近畿、中四国、九州)があり、年1回大会を開催するなど活発に活動しています。会員数は2023年末現在1,758名(うち学生会員205名、外国会員42名)となっており、女性会員の占める割合は約20%です。

2023年に創立100周年を迎え、2023年8月28日に園芸学会発祥の地である東京で100周年記念式典を行いました。また、時期を同じくしてAHC2023(第4回アジア園芸学会議)を東京にて開催し、35ヵ国、876名の参加登録がありました。2026年には京都にて国際園芸学会議(IHC1994)を開催することが決定しており、現在精力的に準備を進めています。

男女共同参画に向けた取り組み

園芸学会では、男女共同参画を推進するため、法人化前より「男女共同参画対応委員会」を設け、年2回開催される大会時の託児室の設置などを行ってきました。それぞれの大会は、大学などが

会場になることが多いため、それぞれの実行委員会が工夫をして託児室を準備し、利用者が安心して大会に参加することができる仕組みとして定着していました。2020年の新型コロナウイルスの感染拡大以降は、大会をオンラインで実施していたため、託児室の設置は中止されていました。2023年3月の春季大会からは託児室の設置が再開されましたが、利用希望者がいないため開設されていません。今後参加者のニーズにあった支援を検討していく必要があります。

また、園芸学会の学生会員や若手の研究者に向けたキャリアパスセミナーを大会時にランチオンセミナーとして開催していましたが、コロナ禍により中止しており、キャリア支援の方法などについて検討しています。

公益社団法人 日本農芸化学会の男女共同参画活動報告

日本農芸化学会(ダイバーシティ推進委員会・〒113-0032 東京都文京区弥生2丁目4番16号 学会センタービル2F)

Activity Report of Japan Society for Bioscience, Biotechnology, and Agrochemistry

Japan Society for Bioscience, Biotechnology, and Agrochemistry

(Committee on Promotion of Diversity and Equality:

Gakkai Center Building, 2-4-16 Yayoi, Bunkyo-ku, Tokyo 113-0032, Japan)

Agricultural Chemistry (農芸化学) covers a wide range of bioscience, biotechnology, and agrochemistry, being based on the study of living things in general and agricultural organisms in particular. The Japan Society for Bioscience, Biotechnology, and Agrochemistry (JSBBA) was founded in 1924 as an academic organization called the Agricultural Chemical Society of Japan, with the objective of contributing to scientific, technological and industrial developments. Approximately 8,780 members belong to JSBBA and about 25% of them are women. For promoting gender equality, Committee on Gender Equality was founded in 2015 and renamed Committee on Promotion of Diversity and Equality in 2019.

1:沿革

農芸化学は、あらゆる生物と生産物を研究対象とし、生命・食・環境といったキーワードで代表されるバイオサイエンスとバイオテクノロジーを中心とする多彩な領域の総合科学分野です。本学会は農芸化学分野の基礎および応用研究の進歩・普及、及び同分野の教育の推進を図り、それを通じて科学、技術、文化の発展に寄与することにより人類の福祉の向上に資することを目的として、1924年に設立され、2012年に公益社団法人へ移行しました。会員数は2024年2月29日現在で8,783名(女性2,302名:26%)であり、このうち正会員は6,616名(女性1,343名:20%)、学生会員は2,167名(女性959名:44%)です。

男女共同参画学協会連絡会には2012年に加入し、男女共同参画に関する担当者会議を学術活動強化委員会の中に設けました。2015年度には学術活動強化委員会から独立して男女共同参画委員会を設置するとともに、担当理事1名(2016年度からは2名)を配置することで体制を強化し、2019年度にダイバーシティ推進委員会と改称しました。現在の委員は15名で、このうち7名が女性です。

2:男女共同参画活動について

2014年度から年次大会で男女共同参画ランチョンシンポジウムを開催してきました。2023年度からは年次大会とは独立して、オンライン形式による講演会も開催しています。また支部例会においても、女性研究者賞受賞者による講演やダイバーシティ推進に関する講演セッションを設けました。

年次大会での女性発表者の割合は、一般講演では上昇傾向にあり、最近では30%台後半で推移しています(右表)。例年、シンポジウムでの女性比率が低いことが課題であり、2024年度大会ではシンポジウム講演者に原則として女性を加えることとしました。2023年度大会に比べ2024年度では、オーガナイザ

ーの女性比率が20%から15%に減少しましたが、講演者比率は昨年度の16%から25%へと大幅に上昇しました。2003年度大会から託児ルームを設置し、2015年度から無料化しました。2024年度大会では、のべ16名の利用がありました。

女性の理系進路選択支援のため、2016年度からはJST後援事業「女子中高生夏の学校」に参加し、生化学・微生物学実験やキャリア相談を行っています。2006年度からは「ジュニア農芸化学会」を年次大会中に開催し、高校生に研究発表の場を提供しています。また農芸化学関連分野で活躍する女性研究者を紹介するロールモデル集を2017年に刊行し、様々な機会に配布しています。

こうした取り組みは、学会HPで公開しています(https://www.jsbba.or.jp/science_edu/gender/)。

年次大会での一般講演発表者数と女性比率

	発表数		
	男性	女性	女性比率(%)
2020年	1,033	565	35.4
2021年	823	476	36.6
2022年	858	488	36.3
2023年	749	444	37.2
2024年	922	565	37.9

3:女性研究者の表彰・助成

優れた女性研究者を表彰しその研究を奨励するため、「農芸化学女性研究者賞」、「農芸化学若手女性研究者賞」、「農芸化学女性企業研究者賞」の3賞を2016年度に創設しました。2024年度は、それぞれ2名、2名、1名、計5名の女性研究者を表彰しました。

2021年度から農芸化学女性研究者チャレンジ研究助成と農芸化学若手女性研究者チャレンジ研究助成を開始しており、現在2024年度分を募集中です。

一般社団法人日本解剖学会 活動報告

一般社団法人日本解剖学会 理事長 寺田純雄(東京科学大学・教授)
事務局 170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9 駒込TSビル4F 一般財団法人口腔保健協会内
Tel : 03-3947-8891 FAX : 03-3947-8341 e-mail: anatomy@kokuhoken.or.jp

Activity report in The Japanese Association of Anatomists (JAA)

The Japanese Association of Anatomists (JAA)

Abstract:

We made the first great step by setting up the committee on promotion of gender equality in the JAA in March, 2011. In 2012, the JAA officially became a member of Japan Inter-Society Liaison Association Committee for Promoting Equal Participation of Men and Women in Science and Engineering (EPMEWSE). We held the 11th symposium to promote gender equality in the JAA at the 129th annual meeting (Held in Nahaon March 23, 2024). The name of the committee was changed to the Diversity Promotion Committee in June 2021 in order to promote various activities that take into account the diversity of members.

1. 解剖学会における男女共同参画の現状

最新の実態調査では日本解剖学会全会員のうち女性は21.72%を占めている。年代毎における女性の割合は20代:39.37%(女性50/男性77名)をピークに、30代:36.24%(104/183名)、40代:21.56%(108/393名)、50代:20.37%(99/387名)、60代:15.03%(52/294名)と若年層ほど女性の割合が高まっているが、会員数は年々減少傾向である。なお、学生会員99名における男女の内訳は52名:47名と拮抗しており、ここ数年はそのような状況である。

理事会の中では、2015年3月の解剖学会総会で女性の理事が2人誕生し、2023-24年度の理事19名中、女性は4名選任された。各委員会においては、15の全ての委員会(若手研究者の会含む)のうち女性委員が含まれ、2つの委員会で女性が委員長を務めている。2011年に男女共同参画推進委員会を発足したが、会員の多様性に配慮した様々な活動を推進するべく、2021年6月には委員会名称をダイバーシティ推進委員会へ改称した。引き続き、解剖学と学会の発展を支えていくことを目指している。

2. 第129回全国学術集会でのダイバーシティ推進委員会企画開催について

2024年3月の第129回日本解剖学会全国学術集会では、第11回男女共同参画推進企画として企画シンポジウム「解剖学におけるダイバーシティの取り組み」を実施した。また、子育てをしている研究者の方から、他の研究者の方々との情報交換や交流の場が欲しいとの意見を受け、若手研究者の会と共同で「ティータイム研究者交流会(男女年齢不問、子連れOK交流会)」を昨年に引き続き、現地開催の形で開催した。

3. 次年度全国学術集会でのダイバーシティ推進委員会企画開催について

次年度の第130回全国学術集会は第12回男女共同参画推進企画として解剖・生理・薬理3学会合同男女共同参画推進委員会ランチョンセミナーを実施する予定である。また、若手研究者の会との共同開催「ティータイム研究者交流会」も準備を進めている。

4. 変革に向けての今後の取り組み

今期の委員会も若手や男性会員を迎え、会員の多様性に配慮して組織した。全国学術集会時シンポジウムの開催費用については、学会本部より財政的・人的支援を得て、学会全体の取り組みとして継続していく。若手研究者の会との連携も同様である。

今後も委員会活動を通じて、会員の意識を高め、学会運営の改革とともに大学や研究室などの現場での実践に結び付けて行くことが重要である。

日本中性子科学会 サイエンス・ダイバーシティ推進に関する活動報告

日本中性子科学会(交流幹事:土肥侑也・山形大、能田洋平・茨城大、評議員:岩佐和晃・茨城大、
交流委員:平山朋子・京都大、植田大地・KEK)

Science Diversity Promotion of the Japanese Society for Neutron Science *The Japanese Society for Neutron Science*

Abstract: The Japanese Society for Neutron Science, founded in 2001, aims to promote and develop science using neutrons. In FY2023, we established “the Special Committee for the Promotion of Science Diversity” for a period of one year. We present some of the initiatives we had undertaken there.

<日本中性子科学会について>

日本中性子科学会は、2001年4月に中性子を用いた科学の推進発展を目的として設立された。中性子ビームの発生・制御技術や、中性子ビームを用いた物質材料科学・化学・生命科学など、多岐にわたる分野の学術的・技術的議論や情報交換、産業利用を含めた応用に関する普及活動を行っている。また量子ビーム科学に関する関連学会との連携を図るとともに、海外の学術団体や研究機関とも積極的な交流を行い、中性子科学研究の世界的な発展の一翼を担っている。

会員数は2024年現在599名であり、一般会員523名(うち女性37名)、学生会員39名(うち女性6名)、シニア会員37名(うち女性1名)である。

当学会では、主な行事として年会および総会を年1回開催し、会員の研究発表や意見交換の場を設けるとともに、学会誌「波紋」の発行(年4回)や学会賞の授与、一般向け公開講座の開催や産業分野への普及活動、中性子講座の実施を通じた人材育成などの事業を進めている。

現在は日本学術会議「未来の学術振興構想」に採択された、以下に示す「中性子ビーム利用の中長期研究戦略」の実現を目指しており、ダイバーシティをキーワードの1つに掲げている。



<https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-25-t353-3-146.pdf>

<サイエンス・ダイバーシティ推進の取り組み>

中性子科学コミュニティの将来を見据えて、当学会では2023年4月～2024年3月の1年間の期間限定で「サイエンス・ダイバーシティ推進特別委員会」を設置した。これは学会として益々重要となる新たなビジョンやプランの策定・実行において、女性や若手の参画や登用に加えて、多様なステークホルダーが協働できる場を形成した上で、学会の実行力を高めるためである。

具体的には「サイエンス・ダイバーシティの推進」と「学会の見える化」を実行するための多くの項目に取り組んだ。ここではその取り組みの一部を以下に紹介する。

- ・ 幹事会、評議員会におけるダイバーシティの推進に向けて、「評議員特別枠の設置」を2024、25年度の限定的措置として設置することとし、50歳未満の男女の会員から毎年1名ずつ選出することを提案し、規定が制定された。
- ・ 学生の会員に関して、学生会員としての位置づけの明確化、次世代の学会活動への参画につながる施策のため、関連する定款改定を実施した。
- ・ 2023年度総会開催日に第2回中性子科学将来ビジョン討論会として、量子ビーム関連学の4学会長の講演含む討論会を実施し、サイエンスダイバーシティに繋がる連携を活性化した。
- ・ 1年間の活動期間内で、上記の活動を含め、学会において重要な案件を多数実行できた。(活動内容の全容は、以下リンクを参照：<https://www.jsns.net/サイエンスダイバーシティ特別委員会/>)

今後は上記委員会で制定された土壌を基盤として、先述の構想に基づくビジョンの共有、将来計画の具体化を進めていく。

日本熱帯医学会におけるダイバーシティ&インクルージョン推進

一般社団法人 日本熱帯医学会 (齊藤(小畑)麻理子・東北大学大学院医学系研究科)

Initiatives to Promote Diversity and Inclusion in the Japanese Society of Tropical Medicine

*The Japanese Society of Tropical Medicine
(Mariko Saito-Obata, Tohoku University Graduate School of Medicine)*

Abstract: The Japanese Society of Tropical Medicine established the Gender Equality Committee in 2013. Considering the increase of foreign and overseas members, we have renamed the "Gender Equality Promoting Committee" to the "Diversity and Inclusion Promoting Committee" in 2023. Our main tasks are promoting DEI mind to the society member through the annual symposium and contributing to achieving a "society where everyone can shine".

<日本熱帯医学会について>

一般社団法人 日本熱帯医学会の主な目的は、熱帯医学分野の学術的研究の推進、および熱帯医学研究の進展を国内外に広く知らせることである。本学会の特徴として、学会員の多くが世界の熱帯・亜熱帯地域に研究フィールドを持っている点が挙げられる。

2024年度の本学会会員数は702名、うち女性は217名(30.9%)である。また本学会には医学部生を中心とした学生会員が多数所属しており、2024年度は学生会員150名のうち女子学生84名(56%)である。

<男女共同参画推進の歩み>

本学会における男女共同参画への具体的な取り組みは、2012年の男女共同参画担当理事の設置に始まる。その後、2013年に日本熱帯医学会男女共同参画推進委員会が正式に発足した。2018年度には熱帯医学の分野で国際的な業績を上げている女性を表彰する「日本熱帯医学会女性賞」を設立した。さらに2022年度以降は全理事16名のうち女性枠3名を設け、学会運営に女性会員の意見がより反映されやすい体制を整備している。

また、本学会は海外に研究フィールドを持つ研究者が多く、在外会員や外国人研究者が一定数在籍している。彼らが参加しやすい仕組み(Inclusion)をさらに整備し、学会員にもその意識を高めていく必要があること、男女のみならず、

組織の多様性を高めるためには国籍や障害の差異といった観点をさらに積極的にとり入れる必要があること等を鑑み、2023年度に委員会名を「ダイバーシティ&インクルージョン推進委員会」と改称した。本委員会の構成員は男女比を同程度とし外国籍会員もおくこととしている。

<シンポジウム開催>

本学会のダイバーシティ&インクルージョン推進委員会の主な活動として学術集会での男女共同参画シンポジウムの開催がある。2014年に第1回目となるシンポジウムを開催して以来、学術集会の開催に合わせて毎年シンポジウムを行っている。2022年は本学会の学生部会との共催とし、若い世代が海外で働くことを応援する内容とした。2023年は日本国際保健医療学会、国際臨床医学会、日本渡航医学会と合同で開催するグローバルヘルス合同大会であったため4学会合同シンポジウムを実施し、日本にいる外国人研究者が活躍しやすい環境改善をテーマとした。2024年も学術集会が国際保健医療学会との合同大会となることから、本シンポジウムを両学会の合同企画としてシリーズ化し、昨年度あまり取り上げなかった「性別」「年齢」に焦点を当てることとした。誰もが働きやすい社会の実現のためには私たち一人ひとりがアクションを起こすことが大きな一歩となるというメッセージを伝えたい。

日本応用数学会の男女共同参画への取り組み

日本応用数学会(石田祥子・明治大学・sishida@meiji.ac.jp)

Activity Report on Gender Equality in the Japan Society for Industrial and Applied Mathematics

*The Japan Society for Industrial and Applied Mathematics
(Sachiko Ishida · Meiji University · sishida@meiji.ac.jp)*

Abstract: The Japan Society for Industrial and Applied Mathematics (JSIAM) is the central organization for industrial and applied mathematicians in Japan. The JSIAM's objective is to foster the mathematical sciences and engineering mathematics which contribute to the innovation of science and technology. It is a cross-disciplinary society consisting of people researching mathematical phenomena (in mathematics as well as in other sciences), those who apply mathematics (engineering, technology), and those who develop methods of analysis (computer science, experimental science). This is an annual report on JSIAM activities related to promotion of gender equality.

日本応用数学会について

一般社団法人 日本応用数学会は、最近の研究、産業、教育における数理的イノベーションに応えるために1990年4月に発足し、その後2012年7月に一般社団法人に移行した学会です。2017年度には初めての女性会長が誕生する等、男女共同参画にも積極的に取り組んでいます。本学会会員の専門分野は理論から応用まで極めて多岐にわたっており、学際的に異分野の第一線の研究者や技術者が集まり、応用数理を研究、産業、教育に結び付けるための研究開発と普及、会員相互の連携・親睦、国際的な交流を積極的に行っています。国際機関 ICIAM (International Council for Industrial and Applied Mathematics) が4年に一度開催する国際研究集会を本学会と日本数学会が日本に招致し、2023年8月20-25日、早稲田大学にて開催されました。

男女共同参画への取り組み

本学会は、2014年に男女共同参画学協会連絡会に正式加盟し、第22期(2023年10月～)は、今井桂子元理事(代表会員)を委員長として同連絡会幹事学会を務めています。2017年11月には、ICIAMとの連携において台湾で実施された Gender gap project にも参加する等、国内外で男女共同参画に積極的に取り組んでいます。

2016年秋から、年会および研究部会連合発表会において、若手・女性研究者を中心としたランチミーティングを開催し、情報交換を行っています。コロナ禍では中断していましたが、2024年秋より

再開しました。少しずつ参加者も増え、若手や女性研究者間のネットワークが構築されています。

子育て世代の学会員を支援するため、2024年9月、年会会場内に臨時託児所を設置しました。理事会の補助を受けて利用しやすい価格設定が実現し、初めての試みながら会中に4名の利用がありました。利用者は男性が多かったことから、現在の子育て世代には、子育ては女性だけがするものではないという意識が浸透していることが分かりました。

男女共同参画への取り組みの一環として、NPO法人 女子中高生理工系キャリアパスプロジェクトが主催する「女子中高生夏の学校2024」(8月10-12日)に、今井桂子元理事が実行委員として(2020年度は実行委員長)、齊藤宣一元理事(代表会員)が進学・キャリア相談担当として、石田祥子理事(代表会員)がポスター展示「数理折紙をつくろう！」担当として参加しました。本学会ブースを訪れた約50名の生徒や大学生TAに、折紙の製作を通して応用数理の一端を紹介しました。キャリア相談の時間には、生徒や大学生TAからの質問に幅広く対応しました。

今後の取り組み

コロナ禍を経て再開したランチミーティング等で学会員の声を聴き、男女共同参画に関する取り組みを継続します。年会での託児所設置についても、より多くの方に利用してもらえるよう、周知方法や利用方法を検討します。

男女共同参画推進委員会 (Japan Endocrine Society Women Endocrinologists Association; JES We Can) の活動報告-2024-

日本内分泌学会 (委員長 浅原 哲子・京都医療センター・nsatoh@kuhp.kyoto-u.ac.jp)

Report of the Japan Endocrine Society Women Endocrinologists Association (JES We Can) from the Japan Endocrine Society (JES)

Japan Endocrine Society (Noriko-Satoh Asahara, MD, PhD. Kyoto Medical Center, nsatoh@kuhp.kyoto-u.ac.jp)

Abstract: In 2009, Japan Endocrine Society (JES) organized a committee to promote women's careers, with the nickname "JES We Can (Japan Endocrine Society Women Endocrinologists Association)." In various scientific meetings, JES We Can sessions were conducted by JES We Can members based on women's demands and showing the role models for women's career. The exchange activity with WE (Women in Endocrinology) of Endocrine Society (ENDO) has been conducted. ENDO is a global community of physicians and scientists dedicated to accelerating scientific breakthroughs and improving patient health and well-being. JES We Can invited an outstanding-speakers from WE and developed friendship between two associations. Now JES has a percentage of women membership in 20s and 30s of around 50%. The acquisition rate as board-certified endocrinologists of women aged <50 years is as same as that of men.

本学会は、内分泌代謝学に関する学理及び応用の研究についての発表及び連絡、知識の交換、情報の提供等を行うことにより、内分泌代謝学に関する研究の進歩普及を図り、もって我が国における学術の発展と人類の福祉に寄与することを目的としており、2026年に100周年を迎えます。広い領域から多様な研究者や臨床医が会員となっています。2009年に「女性医師専門医育成・再教育委員会」が発足し、「男女共同参画推進委員会」と改名し、学会内では当時のオバマ大統領選のキャッチフレーズに因み JES We Can (Japan Endocrine Society Women Endocrinologists Association) というニックネームが定着しました。本稿では本委員会における二つの特徴的活動を紹介します。

【1】JES We Can 企画: 全国および各支部の研究集会で JES We Can 企画を展開しています。女性会員のニーズを反映した多様な企画は、参加者満足度を増し、参加者数増加に寄与しています。女性会員に企画発案、準備、運営に携わる経験を積んでもらい、学会活動を積極的に担う会員育成にも寄与しています。講演者やシンポジストに多様な人材を登用することで、様々なロールモデルを示すこともできました。この JES We Can 企画は各方面から高く評価され、毎年の全国集会における定番プログラムになっています。

【2】WE (Women in Endocrinology) との交流: WE は 1975 年に米国内分泌学会 (ENDO) の女性会員支援を目的として発足した組織で、2015 年に 40 周年を迎えました。1975 年当時 10% 未満であった ENDO の女性会員割合を 2015 年には 50% とした実績に加え、各種研究助成や褒賞、交流会などの活動は大いに参考になるため、交流を深めて参りました。実際に、2017 年次学術総会 (京都)、2019 年次学術総会 (仙台) では外国人演者を招聘しパーティを開催する等、交流を深めております。

本学会の女性会員比率は 2012 年から 2022 年の 10 年間で約 27% → 34% と増加し、特に 20-30 代では約半数が女性です。また、専門医取得率も男女同等程度となりました (Endocr J 66: 359-368, 2019. doi:10.1507/endocrj.EJ18-0501)。女性役員数も内科系 14 学会の中で最も高い水準です。関連ある日本小児内分泌学会からも男女格差が解消されていることが報告されています (Clin Pediatric Endocrinology 30: 121-126, 2021. doi:10.1297/cpe.30.121)。

現在、内分泌学会 100 周年に向けて、ダイバーシティ等に関するアンケートやエッセイ集の作成など、歴代委員長から若手中堅の先生方とより一層結束を強くし、盛会に向けた準備を行っています。

日本海洋学会における男女共同参画関連の活動報告

一般社団法人 日本海洋学会

(男女共同参画担当理事 野口真希 [海洋研究開発機構]、岡英太郎 [東京大学])

Activity Report for Gender Equality in the Oceanographic Society of Japan

The Oceanographic Society of Japan (Maki Noguchi Aita, JAMSTEC; Eitaro Oka, Univ. Tokyo)

The Oceanographic Society of Japan was established in 1941 to advance and promote oceanography in Japan. The ratio of women regular members has averaged 11 - 12 % over the last eight years, while the number of students increased from 26.5 % in 2017 to 32.9 % in 2024. The election of the officers for 2023-2024 increased the ratio of female officers from 17% to 39%. We expect even more female officers to participate in the 2025-2026 board elections coming up this year.

日本海洋学会は、海洋学の進歩普及を図ることを目的として1941年に設立され、2024年4月1日より一般社団法人としての新たな活動がスタートしました。本学会はその目的を達するため、年2回の研究発表大会(5月のJpGUの中で行われる春季大会と、本学会単独による秋季大会)を開催、英文・和文の学術誌の発行、研究業績の表彰や研究の奨励、若手研究助成などを行なっています。日本海洋学会の会員総数は1,359名、男女の比率は男性会員80.2%、女性会員13.7%、回答なし6.1%です(2024年4月時点、図1)。日本海洋学会の男女共同参画の現状をみてみると、直近8年間の一般会員の女性比率は11~12%を推移しております。一方、学生会員では2017年の26.5%から2024年に32.9%まで増えており、これは、世界の女性研究者の割合33% (UNESCO Science Report 2021)と同じ数値です。学術研究活動やプロジェクト等の場に学生の参画を促進させるために、日本海洋学会では2024年度より学生会員の年会費を半額(3,000円)にいたしました。

今後、学生会員が増えることを期待しています。

日本海洋学会では、これまでに様々な男女共同参画に関する啓発活動を行ってきましたが、2023-2024年度の役員選挙では女性役員が、これまでの17%から39%に増えるなど大きな変化がありました。今年度は2025-2026年度の選挙を控えておりますが、女性比率がさらに向上することが望めます。当学会では、学生会員やEarly career会員(メンティー)が、助言・相談役となる先輩女性会員(メンター)と気軽に対話できる場として「Inclusion海かふえ」を2022年6月から開催しています。2023年9月の秋季大会の「海かふえ」では、これまでの女性会員限定から男性にも対象を広げ、さらに男性会員のメンター登録も開始しました。また、複数のメンターの情報を予め掲示し、メンティーが相談したい内容に応じて、自らがメンターを選ぶ、という新たな試みも行いました。メンティーが主体的に行うことで、自身の環境・課題を客観的に捉え、次の成長へとつなげることが期待されます。

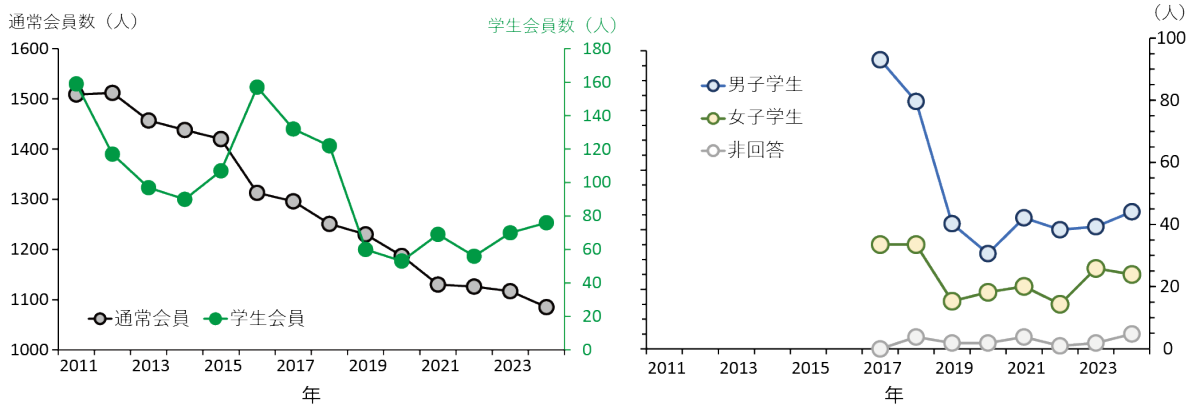


図1 (左図)2011年~2024年における通常会員数と学生会員数の推移、(右図)2017年~2024年の学生会員数の推移(男子、女子、非回答別)。各年の4月時点での集計値。

日本熱帯生態学会 ダイバーシティ推進活動報告

日本熱帯生態学会(四方篤(京大)・佐々木綾子(日大)・保坂哲朗(広大)、事務局: jaste.adm@gmail.com)

Recent Activities for Promoting Diversity in The Japan Society of Tropical Ecology

The Japan Society of Tropical Ecology (JASTE) (URL: <https://www.jaste.website/>)

Abstract: The Japanese Society of Tropical Ecology (JASTE) was founded in 1990 to promote the advancement of ecological research in the tropics and the exchange and dissemination of research results. To promote gender equality and diversity, JASTE has been involved in various activities such as providing childcare services and organizing events. In 2024, “Casual Lunch Meeting” was held as a satellite event of JASTE34 (2024 Annual Meeting). Four roundtables were set up by topic, and participants interested in each topic exchanged opinions and information.

【日本熱帯生態学会について】

日本熱帯生態学会は、熱帯地域の生態学的研究の進歩および研究成果の交流と普及を図ることを目的として1990年に設立されました。自然科学系・人文社会系を問わず、熱帯地域の自然と社会に関心をもつ幅広い分野の研究者が所属し、会員の多くは国内外におけるフィールドワークに依拠した研究活動を展開しているのが特徴です。英文誌“TROPICS”や和文ニューズレター“Tropical Ecology Letters”の発行・年次大会・学会ウェブサイト等を通じて、熱帯の自然と社会に関連した最新の研究成果や速報、関連分野のニュース、学会記事などの情報発信・交流をおこなっています。

【ダイバーシティ推進に向けた取組】

2024年3月現在の総会員数は327名(正会員229名(シニア会員24名含)、学生会員74名、外国正会員7名、機関会員4名、帰国留学生会員10名、寄贈会員3名)で、ここ数年、総会員数は横ばいで推移しており、ジェンダー比は学生や若手研究者層で女性会員数が増加傾向にあります。本学会ではこれまで、幹事会が中心となり、ダイバーシティ推進に向けて大会期間中の託児補助やイベント開催等、様々な取組を実施してきましたが、来年度からは新たに「ダイバーシティ推進委員会」を設置し、男女共同参画だけでなく外国人研究者、若手研究者等、多様なニーズをもつ会員が参加しやすく魅力的な学会環境となるよう、議論・活動を展開していく予定です。

【ダイバーシティ推進イベントの開催】

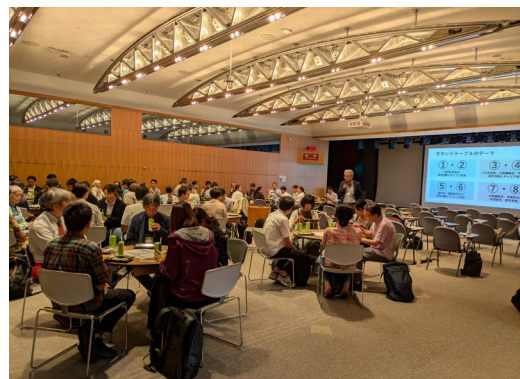
2024年6月に開催された日本熱帯生態学会第34回年次大会(JASTE34, 福井県国際交流会館)では、

会員どうしの交流を深めることや情報共有を意図して、大会1日目の昼食時に「ランチミーティング」を開催しました。初めての試みでしたが大変盛況で、70名以上(=対面参加者の大半)が参加し、にぎやかな会となりました。当日は参加者のお弁当を学会の方で準備し(学生会員・非常勤の若手会員には無料で提供)、事前アンケートの結果に基づき、会場に以下4つのテーマ別ラウンドテーブルを設置しました。

ラウンドテーブルのテーマ

- 1)自然科学系の研究活動とキャリア形成
- 2)人文社会系、分野横断型・学際型の研究活動とキャリア形成
- 3)留学生・帰国留学生の研究活動とキャリア形成
- 4)分野横断型・学際型の共同研究、研究発展

各テーブルでの自由な交流に加えて、研究ファンドの紹介や学会誌への投稿の呼びかけ等、会員の研究活動促進に向けた情報共有もおこなわれました。参加者からは「専門の異なる研究者と話ができる貴重な機会だった」、「この企画で知り合った研究者とその後連絡を取り合うようになり、とても有意義な機会だった」等の感想が寄せられました。



日本加速器学会 活動報告 2024

日本加速器学会(会長 栗木雅夫・広島大学大学院先進理工系科学研究科・mkuriki@hiroshima-u.ac.jp)

Activity Report 2023 of Particle Accelerator Society of Japan

Particle Accelerator Society of Japan (President, Masao Kuriki, Hiroshima University)

The society has grown steadily over the past 20 years, with membership doubling, and in April of this year it became a general incorporated association. Since we became a regular member of EPMEWSE in August 2021, we actively work for the realization of a gender-equal society under the communication with other societies.

1. 日本加速器学会について

日本加速器学会は、加速器科学、加速器技術およびこれ等に密接に関連する学問の進歩発展により社会に貢献することを目的として、2004年に設立され、会誌「加速器」の発行(年4回)、年会の開催(8月)を中心に活動をしています。設立20周年を迎える2024年には一般社団法人となりました。2024年9月の総会員数は965名で、2004年の設立以来ほぼ倍増しております。また、この一年で女性会員は5名増加し47名となっているように、増加傾向です。

本学会では、2021年より男女共同参画社会の実現に向けた取り組みを学会として開始しました(2021年7月、評議員会承認)。2022年には学会の将来的なあり方についての課題を担当する理事(学会活性化担当)を新設し、若手育成とともに男女共同参画への取り組みを強めていくことを目指しています。本連絡会を通じ他学会の皆様との交流を進めながら、具体的な活動を進めています。

2. 男女共同参画に関連する事項

本学会の意思決定における男女参画について検証するため、学会の意思決定機関である代議員会の構成を調べた結果を表1に示します。会員総数に占める女性の割合(2024年9月)は4.9%です。期待される代議員は1.5名であることから、会員比率に比べて女性の代議員は多い傾向にあります。

毎年8月に開催される年会は、600名を超える会員が参加し、それぞれの研究成果を発表するイベントです。年会では、研究活動・研究者生活の初期段階にある、学生および若手研究者を奨励することを目的として、年会賞(口頭発表部門、ポスター部門)が設けられています。年会賞の受賞者について、直近の年会の実績を調べた結果を表2に示します。こちらも女性比率に比べ高い傾向があります。

学術的会合である年会では託児室を設置し、費用の一部を学会が負担しています。オンライン開催となった2020年から2022年を除き、2018年、2019年、

2023年、2024年それぞれ1件ずつの利用実績がありました。年会における託児室の設置は、女性代議員の発案で2015年に始めたものですが、男性、女性会員ともに利用があり、男女共同参画に直接的、間接的に貢献しています。今後の年会でも託児室の設置を継続します。

内閣府の男女共同参画白書(令和3年版)では、専門分野別研究者数として、理学、工学分野における女性研究者の割合が、それぞれ、14%、6.9%と報告されています。米国の類似した研究分野であるビーム物理領域においては、女性比率は12.6%であり、米国における他の領域にくらべてプラズマ物理11.7%とならび低い数字となっています。原因には進路選択の際の無意識のバイアスが指摘されており、本連絡会を通じての取り組みを期待します。

2023年に学会の将来的なあり方を議論する会員のフォーラムを創設しました。今後議題の一つとして男女共同参画をとりあげます。

表1: 代議員(評議員)30名中の女性の数

期間	女性	期間	女性
2004-2005	1名	2016-2017	2名
2006-2007	0名	2018-2019	0名
2008-2009	1名	2020-2021	2名
2010-2011	1名	2022-2023	3名
2012-2013	0名	2024-2025	2名
2014-2015	2名		

表2: 年会賞受賞者(女性/総数)

	口頭発表	ポスター発表
2019年	0 / 3	2 / 5
2020年	0 / 5	0 / 5
2021年	0 / 3	1 / 6
2022年	0 / 3	1 / 5
2023年	1 / 4	0 / 8
2024年	1 / 4	0 / 7

ダイバーシティ委員会 活動報告

公益社団法人 地盤工学会

Equality and Diversity Annual Report 2023/2024

The Japanese Geotechnical Society

Abstract: The Japanese Geotechnical Society (JGS) is an association of engineers from various fields such as civil engineering, architecture, agriculture, and geology. The Equality and Diversity Committee is working to spread and establish an awareness of diversity in the JGS and to support engineers in various positions to play an active role. This report describes the activities of Equality and Diversity Committee in this year.

1. はじめに

(公社)地盤工学会は、日本における地盤工学の学術・技術の進歩、技術者の資質向上および学問・技術を活用し社会貢献を行う研究者・技術者の集まりである。地盤工学会は、7,258人(2024.7.31現在)の個人会員を有しており、産官学から土木、建築、農業、地質など様々な分野に従事する人材が集まっている。このような環境の中で、それぞれが自身の個性を生かしながら、多様な背景や視点を持つ人々とのつながりを享受し、共に助け合い、成長できる環境を推進すべく、ダイバーシティ委員会は2010年の発足以来、活動を続けている。

2. ダイバーシティ委員会の活動

2.1 技術者・研究者紹介

ダイバーシティ委員会は、2015年より地盤工学に携わる様々な技術者・研究者を学会誌および学会のwebページにて紹介する活動を行っている。地盤工学会会員に限らず、ライフワークバランスに悩んでいる方や、海外から日本に留学・就職している方など、多くの方が参考できる情報を収集し、発信するように努めている。2023年10月には、株式会社技研製作所に勤めるハミドゥ ハマドゥン タンポウラ氏(ブルキナファソ出身)から寄稿いただいた。自身が日本で働く理由、自身の職場環境、仕事と子育ての両立や外国人が少ない地域で働く上での問題点や会社の取り組みについて、日本語と英語の両方で紹介されており、大変興味深い内容であった。

2.2 地盤工学研究発表会におけるダイバーシティ関連セッション(市民向け)の開催

2024年7月に旭川市で開催された第59回地盤

工学研究発表会にて、会員以外の方々も自由に参加できるダイバーシティ関連セッションを開催した。当該セッションは2005年から継続的に開催されており、異分野の方々とも意見交換できる貴重な場として、多くの参加者を集めている。今年のセッションテーマは「多様な働き方改革」と「人材育成」に設定され、旭川信用金庫の相馬淳氏による基調講演と、旭川市女性活躍推進部の片岡晃恵氏、旭川市立大学の守屋尚子氏、そして基調講演者の相馬淳氏をパネリストに迎え、同委員会の片岡沙都紀氏をコーディネータとしてパネルディスカッションを開催した。旭川市は、誰もが働きやすく活躍できる職場づくりに積極的に取り組む事業者の認定や表彰を行っており、旭川信用金庫は令和5年度の表彰事業者、旭川市立大学は同年度の認定事業者に選定された。基調講演およびパネルディスカッションでは、各事業団体での取り組みや課題についての紹介とともに、働き方改革は産官学や業界に関わらず社会全体で取り組むべきであること、その内容は個々の事業者や職員の状況に合わせて柔軟であるべき等、多くの意見が出された。

3. おわりに

世界中で取り組まれている働き方改革は、単に労働時間短縮ではなく、リモートワーク等による業務スタイルの変革や、多様な人材の受容と育成、育児・介護制度の充実、労働生産性の向上など、取り組むべき課題は多岐にわたっている。今後も、意見交換や情報発信を活発にすることで、学会の多様な人材活躍に貢献していきたい。

土木学会におけるダイバーシティ・インクルージョン推進の取り組み

土木学会 ダイバーシティ・アンド・インクルージョン(D&I)推進委員会
(米山 賢 建設技術研究所 <http://www.committees.jsce.or.jp/diversity>)

Promotion of Diversity and Inclusion at JSCE in the 11th term

*Japan Society of Civil Engineers (Ken YONEYAMA, CTI Engineering,
<http://www.committees.jsce.or.jp/diversity>)*

Abstract: Diversity and Inclusion Committee of Japan Society of Civil Engineers (JSCE) works in a two-year term, proposing various activities while developing a stable foundation within committee. In this article, the achievements in the 11th term are introduced. They include: (1) JSCE Diversity and Inclusion Action Statement, (2) promotion of JSCE 2020 Project.

1. 土木学会の概要

土木学会には37,000余名の個人会員(正会員、学生会員)が所属し、女性会員の比率は6.9%となっている。1998年を基準とした最近20年余りの経過では男性会員数がほぼ横ばいで推移しているのに対し、女性会員数は約4倍と大きく増加している。

土木学会ダイバーシティ・アンド・インクルージョン推進委員会(略称:D&I委員会)は、2004年に教育企画・人材育成委員会のジェンダー問題特別小委員会として発足後、2006年に男女共同参画小委員会、2010年にダイバーシティ推進小委員会と名称変更し、2014年にダイバーシティ推進委員会に格上げされ、さらに2020年に「アンド・インクルージョン」を加えた現在の名称に変更し、今日に至るものである。

当委員会は、2年一期を単位として現在第11期の活動を行っているところである。

2. ダイバーシティ推進に関わる活動状況

(1)ダイバーシティ&インクルージョン行動宣言

多様な人材の活躍を推進する活動に取り組むという宣言である「ダイバーシティ&インクルージョン行動宣言」(以下、「D&I行動宣言」という)は、将来にわたる継続的かつ発展的な社会資本整備の推進とそれを実現する人材の育成を目的として、2015年に策定された未来志向の宣言である。

D&I行動宣言はその策定・発表にとどまることなく、宣言に基づいた具体的な行動に結びつけることが重要と考え、宣言の周知と意識向上の一助とすることなどを目指して、以降の活動を行ってきた。

これまでは、「D&Iウィーク」という集約型イベントを開催し、期間中にシンポジウム、各団体や職場のD&Iポスターの展示、D&Iカフェの開設、関連図書の展示などを行ってきたが、2024年度は策定から10年経過したタイミングで行動宣言のフォローアップ活動に着手した。

(2)JSCE2020 プロジェクトの推進

土木学会の5か年計画「JSCE2020-2024(略称:JSCE2020)」における4つのプロジェクトの一つとして、「土木D&I2.0にむけた活動の場とツールをつくる」が位置づけられ、中期重点目標「目標4:次世代の土木技術者の育成と多様な人材が活躍できる社会の実現」に対応している。

プロジェクトは大きく2つの目的をもって推進しており、一つは、これまで推進してきた土木学会のD&Iの成果と活動実態をふまえ、「(A)女性に限定しない対象の拡大と、取り組みの裾野の拡大をはかるためのアクティブなプラットフォームを構築すること」であり、もう一つはD&Iを広く推進するために、「(B)それぞれの職場でD&Iの進捗状況、成果を意識化することで土木界のD&I進展をはかるための土木界向けツールを作成すること」である。

目的(A)については、すでに世の中に存在しているさまざまなD&Iを定期的で開催する30分程度のトークを通じてとりあげる「D&Iカフェトーク」(2024年8月までに63回開催し、現在も継続中)と、外国出身技術者の活躍をテーマに土木学会国際センターや他の委員会、支部などと連携し、情報交換機会として全国大会における研究討論会を主催するなどの活動を展開している。

目的(B)については、土木界向けツール開発を行うことを視野に、すでに存在するツールや指標を調査してこれらを参考としながら、実際の利用者や利用場面を想定することにより、ツールの要件定義や内容を具体化する形で進めている。さらに各企業・団体等におけるD&I推進の取り組みを発信・共有するため、「土木D&Iポスターコレクション」として、D&Iに関するポスターをオンラインで常設展示している。

2024年度はこれらをレビューしたうえで、定常活動への組み入れや新たな活動を企画している。

日本表面真空学会ダイバーシティ推進委員会活動報告

(公)日本表面真空学会

板倉明子・物質・材料研究機構・itakura.akiko@nims.go.jp

粉川良平・(株)島津製作所・kokawa@shimadzu.co.jp

平野愛弓・東北大学・ayumi.hirano.a5@tohoku.ac.jp

Recent Activities of the Diversity Promotion Committee of the Japanese Society of Vacuum and Surface Science

The Japan Society of Vacuum and Surface Science

(Akiko N. ITAKURA, NIMS, itakura.akiko@nims.go.jp,

Ryohei KOKAWA, Shimadzu Corporation, kokawa@shimadzu.co.jp,

Ayumi HIRANO, Tohoku Univ. ayumi.hirano.a5@tohoku.ac.jp)

Abstract: The Diversity Promotion Committee of the Japan Society of Vacuum and Surface Science was established in 2018. Since then, the committee has held several symposiums to promote diversity, established a young female researcher award and female student researcher award, and started serializing diversity-related articles in the journal, "Vacuum and Surface Science."

公益社団法人日本表面真空学会は2018年に日本表面科学会と日本真空学会とが合併して設立された比較的新しい学会である。とはいえ日本真空学会は1958年発足、日本表面科学会は1979年発足の学会であるため、当学会は双方の歴史と活動を引き継いでいる。ダイバーシティ推進委員会は日本表面真空学会の設立と同時に発足した。

【シンポジウム等】2018年11月に「委員会設立記念ダイバーシティ・キックオフシンポジウム」を、2019年以降も学術講演会等で複数回のダイバーシティシンポジウムを開催した。2024年には学会関東支部の特別講演としてダイバーシティ推進活動に関するパネルディスカッションを行った。学術講演会や国際会議での託児室設置、ベビーシッター料金補助も開始した。

【対外活動と女性比率】発足と同時に男女共同参画学協会連絡会のオブザーバー参加学会となり、本年度からは正規の加盟学会となり、他の学会との情報共有を行っている。しかし、現状において、表面真空学会の女性比率は正会員が7%、学生会員が14%程度で、学会合併時よりも学生会員は微増しているものの、やはり少ないと言わざるを得ない。

【女性賞】ダイバーシティ委員会発足と同時に、若手の女性研究者の学会への参加・活躍を促進するために、新たな賞を創設してはどうかとい

う議論が開始された。理事会やダイバーシティ委員会の議論ののち、2020年度に日本表面真空学会女性研究者賞(若手女性研究者優秀賞・女子大学院生優秀賞)を創設した。審査はダイバーシティ委員会が主導し、審査員は男女同数にするなど、表面真空学会の他の賞との差異化を意識した。賞に漏れた応募者に丁寧なアドバイスを送ることも特徴としている。また、女性研究者賞の受賞者の受賞記念講演を行った(コロナ流行時にはリモート講演)。

【会誌の連載記事】アンコンシャスバイアスは、人間が潜在的に持っている偏見のことで、自覚できないだけに自制することが難しい。時には良かれと思って発した言葉や助言が、相手を怒らせたり悲しませたりしてしまうという話も聞く。マイノリティの立場の人たちの状況や意識を理解するチャンスが少ないことが原因であると考え、学会誌『表面と真空』の不定期な連載として、ダイバーシティ通信を発信している。差別のない理工系学会はどうあるべきか、企業の女性登用や育児支援などはどうなっているか、男性の育児休業や介護休業のとりやすさ、学会託児室はどのように運営されているか等、耳にはするけれど詳細を知らない、そんな情報を、会誌の読み物として少しずつ会員と共有している。

参考 表面真空学会公式HP <https://www.jvss.jp/>

日本鳥学会 2023-2024年度の男女共同参画活動報告

日本鳥学会ダイバーシティ推進ワーキンググループ(堀江明香(大阪市立自然史博物館))

Report on the activities of the Ornithological Society of Japan for equal participation of men and women in science in 2023-2024

The Ornithological Society of Japan (Maki Yamamoto, Nagaoka Univ. of Tech)

Abstract: The Ornithological Society of Japan was established in 1912, and currently has approximately 1,000 members. The main purpose of the Society is to contribute to the development of a wide range of ornithological studies. In 2024, the Diversity Promotion Working Group was established and held a first seminar at the annual conference.

<日本鳥学会について>

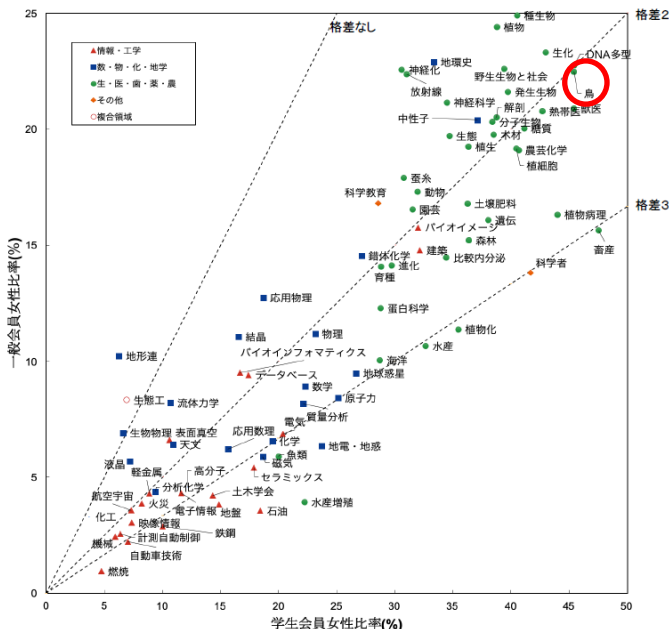
日本鳥学会は、1912年(明治45年)に発足し、創立以来、鳥学の発展および鳥類保護への学術的貢献を目的として、様々な活動を行っている。

2024年の調査では、一般会員数は1,091名(うち女性は200名、18.3%)、学生会員は207名(うち女性は95名、46.0%)。学生の男女比はほぼ1:1であるのに対し、一般会員には女性が少ない。女性の監事への就任はあるものの、理事・代議員35名のうち女性は9名である(25.7%)。

<日本鳥学会における現状と課題>

一般会員の女性比率は13%(2013年)、12%(2015年)、14%(2017年)、22%(2019年)と、2019年には多少改善されたものの(図)、17.1%(2023年)、18.3%(2024年)と、その後は横ばいである(「連絡会加盟学協会における女性比率に関する調査」(男女共同参画学協会連絡会)より引用)。

一般会員女性比率と学生会員女性比率(拡大)



<2023-24年度の男女共同参画の取り組み>

1. 第21回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムに参加。報告を学会誌等へ掲載。

2023年10月12日に開催された第21回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムに、日本鳥学会企画委員3名が参加した。参加報告を日本鳥学会誌および鳥学通信(ブログ)に掲載予定。

2. ダイバーシティ推進ワーキンググループ発足

日本鳥学会において、男女共同参画を含むダイバーシティを推進するための新たなWGを2024年1月に設立した。男女共同参画関連の活動を行うメンバーが以前の2名から7名と大幅に増加。学会HPに、ダイバーシティ関連の情報を掲示するページを新設予定。2024年度の年次大会では、男女共同参画学協会連絡会の後援を得て、ランチョンセミナーを開催した(裏出令子先生ご講演)。参加者66名。

また、男女共同参画学協会連絡会運営委員会に日本鳥学会企画委員が参加した。

<男女共同参画学協会連絡会と日本鳥学会>

- 2007 連絡会にオブザーバー加盟
第5回連絡会シンポジウムに参加(以後、毎年参加)
- 2008 大会において託児所開設(以後、毎年設置)
- 2012 第3回大規模アンケート調査実施
- 2013 年次大会でポスター発表
- 2014 学会誌に連絡会シンポジウムの内容についての報告を掲載(以後、毎年掲載)
- 2015 年次大会でポスター発表
- 2016 第4回大規模アンケート調査実施
- 2024 オブザーバーから正式加盟に移行
学会内にダイバーシティ推進WGを設立

日本組織細胞化学会活動報告

日本組織細胞化学会 男女共同参画委員会、理事長

(中西陽子¹・宮東昭彦²・原田義規³・高浪景子⁴・江原鮎香⁵・菱川善隆⁶)

¹日本大学医学部腫瘍病理学, ²杏林大学医学部顕微解剖学, ³京都府立医科大学細胞分子機能病理学,
⁴奈良女子大学生活環境学部, ⁵獨協医科大学医学部解剖学, ⁶宮崎大学医学部解剖学・jshc@nacos.com

Activities of Japan Society of Histochemistry and Cytochemistry

Japan Society of Histochemistry and Cytochemistry

*(Yoko Nakanishi¹, Akihiko Kudo², Yoshinori Harada³, Keiko Takanami⁴, Ayuka Ehara⁵,
Yoshitaka Hishikawa⁶)*

¹Nihon University School of Medicine・nakanishi.youko@nihon-u.ac.jp, ²Kyorin University Faculty of Medicine, ³Kyoto Prefectural University of Medicine, ⁴Nara Women's University, ⁵Dokkyo Medical University, ⁶Miyazaki University School of Medicine・jshc@nacos.com

Histochemistry is a research field that aims to visualize and understand the essence of various life phenomena in tissues and cells. We are highly interdisciplinary experts who hold seminars and provide methodologies. Through these activities, we hope to contribute to the development of young researchers, the improvement of the skills of diverse researchers, and the continuation of their inquisitive spirit.

1. 日本組織細胞化学会について

日本組織細胞化学会は、1960年に発足した「日本組織化学会」と「組織化学会」を基に、1968年に「日本組織細胞化学会」として設立されました。組織細胞化学は、様々な生命現象の本質を組織や細胞の上で可視化してとらえることを目的とした研究分野です。会員は、解剖学、生理学、生化学、病理学をはじめとする基礎医学から、内科、外科、産婦人科、皮膚科など臨床医学や歯科学、薬理学、獣医学など、多岐にわたり、さらに、近年は、染色や可視化、画像解析などの機器開発に関与する工学系の方々、また、組織細胞化学が医療現場にも必須となってきたことから、臨床検査や製薬企業の方々も参加され、非常に幅広い、学際的な学会活動を展開しています。

英文機関誌 *Acta Histochemica et Cytochemica* (<https://ahc-journal.jp/>) を発行しており、2022年度のIFは2.4となっています。

2. 男女共同参画への取り組み

2024年8月現在、会員総数596名に対して、女性総数は164名(27.5%)で、昨年より約2%増員となり、理事、幹事14名中、女性は3名です。男女共同参画委員会は2012年に発足し、学協会連絡会に参加しています。学会ホームページに専用ページを設けており、また学術集会では、男女共

同参画セッションを定期的で開催して、会員への情報共有を図っています。

3. 学会活動ー若手研究者育成への取り組み【組織細胞化学講習会】

本学会では、組織細胞化学講習会を毎夏開催し、会員に限らず、初学者の方にもわかりやすい分子組織細胞化学的方法論の普及・啓蒙活動に力を入れています。実際に、各大学のエキスパートの先生方が、実技指導を行うWetLabは大変好評で、今夏は東北大学に200名を超える参加者が集まりました。細胞や組織、実験動物の取り扱い、染色や顕微鏡観察の基本から、蛍光抗体、核酸の局在、組織透明化、タンパク質相互作用、ナノ粒子の活用、画像解析、AIなどの最先端技術まで、充実した3日間となりました。

【学術集会】

今年の学術集会は、群馬大学で開催されます(<https://conference.wdc-jp.com/jshc/65th/>)。日米交流や、教育講演、男女共同参画・若手育成セッションなど盛りだくさんの企画です。

本学会は、学際性豊かで、きめ細かい活動を通して、若手研究者の育成や、多様な研究者の技術向上と探求心の継続に貢献していきたいと考えます。



応用物理学会ダイバーシティ&インクルージョン委員会活動報告

公益社団法人 応用物理学会

連絡先: 筑本知子(大阪大学)、桂ゆかり(物質・材料研究機構)、神戸美花(AGC(株))、富樫理恵(上智大学)、
松木伸行(神奈川大学)、青砥なほみ(広島大学)

Activities Report of the Diversity & Inclusion Committee of JSAP

The Japan Society of Applied Physics (JSAP)

Contact: Noriko Chikumoto (Osaka Univ.), Yukari Katsura (NIMS), Mika Kambe (AGC), Rie Togashi (Sophia Univ.),
Nobuyuki Matsuki (Kanagawa Univ.), Nahomi Aoto (Hiroshima Univ.)

The committee promotes Diversity & Inclusion (D&I) to create a society where individuals are respected and can fully realize their talents. Through activities within and beyond the Japan Society of Applied Physics, the committee aims to advance diversity across various fields and contribute to societal revitalization.

設立の経緯

- 2001年2月 男女共同参画ネットワーク準備委員会を
発足
- 2001年7月「男女共同参画委員会」設立
- 2006年3月「人材育成・男女共同参画委員会」へ発
展的改称
- 2011年4月「人材育成・教育事業委員会」へ改編
- 2012年2月「人材育成委員会」へ改称
- 2015年3月「男女共同参画委員会」へ改編
- 2022年3月「ダイバーシティ&インクルージョン委員
会」へ発展的改称

活動目標

ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)を推進することにより、個が尊重され、各々の才能を十分に発揮できる社会の実現を目指し、様々な活動を行っています。応用物理学会内外での活動を通じて、男女に限らず幅広い分野での多様性推進、社会の活性化に寄与したいと考えています。

主な活動

1) 公開シンポジウム等の開催

様々な観点から D&I や若手研究者のキャリアパス等を考え議論する場として公開シンポジウムを毎年春の学会に合わせて開催してきており、今年度は「若手・氷河期世代・女性研究者の声はどこまで届いているか？」をテーマに行いました。また、今年度は D&I に関わるトピックスを取り上げて学びディスカッションを行う場として、新たに無料チュートリアルセッション「D&I を目指す事例紹介:『大学入試への女子枠導入』を経験して」を開催しました。

2) 国際交流

2002年にInternational Union of Pure and Applied

Physics (IUPAP) - International Conference on Women in Physicsに日本物理学会と合同で参加・講演したのを皮切りに、定期的に同会議やGS (Gender Summit) 等に参加し、講演を行っています。

3) 表彰事業

女性研究者研究業績・人材育成賞(小館香椎子賞)を設け、2009年から2021年にかけて、研究業績部門12名、研究業績部門(若手)18名、人材育成部門6名を表彰してきました。この小館賞を発展させる形で、2022年にD&Iの推進を通じて応用物理分野の活性化を図ることを目的とした応用物理学会ダイバーシティ&インクルージョン賞を新たに設立しました。

4) ネットワークの強化

多くの会員に性別、国籍、分野を問わずにつながりを作る場として、「NEWMAP (NEtwork for Women and Men in Applied Physics) ランチ会」等を開催し、活発な議論の機会を提供しています。

5) 勉強会・調査活動の実施と会員に向けての情報の発信

D&Iの現状把握のための勉強会やアンケート分析等の調査活動を行うとともに、これらの結果や委員会の活動について、定期的に学会誌「応用物理」に記事を掲載したり、学会のwebサイトの委員会ページに随時掲載する等、積極的に情報の発信を行なっています。

6) 女子中高生の理系進路選択支援

女子中高生の理系進路選択の支援を目的として、毎年「女子中高生夏の学校」に参加しています。

詳細は下記ウェブページをご覧ください。

(公社)応用物理学会ダイバーシティ&インクルージョン委員会

<https://www.jsap.or.jp/gender-equality>



「男女共同参画ランチタイムセミナー」報告

日本流体力学会(田口智清・京大・taguchi.satoshi.5a@kyoto-u.ac.jp; 小布施祈織・岡山大学;
宗像瑞恵・熊本大学)

Report on the Gender Equality Lunchtime Seminar

The Japan Society of Fluid Mechanics (S. Taguchi; K. Obuse; M. Munekata)

We exchanged opinions about female quota admissions during the lunchtime seminar.

2024年の男女共同参画ランチタイムセミナーは、年会2日目(9月21日)の昼食時に、一昨年と同様に対面とZoomのハイブリッド形式で開催し19名が参加しました。2016年度から毎年開催してきて今回で8回目となるテーマは「各大学や企業における「多様性についての取り組み」と「女子枠入試や女性限定採用」について」としましたが、時間の都合上、「女子枠入試」を中心にフリーディスカッション形式で活発な意見交換がなされました。

女子枠入試を導入する大学が増えつつある昨今の状況を紹介し、女子枠入試の目的として、理工系人材の育成や多様性を強化すること、女子学生割合を増やすことなどが挙げられますが、すでに導入している大学の学部学科は工学部の機械・電気・情報系が多い傾向があります。導入理由について参加者の皆様にお尋ねしてみたところ、女子学生割合が極めて少ない学部学科はいつまでたっても何も変わらず増えることはないため、女子枠入試を推薦入試等で実施する取り組みについて情報提供いただきました。

また、実施例だけでなく過去に女子枠推薦入試を導入して一定割合の女子学生が在籍するようになったため後に廃止した例についても話題にし、女性の先輩の入試経験の有無や先輩との繋がりがその後の後輩の一般入試の受験に影響していることから10~20年の長い期間で増員のための女子枠入試を実施することが必要であることを認識しました。

在学中の女子学生に視点を向けると、講義を受けるクラス内での女子学生が少数数であることが問題であり、相談相手の有無や交流関係の状況が個人の学修パフォーマンスに少なからず影響を与えてしまい、文化・背景の異なるマイノリティな留学生も同じであり、多様性と女子学生の問題については共通的な部分があるという指摘が

ありました。これらの解決策として、女子学生が少ない学科においては、組織的に女子学生を同じクラスで受講させて寂しくないように工夫したり、学年関係なく女子学生同士のネットワーク活動をサポートしてきた例が報告され、女子学生も男子学生も女友達が欲しいという意見に共感し、大学は学問するだけでなく、人間性を養う場であることも踏まえ、やはり女子枠入試で人数を増やすことは有効であるという意見が多数出ました。また、性別に関わらず、孤独感を感じさせないように低学年から研究室仮配属を実施して相談体制をつくることで退学率を下げた例や海外の大学でも決まった曜日の放課後などに学生同士で集まれる機会と場所を提供して閉じこもりを回避している例などの紹介があり、大学を全うするには教員によるサポートより友達の存在が重要であることを再認識しました。

海外での女性枠の大学入試は調査した限り、人種や宗教に基づく女性の社会進出を目的としたアメリカやイランの数例のみであり、理工系分野に特化した女子枠入試の取り組みは日本特有のものと思われます。高校でも女子学生に理系選択を進めているにも関わらず、女性割合が増えていかない原因として、歴史的に理工系で活躍する女性社会人のケースモデルが子供のころから身近にいないことや憧れの存在となる女性のロールモデルが少ないことが挙げられ、中学生ぐらいから出前講義などで周知していくなど地道な活動は今なお大事です。また、他の原因として、入試問題が男子学生向けであり、敷いては小学校からの教育カリキュラムが男性中心の進度でつくられている初等教育の根本に対する指摘があり、理系に興味をもったときに伸ばせば男女関係ない例も紹介いただき、解決策の糸口を垣間見ることができました。



日本数式処理学会 活動報告2024

日本数式処理学会（広報委員会内 男女共同参画担当）

Japan Society for Symbolic and Algebraic Computation – Activity report 2024 –

*Japan Society for Symbolic and Algebraic Computation
(Committee on Public Information)*

Abstract: The Japan Society for Symbolic and Algebraic Computation (JSSAC) is an association consisting of those who have a deep interest in research, development, application, and usage of symbolic and algebraic computation. JSSAC was established in April 1992 for the purpose of progressing, developing, and popularizing symbolic and algebraic computation through mutual cooperation and exchange between members and related organizations. In June 2009, JSSAC moved to a general incorporated association. This report is the summary of our activities on gender equality.

<日本数式処理学会について>

日本数式処理学会は、数式処理に係わる研究・開発・応用・利用に深い関心を抱く者から成る組織であり、会員間および関連組織との相互協力・交流を通じて、数式処理の進歩・発展・普及を図ることを目的として1992年4月に設立されました。その後、2009年6月には一般社団法人に移行しています。

本学会は、数式処理そのものを研究対象とする数学系、情報系の会員から、数式処理を利用する立場の理学系、工学系、教育系の会員まで、幅広い分野の会員が所属しています。

2006年度には女性会長が誕生しており、早くから女性が活躍している学会といえるかと思います。現在、理事7名中、副会長1名を含め2名が女性です。本学会では、入会時に性別のデータを集めていないため会員全体の男女比は不明ですが、理事における女性比率は明らかに会員内の女性比率より高くなっています。

<男女共同参画の活動>

(1) 本学会における男女共同参画の経緯

本学会は規模が小さいこともあり、男女共同参画に関する独立した委員会は設置されていません。しかし、その代わりとして2014年に広報委員会内に男女共同参画担当が配置されました。以降、その体制の下で「女子中高生夏の学校」をはじめとした男女共同参画に関する学会内の調整や業務が行われています。

また、本学会は2015年に男女共同参画学協会連

絡会にオブザーバ会員として加盟致し、男女共同参画に関するアンケート調査などへの協力を行っております。現在は正式加盟会員に移行しています。

(2) 「女子中高生夏の学校」での活動

「女子中高生夏の学校」には2015年から参加しています。2024年度は会員4名で以下のプログラムに参加しました。

- 実験・実習「ミニ科学者になろう」
「数式処理を使って、数学実験してみよう」
- ポスター展示「研究者・技術者と話そう」
- 進学・キャリア相談カフェ



「女子中高生夏の学校」での活動：
実験・実習「数式処理を使って、数学実験してみよう」

日本植物病理学会における男女共同参画の取組み(2023年度)

一般社団法人 日本植物病理学会 ダイバーシティ推進委員会

Activities for Diversity, Equity, & Inclusion Committee in the Phytopathological Society of Japan in 2023

The Phytopathological Society of Japan (PSJ)

Abstract: In 2023, the Diversity, Equity, & Inclusion committee members in the Phytopathological Society of Japan (PSJ) has further increased, and its activities have been strengthened. In March 2024, we held the 2nd symposium during annual meeting, and many people attended this seminar and were able to learn about various careers and the struggles they face. The third symposium, scheduled to be held at the next conference, aims to support the career development of young people, and preparations are underway. The committee's website is also being prepared.

1. 日本植物病理学会の紹介

日本植物病理学会は、植物病理学の進歩と普及をはかることを目的として、1916年に創設されました。「植物を病気から如何にして守るか」を命題として、糸状菌、細菌、ウイルス等が、穀類・野菜・果樹・花き・樹木などの植物に起こす病気について、基礎から応用まで幅広い研究を行なっています。具体的には、病原体の診断同定・伝染方法、感染・増殖機構、病原体と宿主の相互作用、宿主の抵抗性機構、また、農林業の生産現場における病害発生予察や防除方法の開発、抵抗性作物の作出、食糧や森林の安定的生産、生活を取り巻く植物の保護など、これらを通して持続可能な農業・社会に貢献する魅力ある学会を目指して活動しています。

2. 2023年度の取組み

2023年度は委員会名称をダイバーシティ推進委員会に変更し、委員数をさらに増員して10名としました。新しいメンバーには男性や若手を増やし、より多様な意見が出る委員会となるよう心がけています。2023年度の活動としては、令和6年度日本植物病理学会大会(2024年3月)において、第2回ダイバーシティ推進セミナーを開催しました。本セミナーは、「植物病理学分野で働く私のキャリアとライフイベント」と題し、世代や所属組織が異なる方からそれぞれのキャリア形成の過程で感じたことを聞く機会を提供することとしました。ラ

ンチオンセミナーとしたこともあって、セミナー会場には多くの人が集まり、用意したお弁当が足りなくなるほどの盛況となりました。講演は、渡辺京子氏(玉川大学)、栢森美如氏(北海道立総合研究機構)、寺田壮志氏(クミアイ化学工業株式会社)の3名から頂き、自身のキャリアにおける具体的な経験から折々に感じたこと、どのような考えをもってキャリアを進めて欲しいかの提言や、研究以外の業務経験も視野を広げるものになるなど様々なお話を聞かせて頂きました。また、農業研究という知力のみならず体力も求められる職場において、女性として苦勞されたことや、無理せずひと工夫することで自身だけでなく周囲の環境改善にも繋げられるというお話も頂けました。いずれの演者も、植物病理学会における活動や発表が自身の研究の支え、モチベーションに繋がっているとの言葉がありました。2023年度学会長からはセミナー開会挨拶を、副会長からは閉会挨拶を賜り、ダイバーシティ推進に対する学会からのエールを頂くことができました。

セミナー後のアンケートから、会場参加者の約7割が20~30代であり、多くの若手がこのようなセミナーに興味を寄せていることが分かりました。これを踏まえ、次回開催予定の第3回セミナーでは学生など若手へ向けた研究職の魅力紹介、キャリア形成を応援するような内容で行うことを計画しています。また、準備中である委員会HPも2024年度内に公開する予定です。

日本放射線影響学会 キャリアパス・男女共同参画委員会 活動報告

一般社団法人 日本放射線影響学会(担当: 平山 亮一・量子科学技術研究開発機構)

連絡先: 学会事務局 E-mail: jimukyoku@jrrs.org

Annual report on the activities for career path and gender equality in the Japanese Radiation Research Society (2023-2024)

The Japanese Radiation Research Society (Ryoichi Hirayama, National Institutes for Quantum Science and Technology)

Abstract: The Career Path and Gender Equality Committee in the Japanese Radiation Research Society aims to support the members' career development and the actual situation of gender equality in our society. In FY2023, the committee organized a seminar at the 66th Annual Meeting to discuss "The 'History' and 'Future' of Gender Equality". In addition, the committee implemented a financial support system for childcare during the Annual Meeting and conducted a questionnaire survey on the Committee's activities after the conference.

1. キャリアパス・男女共同参画委員会について

日本放射線影響学会は、1959年に設立されて以降、放射線の人体と環境に対する影響とその機構の解明、ならびに利用への貢献を目指して基礎から応用まで様々な分野における放射線科学研究を推進してきました。毎年開催される年次大会(学術集会)は、今年は福岡にて開催され、67回目となります。その中において、当学会キャリアパス・男女共同参画委員会は、2014年度に設置された若い委員会です。2024年9月現在の委員数は8名(男性4名、女性4名)です。若手研究者を中心とした学会員のキャリアアップ支援や、当学会における男女共同参画の実情を把握、支援することを目的とし、多様なバックグラウンドを持つ学会員が活躍できるよう活動しています。

2. 2023年度の活動内容

2.1. 企画セミナーの開催

2023年11月に開催された第66回学術大会にて、毎年恒例となっている当委員会企画のセミナーを開催しました。第10回の節目を迎え、「影響学会における男女共同参画の『あゆみ』と『これから』」と題し、男女共同参画に関し、社会や学会におけるこの10年の変化を振り返りました。

セミナーでは、特別講演として為近恵美先生(横浜国立大学)をお招きし、ライブイベントを中心に20年(10年×2)のご経験について講演いただきました。また、学会員の意識調査を目的に、

事前アンケートにて収集した、「時間の経過とともに男女共同参画の意識はどのように変わったか」の結果も共有しました。セミナーを通し、学会が一体となって男女共同参画の『経験』を共有し、『今後』を考える良い機会となりました。

2.2. 大会中の託児費用援助

当学会では、学術大会期間中の託児サービス利用のニーズに応えるため、2020年度より「託児費用援助」制度を設置してきました。第66回大会では、大会独自の委託業者による託児室を設置したところ、学会員2名からの申請があり、初めて本制度を運用できました。

2.3. 大会後のアンケート調査

学術大会後、学会員を対象に、Googleフォームを利用したアンケート調査を実施しました。企画セミナーの感想や今後の託児サービスのニーズ、さらには委員会活動に対する要望など、学会員が抱える様々な事情の把握に努めました。これらのアンケート結果を参考に、学会員が学術大会に参加しやすい環境づくりを進めていきます。

3. 今後の活動について

引き続き、当委員会が主体となり、学会員の活躍の場が広がる活動を考え、挑戦していきたいと考えています。学会ホームページ内に、当委員会の活動状況を掲載(下記URL)しています。

https://www.jrrs.org/about/gender_equality.html

一般社団法人 日本DNA多型学会 キャリアパス委員会活動報告

キャリアパス委員長 門田 有希(岡山大学・y_monden@okayama-u.ac.jp)

Activity Report of Japanese Society for DNA Polymorphism Research

Japanese Society for DNA Polymorphism Research

The Japanese Society for DNA Polymorphism Research (JSDPR) was established in 1991. We currently have approximately 400 members. JSDPR covers a wide range of research fields, including medicine, fisheries, animals, plants, humanity and low, where DNA is the subject of research. In this report, we have summarized the activities of Career Path Committee of JSDPR in 2022.

<日本DNA多型学会とキャリアパス委員会について>

日本DNA多型学会は1991年に「DNA多型研究会」として発足し、1995年には発展的に「DNA多型学会」と改称し、2016年10月に一般社団法人「日本DNA多型学会」となり、現在に至っている。DNA多型学会は、DNA多型をとおして、さまざまな生命体の特性や機能などの生命の本質に迫るような内容や実務的なDNA鑑定関連および時代を反映した倫理的な側面などを題材としており幅広い領域をカバーする、学際的な学会である。DNAを研究対象とした医学、水産、動物、植物、人類、法学といった分野の研究者が集う学会でもある。2023年5月時点で会員数は427名である。

キャリアパス委員会は若手研究者のキャリアパスや男女共同参画につながる活動を推進している。男女共同参画学協会連絡会にはオプザーバー学協会として加盟している。委員メンバーは門田有希(岡山大学)、村山美穂(京都大学)、津田とみ(東海大学)、村岡敬子(土木研究所)、西健喜(筑波大学)、吉川ひとみ(科学警察研究所)の6名である。

<キャリアパス委員会活動報告について>

2023年11月16日(木)・17日(金)に日本DNA多型学会第32回学術集会在下関市生涯学習プラザ(山口県下関市細江町3-1-1)において開催された。キャリアパス委員会は将来構想委員会と合同の会議を設け、今後の活動について協議した。前回のキャリアパス委員会企画の状況やアンケート結果を共有し、今後の企画・運営を共同

で行っていく可能性について検討した。また、将来構想委員会主催(キャリアパス委員会共催)で中高生向けのシンポジウムを開催することも協議された。シンポジウムは2024年8月1日(木)にオンラインで開催され、多数の中高生が参加し、盛況に終わった。以下、開催概要を示す。

「中高生DNAシンポジウム

DNAで森羅万象を解き明かせ！！二重らせんがひも解く生命の謎 1」

プログラム

13:00 開会の挨拶 猿渡敏郎(東京大学大気海洋研究所)

13:10 DNAで何が出来る？ -作物の品種改良と品種保護-

門田有希(岡山大学環境生命科学学域(農))

13:50 御蔵島に生息するミナミハンドウイルカの生態調査-DNAから何が見える？-

北 夕紀(東海大学生物学部)

14:30 なぜDNA？魚の系統をめぐるお話。シラウオを例に

猿渡敏郎(東京大学大気海洋研究所)

15:10 ABO式血液型のDNA研究 -輸血医療から人類の進化まで-

高橋遥一郎(筑波大学医学医療系)

15:50 犯罪現場のDNAは誰のもの？ DNA鑑定と統計学から考える

眞鍋 翔(関西医科大学法医学講座)

16:30 ブレイクアウトルームで講演者との交流

17:30 閉会のあいさつ 猿渡敏郎

本シンポジウムの開催にあたっては、男女共同参画学協会連絡会にもご後援いただいた。この場をお借りし、感謝申し上げます。

日本食品科学工学会活動報告

日本食品科学工学会(専務理事 逸見 光・学会事務局・henmi@jsfst.or.jp)

Introduction of the Japanese Society for Food Science and Technology and the ratio of women to the executives, delegates and members

The Japanese Society for Food Science and Technology (Hikaru Henmi・Secretariat・henmi@jsfst.or.jp)

Abstract: The Japanese Society for Food Science and Technology was founded in 1953 as the Society for Agricultural Processing Technology, renamed the Japanese Society for Food Technology in 1962, and given its present name in 1984. We currently have approximately 2,180 members. Our Society engages in various activities such as convention of annual meetings, lectures, and research seminars as well as presentation of academic awards with the objective of contributing to the advancement of food science and technology through cooperation among researchers, engineers, and other professionals in businesses, universities, and national and public research institutions. In addition, we publish our journal in Japanese with English abstract ("Nippon Shokuhin Kagaku Kogaku Kaishi") and English ("Food Science and Technology Research"). Current ratios of women to the executives, delegates and members are approximately 18%, 19%, and 34%, respectively.

1. 日本食品科学工学会の紹介

日本食品工学会は、1953年に農産加工技術研究会として当時の農林省食糧研究所内に発足し、1962年に会名を日本食品工業学会に変更、1984年に社団法人日本食品工業学会、1994年に会名を社団法人日本食品科学工学会に変更、2013年に公益社団法人日本食品科学工学会となり現在に至っています。現在、個人会員数が約2,000名と賛助会員(維持会員+団体会員)数が176の学会です。

学会の目的は、食品科学工学に関する学術の発展と科学技術の振興を通じて国民の食生活向上に寄与するため、食品科学工学に関する学理及びその応用の研究についての発表及び連絡、知識の交換、情報の提供等を行うことです。具体的には、年1回学術大会(8月末に3日間で開催)と支部会(6支部)の開催、さらに学会委員会・支部企画の講演会、市民フォーラム等を不定期に開催しています。年次大会は、ここ数年、新型コロナウイルス感染症の拡大により、ZOOMによるWEB開催を行っていましたが、昨年度の第70回記念大会では、京都女子大学で対面での開催を行い、参加者約1,400名、一般講演発表数約400、シンポジウム・研究会講演数約50、若手の会ポスター発表数(インターナショナルポスター発表も含む)

約180等でした。今年度の第71回大会も名城大学天白キャンパス(名古屋市)で8月29日~31日の日程で、対面での開催予定でしたが、台風10号の影響で対面での開催が中止となりました。ただし、大会としては成立したとみなし、プログラム・講演要旨の公開をもって、講演、発表が行われたものとみなしています。なお、昨年度とほぼ同様に、一般講演発表数約400、シンポジウム・研究会講演数約50、若手の会ポスター発表数(インターナショナルポスター発表も含む)約180等でした。

学会では、発足以来和文誌の「日本食品科学工学会誌」(年間12号)を発行しており、2024年で71巻となります。また、英文誌「Food Science and Technology Research」(年間6号)も発行しており、2024年で30巻となります。英文誌のジャーナルインパクトファクター(ジャーナルIF)は表1のようにここ数年間上昇続きでしたが、2022年度では一旦下がりましたが、2023年度では0.7に上昇しました。また、5年間IFにつきましても、2021年度、2022年度で1を超え、2023年度は1.1に上昇しました。

表1 Food Science and Technology SearchのIF

年	ジャーナルIF	5年間IF
2023	0.7	1.1
2022	0.6	1.0
2021	0.7	1.0
2020	0.6	0.8
2019	0.5	0.7
2018	0.4	0.6

最近では、他の学会同様に入会者の減少、特に学生を含む若手研究者の減少が顕著であります。そこで、学会では5年前に会費を半額にする学生オンライン会員制度とその一年後に会費を減額した通常オンライン会員制度を新たに導入しました。さらに、次世代を担う若手研究者(学生～入社2～5年程度)の研究・技術力向上と産官学の横断的な技術交流促進の場を提供するために1泊2日のフレッシュマンセミナー(講義と施設見学)を定員30名ほどで実施行ってきましたが、ここ数年は新型コロナウイルス感染症の拡大のため、WEBでの開催(定員50名ほど)を行ってきました。昨年度は、久しぶりに対面で11月21日～22日につくば国際会議場(研究施設見学会は、「食と農の博物館」(農研機構)及び農研機構・食品研究部門)で開催しました(参加者19名)。今年度も11月に東京農業大学世田谷キャンパスにて対面での開催予定です。

2. 会員、役員および代議員の女性比率

現在の学会の個人会員総数に占める女性会員の比率は約34%で、昨年より微増しました。学会の役員(理事・監事)と代議員の任期は2年です。17期(2016年度～2017年度)、18期(2018年度～2019年度)、19期(2020年度～2021年度)、20期(2022年度～2023年度)及び21期(2024年度～2025年度)での役員と代議員中に占める女性数を表2に示しました。

表2 役員および代議員中に占める女性数

期	役員(定員28名)	代議員(定員70名)
17	2	6
18	2	6
19	4	6

20	5	8
21	5	13

役員の女性数は19期で倍増し、20期でも1名増加しましたが、21期では20期と同じ5名となっています。代議員では、20期において、17～19期より女性数が2名増加し、21期では、さらに5名増加しています。しかし、それぞれに占める女性比率が約18%と約19%であり、女性会員比率約34%より低くなっています。

現在の社会情勢を鑑み、今後とも引き続き役員と代議員に占める女性比率を高める努力を学会として真摯に取り組む必要があると考えています。



Activity report of JILM Gender Equality Committee

The Japan Institute of Light Metals
(Mayumi Suzuki・Toyama Prefectural University・smayumi@pu-toyama.ac.jp)

Abstract: The Japan Institute of Light Metals (JILM) is the only academic organization in Japan related to light metals, which was established in 1951 with the aim of advancing science and technology related to light metals such as aluminum, magnesium and titanium. JILM celebrated its 70th anniversary on October 26, 2021, a long-term vision for each standing committee, including the Gender Equality Committee, has been developed and published. JILM has established a Gender Equality Committee in 2018, and this report summarizes our remarkable activities in FY2023.

(<https://www.jilm.or.jp>)

1. 一般社団法人 軽金属学会の紹介

軽金属学会は、アルミニウム・マグネシウム・チタンなど軽金属に関する学術・技術の進歩を図り、工業の発展を目的として1951年に発足した軽金属に関する日本で唯一の学術団体です。主な活動は、1) 研究会・学術講演会等の開催、2) 国内外における研究協力・連携の推進、3) 学会誌・学術図書等の刊行です。最近では、日本アルミニウム協会等の関連団体と連携して軽金属の特徴を活かした各種研究開発を推進しており、リサイクルや省エネ分野で指導的役割を果たし、地球環境の維持・改善に貢献しています。2021年10月26日に創立70周年を迎えたことを期に、男女共同参画委員会を含む各常設委員会の長期ビジョンが策定・公開されました。男女共同参画委員会は2018年4月に設置され、以来精力的に活動を続けています。

2. 男女共同参画委員会の活動実績

2023年度の主な活動は、以下の通りです。

【男女共同参画セッション】

男女が共に活躍できる学会活動を通じ、軽金属分野における研究・技術に関する活動を活性化させることを目的に、春秋講演大会中に男女共同参画セッション(第8回・第9回)を開催しました。第144回春期大会では「働き方改革その後～子育て編～」、第145回秋期大会では「若手世代のキャリア選択と悩み」をテーマにパネルディスカッションが行われ、活発に質疑応答がなされました。

【女子中高生夏の学校(夏学)への参加】

5度目の夏学参加となった2023年は、日本金属学会・日本鉄鋼協会と合同で、「Fun! Fun! Metals!」と題し実験実習に参画し、女子中高生

に金属の面白さを体験していただきました。また、ポスター展示と進路・キャリア相談カフェに参加し、女子中高生に軽金属分野の最先端の技術や基礎知識の他、軽金属分野の研究者や技術者のライフスタイルを紹介し、理工系キャリア教育の実施に貢献しました。

【女性会員の会の開催】

女性会員相互の親睦と情報交換を通じて、女性研究者・技術者が能力を十分に発揮できる環境づくりを目的として、第144回春期大会・第145回秋期大会中にハイブリッド形式で開催され、様々な意見交換がなされました。

【アンケート実施】

春秋講演大会中に実施される様々な男女共同参画イベントに関し、会員アンケートを2022年(第142回春期大会)より継続して行っています。アンケート結果を分析し、今後の委員会活動や男女共同参画イベントに反映させる予定です。

その他、講演大会中の託児室設置・運用に関する規程等の見直しや、子連れでの講演大会懇親会参加の実施(試行)、学会誌「軽金属」での「ダイバーシティリレーエッセイ」の連載、2009年に制定した「軽金属女性未来賞」推薦などの活動を行いました。

3. 女性会員比率

男女共同参画活動を推進してきた結果、当該調査を開始した2002年の軽金属学会の女性会員比率(1.5%)は徐々に増加し、2023年7月には正会員6.1%、学生会員9.5%まで向上しました。今後も会員の声を拾い上げて女性会員の増加を目指すと共に、男女共同参画の啓蒙・実現に努めます。

公益社団法人日本水産学会 活動報告
公益社団法人 日本水産学会 男女共同参画推進委員会

Activity Report of the Japanese Society of Fisheries Science

The Japanese Society of Fisheries Science

(4-5-7 Konan, Minato-ku, Tokyo 108-8477, TEL/FAX 03-3471-2165, e-mail: fishsci@dl.dion.ne.jp)

Abstract: The Japanese Society of Fisheries Science (JSFS) was established in 1932 and is a non-profit registered charity, dedicated to the promotion of all aspects of fisheries science. 2,953 members belong to the society and 446 of them are women. The committee on gender equality was set up and the activity was started in 2012. This is an annual report of JSFS activities related to promotion of equal participation of men and women until September 2023.

＜日本水産学会の概要＞

日本水産学会は、水産学に関する学理および応用の研究についての発表、連絡、知識の交換、情報の提供などを行う場となることにより、水産学に関する研究の進歩・普及を図り、学術の発展に寄与することを目的として1932年に設立された。2011年3月1日には公益社団法人として認定され、2024年における会員(名誉会員、正会員、団体会員、賛助会員、外国会員および学生会員)の総数は3,157名であり、個人会員2,953名のうち女性は446名、学生会員379名のうち女性は119名である。国内はもとより、諸外国からも水産系の最も充実した学会として認められている。男女共同参画学協会連絡会へは、2011年度に正式加盟が承認され、2012年3月に男女共同参画推進委員会が発足した。

＜男女共同参画に関する取り組み＞

これまでに、①学会大会開催期間中における託児所の設置、②日本水産学会誌における女性研究者からの話題提供(2010年7月号～、隔月、「水産科学の分野で活躍する女性たち」などを行っている。2019年以降における主な活動内容は以下のとおりである。

2019.3.29 日本水産学会春季大会にて、談話会「水産学会におけるやさしい男女共同参画」を開催

2023.3.29 日本水産学会春季大会にて、談話会「無意識のバイアスに気づくために」を開催

2023.9.21 日本水産学会秋季大会にて、談話会「東北大学におけるダイバーシティ推進～皆が輝ける大学を目指して～」を開催

2024.9.26 日本水産学会秋季大会にて、談話会「女性研究者の参画を妨げる無意識のバイアス-学会で何ができるのか」を開催予定

日本水産学会の全委員会委員数(延べ)289名のうち女性は25名で(特別委員会は除く)、役員20名の

うち女性は2名である。引き続き水産分野における男女共同参画推進についての質的な問題点の整理を当面の目標としている。

＜学会の活動＞

【大会の開催】年2回(春季・秋季)開催される大会では、研究発表、シンポジウム、会員交歓会等が行われる。水産学関連の学会の中でも最も規模が大きく、この分野の中核をなす集会であり、周辺分野を含めた水産関連の最新の情報を得ることができる。

【支部の活動】各地域の水産業との連携を強めるため、北海道、東北、関東、中部、近畿、中国・四国、九州の7支部を設け、研究発表会、講演会、見学会等の地域に根ざした催しを開催している。

【学会誌の刊行】和文学術論文と各種の情報を掲載した「日本水産学会誌」、英文学術論文を掲載した「Fisheries Science」を年6回ずつ発行している。

【学術図書の刊行】最新の進歩を記述した単行本「水産学シリーズ」、水産に関する様々な知識や情報を一般向けにわかりやすく提供する「ベルソブックス」、水産の技術的解説ノートなどを論文にした「水産技術」の監修を行っている。

【産業界との連携】産業界と学会を有機的に結びつけることを目的に、水産環境保全、漁業、水産利用、水産増殖、の4分野について懇話会等を開催し、産業界との連携を図っている。

【他の学術団体等との連携】日本農学会に所属し国内の学協会等との連携を図るとともに、外国の諸学会との間に学術交流協定を締結し、国内外との交流を積極的に進めている(国内:日本農学会・男女共同参画学協会連絡会・日本技術者教育認定機構など、海外:世界水産学協議会・アメリカ水産学会・イギリス諸島水産学会・韓国水産科学会・中国水産学会・アジア水産学会等)。

日本生化学会 男女共同参画活動報告(2023)

日本生化学会 (多胡めぐみ・慶應義塾大学薬学部・tago-mg@pha.keio.ac.jp)

Annual Report on the Activities for the Diversity Promotion Committee in the Japanese Biochemical Society (2023)

The Japanese Biochemical Society

(Megumi Tago · Keio University Faculty of Pharmacy · tago-mg@pha.keio.ac.jp)

The Japanese Biochemical Society (JBS) was established in 1925, and joined to the Japan Medical Society in 1926. The aim of JBS is to promote the exchange of information and stimulate discussion and collaboration among biochemists, and to provide a forum and meetings for scientists covering all aspects of biochemistry. The society has made every effort for maintaining a policy of gender equality and conducted it in various activities. In the following, we report the activities conducted by the Diversity Promotion Committee of the society during last year.

1. 日本生化学会について

日本生化学会は大正14年(1925年)に創立され、大正15年(1926年)に日本医学会に加盟しています。学会員は約7,900名で、和文誌「生化学」を年6回、英文誌「The Journal of Biochemistry」を年12回発行しています。

個人会員数の女性の割合は、10年前に21%でしたが、現在は27%となっています。男女共同参画推進への取り組みとしては、2003年より正式加盟学協会として入会しました。学会内では、2005年に男女共同参画推進委員会(現・ダイバーシティ推進委員会)を正式に発足し、2007年に第1回目の男女共同参画ランチオンセミナーを開催しました。それ以降、毎年学会大会においてランチオンワークショップを開催し、継続的な男女共同参画活動を進めています。

2. 活動報告

(1) 大会でのワークショップの開催

2023年度の第96回日本生化学会大会の学会企画として、本会ダイバーシティ推進委員会企画ワークショップを開催しました。

「挑戦する心を雑多な「御役目」から守る方法」をテーマに、白壁恭子先生(立命館大学)、木村洋子先生(静岡大学)、梅津太紀氏(文部科学省)をパネラーとし、下記の内容にて聴衆参加型パネルディスカッションを行いました。

<概要>

研究は誰も知らないことを明らかにする行為なので、挑戦する心が原動力になると思います。本ワークショップでは、そんな挑戦する心を損なう要素として社会のあちこちに潜む雑多な「御役目」に注目します。御役目には家事に限らず、所属する組織を維持するためのありとあらゆる雑用、自分や家族が所属する地域社会や学校に対する無償の貢献、介護も含まれると思います。世の中では「ワークライフバランス」などと言われますが、ワークにもライフにも「御役目」はたくさん潜んでいます。突き詰めると男女共同参画社会とは、これまで主に男性が引き受けてきた「ワークの御役目」と、主に女性が引き受けてきた「ライフの御役目」を、お互いに分け合う社会に他ならないように感じます。「御役目により細切れになった時間の活用法」「それって本当に必要な御役目なの?」「ワークの御役目と向き合う上での注意点」といったテーマに沿って議論したいと考えます。

(2) 理事者の男女比率

本会では2年に1度、選挙によって理事が選出されます。理事選挙では女性枠や若手枠を設けたことにより、現在では25名のうち5名の女性が占めるようになりました。

2023年度ダイバーシティ推進委員会の活動報告

日本痛風・尿酸核酸学会(金子希代子・Biomolecular Logic Research Laboratory)

Activity Report of Diversity Promotion Committee of the Japanese Society of Gout and Uric & Nucleic Acids

Japanese Society of Gout and Uric & Nucleic Acids (Kiyoko Kaneko · Biomolecular Logic Research Laboratory)

Abstract: Japanese Society of Gout and Uric & Nucleic Acids consist of the specialist in gout and uric acid research. The number of this society members in September 2024 is 520. We launched a diversity promotion committee of the society in February 2021. And our society was registered in 2021 as an observer society of the Japan inter-society liaison association committee for promoting equal participation of men and women in science and engineering.

日本痛風・尿酸核酸学会は、2021年、男女共同参画学協会連絡会のオブザーバー学会として入会し、2024年11月より正式加盟学会となります。学会員中の女性理事の数は、理事20名中3名と決して多くありませんが、2020年にダイバーシティ推進委員会が発足し、委員会活動は今年で5年目になります。

当学会は、名前の通り、痛風や尿酸の専門家が集まっている学会です。近年、尿酸値の高い状態は、痛風だけでなく、高血圧や心血管疾患と関係があることがわかり、2020年10月に閣議決定された「循環器病対策推進基本計画」では、脳卒中、心臓病その他の循環器病に至る生活習慣病として、高血圧症、脂質異常症、糖尿病、慢性腎臓病と並んで、高尿酸血症が記載されました。

会員数は、2024年9月現在、520名。プリン代謝、尿酸代謝を研究する基礎の研究者と、痛風・高尿酸血症と関連する病態を研究する臨床の医師と管理栄養士／薬剤師／理学療法士などで構成されていて、基礎と臨床の研究者がほぼ同数になります。

本学会の歴史は古く、昭和52年(1977年)に第1回尿酸研究会として発足し、次回の2025年2月が第58回目の総会となります。国際的に評価されている学会員の研究内容としては、腎臓と腸管における尿酸トランスポーターの発見、GWASによる痛風関連遺伝子の同定、などがあります。大きい学会ではありませんが、最先端の手法を駆使した研究が行われています。

2023年度の当学会ダイバーシティ推進委員会の活動報告として、

- (1) 学会員および学会総会参加者を対象にしたニーズ調査アンケートの実施。アンケートは毎年、学会総会の際およびシンポジウムや特別講演のオンデマンド配信の際に実施しています。今回は41名(会員38名、非会員3名)から回答があり、好評であった講演内容、今後学会総会で取り上げてほしいテーマ、学会開催方式や開催日、託児室の設置について希望を募り、学会執行部や次期総会会長に報告しています。
- (2) ニーズ調査を受けて、学会総会時に託児室を設置しましたが、2023年度は利用者がいませんでした。しかし、同様にニーズ調査で希望の出ていた海外の研究者による講演が行われ、好評でした。また、優秀演題賞が新たに設置されて2回目となり、学会員のモチベーションに繋がっています。

今後も学会員のニーズを反映できるよう努めていきたいと思っております。

日本痛風・尿酸核酸学会
ダイバーシティ推進委員会委員長 金子希代子
Biomolecular Logic Research Laboratory副代表



日本大気化学会における男女共同参画推進の取り組み

日本大気化学会 男女共同参画・人材育成委員会

(江口菜穂・九州大学、中山智喜・長崎大学、大畑祥・名古屋大学、石野咲子・金沢大学)

Activities for Gender Equality in the Japan Society of Atmospheric Chemistry

The Japan Society of Atmospheric Chemistry Gender Equality Committee (Nawo Eguchi, Kyushu Univ.; Tomoki Nakayama, Nagasaki Univ.; Sho Ohata, Nagoya Univ.)

The Gender Equality Committee of the Japan Society of Atmospheric Chemistry aims to promote equal participation of men and women and encourage students and young scientists. The Committee has provided nursery support during the annual meetings in spring and autumn to promote both male and female members in childcare to participate in the meetings. We had started to support members who take childcare leave or caregiver leave since last fiscal year. We have provided several opportunities for students and young scientists to interact each other and learn about career development.

1. 学会の概要

日本大気化学会は、対流圏および成層圏の大気化学・大気力学(輸送、物質循環)過程、大気圏と他圏(生物圏など)との相互作用に関する研究を行う研究者の議論・交流の場を提供することを目的とした学会です。1999年1月に前身となる「大気化学研究会」が発足し、2014年1月に「日本大気化学会」に名称が変更され、現在に至っています。会員数はおよそ300名程度と小規模な学会ながら、春季の日本地球惑星科学連合(JpGU)大会における「大気化学」セッションと秋季の大気化学討論会と年2回の学術集会を実施し、年に2回程度学術誌「大気化学研究(Archives of Atmospheric Chemistry Research)」を発行しています。2023年7月から第13期の運営委員会(会長1名、副会長1名(女性が選出)、運営委員11名;女性比率15%)が学会の運営にあたっています。

2. 男女共同参画・人材育成の取り組み

運営委員会の中に「男女共同参画・人材育成委員会」を設置しています。前々期(第11期)では女性WG、人材育成WGとそれぞれ別々に活動していましたが、第12期から男女共同参画の取り組みと次代を担う学生および若手研究者の人材育成を重要な課題と位置づけ、一つの委員会として活動を行っています。今期は、3名の運営委員、1名の準委員(今期から設置した役職)の計4名体制(男女比1:1)で活動をしています。

委員会の取り組みとして、春季と秋季の学術

集会に育児中の会員が参加しやすいように集会期間中の保育支援を実施しています。また、集会期間中に女性会員のランチ会を企画し、女性会員同士が年代や立場を越えて自由に交流できる場としています。若手向け企画として、春季のJpGU大会時に学部生を当学会の懇親会に無料で招待し研究者と交流してもらおう機会を設け、秋季の討論会時に学生・若手PD向けのキャリアパスにつながる企画を行ってきました。

3. 今期の活動報告(2022/10-2024/09)

前期から、男女共同参画学協会連絡会にオブザーバーとして加入し、男女共同参画推進の取り組みをさらに加速させています。学術集会期間中の保育支援は、集会期間中の通常利用の延長保育についても支援対象とするなど集会の形式によらず会員が利用しやすい制度であることを周知しつつ、今後も支援制度を継続する予定です。昨秋の討論会では2名保育支援を利用しました。また、育児や介護等で休業期間があった会員に対し、復職後に休業中の学会活動について学会参加費等の補助を行い、休業期間後の研究・学会活動への復帰を奨励する「休業中会員支援制度」を設けています。そして、学生・若手研究者が互いに交流し研究成果の発表などを行う「若手交流会」を、年に数回程度開催しています。さらに今期より高年次への進学をエンカレッジする目的で「若手旅費支援制度」を開始し、開催地から遠方の学生の宿泊費補助を実施しています。

日本気象学会 男女共同参画活動報告

公益社団法人 日本気象学会 (担当: 鈴木順子・海洋研究開発機構・9325@metSOC.or.jp)

Annual Report on the Activities for the Gender Equality in the Meteorological Society of Japan

*The Meteorological Society of Japan (Junko Suzuki · Japan Agency for Marine-Earth Science
and Technology · 9325@metSOC.or.jp)*

The Meteorological Society of Japan (MSJ) was established in 1882 and has contributed to the progress and promotion of meteorology. “Early Career Support and Gender Equality Committee” in MSJ launched in 2012 aims to promote diversity in the fields of meteorology. The committee holds regular meetings for communications among female researchers, and other meetings for the Work-Life Balance (WLB) in the annual meeting of MSJ. We also have been joining “Summer School for junior and senior high school girl students (Natsugaku) since 2017.

【日本気象学会について】

日本気象学会は、1882年(明治15年)5月に東京気象学会として創立されたのがその発端です。2013年(平成25年)4月1日からは公益社団法人の認定を受け、学問的にも社会的にも貢献するべく活動を続けています。2024年(令和6年)9月現在で、一般会員数(個人)は3141名、そのうち女性会員は394名、女性会員比率は約13%で、女性会員比率は昨年度(10%)より上昇しています。少子高齢化や理系離れなどの影響を受け、会員数は減少傾向にあります。

学究活動の自由な発展のためには、多様な年齢・性別が対等に協力し合う環境の実現が重要との観点から、本会における男女共同参画に関する担当委員会が設置されています。男女共同参画のみならず、若手研究者及び学部・大学院生の人材育成と研究環境の整備にも取り組んでおり、男女共同参画と人材育成を実現すべく、包括的な活動をおこなっています。

【男女共同参画に関する取り組み】

「女性会員の集い」と「ワークライフバランス(WLB)を考える会」

上記の通り本会において女性会員は少数派で孤立しやすい環境にあるため、その対策として「女性会員の集い」を開催し、世代を越えた交流や情報交換をおこない、女性会員の支援活動を継続しています。また、ワークライフバランス(WLB)は男女共同参画を実現する上で根幹的課

題です。WLBの取り方について、様々な価値観を共有・議論することを目的に、「WLBを考える会」の会合では就職活動や結婚、無意識のバイアスなどの議論を重ねてきています。

これまでは、「女性会員の集い」と「WLBを考える会」を大会時にそれぞれ開催してきましたが、この1年は2回共同開催し、「メンターシップ制度」、「〇〇の壁」をテーマとして、多様な参加者のもと、より活発な議論がおこなわれました。

若者世代への働きかけ

日本の理系の女性割合の低さは、日本の男女共同参画社会の実現、及び科学技術力向上の大きな妨げになっているとの認識のもと、女性の理系進出を図る一環として、女子中高生夏の学校への出展をおこなっています。今年も、日本地球惑星科学連合(JpGU)の一団体として参加しました。さらに、JpGU大会の中高生・大学生のキャリアパスイベント出展や、本会ホームページの学会員紹介記事によるロールモデル例の提示等を通じ、若者世代への働きかけを継続しています。

学会員紹介HP

<https://www.metSOC.jp/jinzai/kaiin/index.html>

【今後の課題】

一つの学会では活動に限界を感じる事も多く、他学協会との連携も課題です。取り掛からねばならない問題が山積し、理想と現実の間でもがく状況が続いています。

広島大学の若手研究者及び女性研究者活躍支援の取組

国立大学法人 広島大学 副学長(ダイバーシティ担当)／男女共同参画推進室長 石田 洋子

E-mail: syokuin-sen@office.hiroshima-u.ac.jp URL: <https://www.hiroshima-u.ac.jp/gender>

Hiroshima University's Efforts to Support the Advancement of Young Researchers and Women Researchers

*Yoko Ishida, Vice President (Equity, Diversity, Inclusion)
/Director, Gender Equality Promotion Office, Hiroshima University*

Abstract:

Hiroshima University (HU) has committed itself to realizing gender equal environment by valuing suitable work-life balance for all faculty and staff members and by implementing a variety of initiatives to support women researchers' research activities, since its announcement of Gender Equality Declaration in 2006. With the JST funding programs, HU has conducted various approaches including establishing an on-campus nursery school, providing young female scholar encouragement awards etc. by setting goals with specific targets. HU established Diversity Research Center to carry out research and practices related to diversity in 2016, and then the Institute for Diversity and Inclusion in 2023. Various activities for further strengthen gender equality have been implemented since 2017 under the Career Advancement Project for Women Researchers (CAPWR), a JST funding program of "Initiative for Realizing Diversity in the Research Environment (Collaboration Type)," in collaboration with academic/research institutes, local governments, and private companies. HU is currently strengthening its university-wide structure to support female researchers in STEM area and in the rural university through JST funding programs including "Initiative for Realizing Diversity in the Research Environment (Specific Correspondence Type). Since 2023, HU has organized its past efforts and implemented "SPARK ! Plan" to support young researchers and female researchers in realizing their career plans and to further promote its realization of gender equal environment.

<本学のこれまでの組織制度整備>

広島大学は 2006 年に男女共同参画宣言を表明して以降、積極的に制度整備や支援の取組を展開してきた。具体的には、男女共同参画推進室の設置、女性教員採用割合数値目標の決定とその定期的モニタリング、学内保育施設の拡充・増設、学童保育の実施、病後児保育利用料の補助などを通して仕事とライフ・イベントの両立を目指し、働きやすい職場環境の整備に努めている。

女性研究者支援に当たっては、女性研究者奨励賞の授与、既在籍女性教員に対するポストアップや女性限定公募を行うとともに、企業との連携(インターンシップなど)などを展開している。

多様性の研究・実践を進めるため、2016 年にダイバーシティ研究センター、2023 年には同センターと特別支援教育実践センター等を併せてダイバーシティ&インクルージョン推進機構を設置した。

<「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」による両立支援強化と活用推進>

広島大学は、2017～2022年度まで文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」の「国際型

ダイバーシティ研究環境実現プログラム(CAPWR)」により、共同実施機関であるマツダ(株)、デルタ工業(株)、(一財)国際開発センターと共に大学や研究機関、自治体、民間企業等50機関と協力して、地域における女性研究者活躍支援体制を構築し、現在も活動を継続している。

<「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特性対応型)」及び「同(調査分析)による女性研究者支援体制の強化>

2021年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特性対応型)」に採択された「女性科学技術フェローシップ制度の創設による次世代の積極的育成」では、女性科学技術フェローシップ制度の創設などにより研究者を志す理工系の女性学生を増加させることを目指している。2023年度採択の「同(調査分析)」では、海外における理工系の女性研究者増加に関する優良事例について調査を行い、その成果を提言書に取り纏める。

<「SPARK ! Plan」の実施>

2023年には若手・女性研究者のキャリアプラン実現支援プログラム「SPARK ! Plan」を開始した。

東京女子医科大学における女性医療人活動支援

東京女子医科大学女性医療人キャリア形成センター(本多祥子)

Promotion report of Gender equality in Tokyo Women's Medical University

Tokyo Women's Medical University Career Development Center for Medical Professionals (Yoshiko Honda)

Abstract: Tokyo Women's Medical University (TWMU) is a medical university with modern and sophisticated educational, clinical and research foundations for over one hundred years. Traditionally all of our undergraduate schools, Schools of Medicine and Nursing are devoted to develop women's professions. The uniqueness of TWMU derives from the founder's strong volition to establish women's professions. Her conviction, "sincerity and compassion", enlightens our commitment to medical services and care for our clients. TWMU Career Development Center for Medical Professionals was established in 2017 to replace Gender Equality Promotion Office. The center aims to foster superior women medical professionals with leadership skills and self-confidence needed to lay the path toward a better society. To achieve these goals, TWMU Career Development Center for Medical Professionals comprises 4 organizations under one umbrella: ①Department for nurturing leaders of women medical professionals, ②Women's Health Care Professionals and Research Support, ③Career Development Support for Professional Nurses, ④Diversity Promotion Office. We introduce our center's programs to middle and high school students through the All Nippon Diversity Network (OPENed) and various events and disseminate information along with our accomplishments.

＜女性医療人キャリア形成センター＞

本センターは以下①～④の4部門から構成され、女性医学研究者(女性医療人)の勤務継続支援やセーフティネットの提供だけでなく、キャリア形成支援を通じて、より良い社会を作るリーダーとして一段上のステージを目指す人材を育成している。また女子中高生の理系進路選択支援において、本学医学部、看護学部と共催でイベントを開催する等、積極的な活動を行っている。

① 女性医療人リーダー育成部門

学祖吉岡彌生先生の精神を受け継ぎ、より良い社会を作るリーダーとして活躍する女性医療人育成を目指す部門。有識者によるリーダーシップセミナー、現役教授によるピアラーニングの他、個別面談によるキャリア支援を実施している。

② 女性医師・研究者支援部門

子育てや介護などのライフイベントと診療・教育・研究を両立し、キャリア形成を継続できる環境を整備する部門。院内保育所やファミリーサポート運用の他、ライフイベントにより研究時間の確保が困難になった学内医学研究者(男女問わず)を支援する研究支援員制度を運営。また、相談者の出身大学を問わず全国から女性医師の復職相談を受け付け、個々の状況に応じた相談対応を

行っている。医学部教育の一環として毎年開催する女性医師・研究者支援シンポジウムでは、医学部学生に女性研究者支援の社会的背景や女性医療人キャリア形成センター事業の説明と成果報告を行っている。

③ 看護職キャリア開発支援部門

看護師、看護研究者を対象としたキャリアカウンセリング、スキルアップ研修、変革推進能力育成、研究推進サポートなどを行っている。看護学部・看護専門学校教員と臨床現場の看護職が共同で企画・運営を行い、看護職が生涯にわたり中断することなく成長し続け、仕事を継続できるようになるためのキャリア支援システムの構築と発展を目指している。

④ ダイバーシティ環境整備事業推進室

文科省「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(先端型)」事業を円滑に推進するため、①～③各部門をはじめ各種会議体、各学部、学内研究施設と密に連携し有機的に活動している。本学女性医療人支援事業全般の内容と成果について、全国ダイバーシティネットワークや学外学会を通じた広報活動とともに、医学部・看護学部キャンパスツアーなどに共催することで女子中高生に情報発信を行っている。

一般社団法人男女共同参画学協会連絡会
定款

令和 2 年 7 月 22 日制定

令和 4 年 3 月 29 日改正

第 1 章 総則

(名称)

- 第 1 条 この法人は、一般社団法人男女共同参画学協会連絡会（以下「本連絡会」という。）とする。
- 2 本連絡会の英語表記は、The Japan Inter-Society Liaison Association Committee for Promoting Equal Participation of Men and Women in Science and Engineering とする。
- 3 本連絡会の略称は、EPMEWSE とする。

(事務所)

- 第 2 条 本連絡会は、主たる事務所を京都市左京区に置く。

第 2 章 目的及び事業

(目的)

- 第 3 条 本連絡会は、学協会間での連携協力を行いながら科学・技術の分野において、女性と男性が共に個性と能力を發揮できる環境づくりとネットワークづくりを行い、社会に貢献することを目的とする。

(事業)

- 第 4 条 本連絡会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
- (1) 男女共同参画事業の企画、運営に関する事業
 - (2) 広報、調査研究、研究発表、情報収集等の活動に関する事業
 - (3) 国内外の学会等との連携事業に関する事業
 - (4) その他、本連絡会の目的を達成するために必要な事業

第 3 章 会員

(法人の構成員)

- 第 5 条 本連絡会に次の会員を置く。

- | | |
|-----------------|--------------------------------------|
| (1) 正式加盟学協会会員 | 本連絡会の目的に賛同する日本国内の科学・技術系学会、協会たる法人及び団体 |
| (2) オブザーバー学協会会員 | 本連絡会の目的に賛同する日本国内の科学・技術系学会、協会たる法人及び団体 |

- (3) 個人会員 本連絡会の一以上のワーキンググループ活動に参加する個人
- (4) 名誉会員 別途定める資格を有し、本会に特に顕著な功績を認められる個人

- 2 前項の正式加盟学協会会員をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律上の社員とする。
- 3 オブザーバー学協会会員は、有期会員とし、期間の定めは別途定める。
- 4 個人会員は別途定める資格審査を経て、運営委員会で承認する。
- 5 オブザーバー学協会会員、個人会員の活動については別途運営委員会で定める。
- 6 名誉会員の任期およびその活動については別途運営委員会で定める。

(入会)

第 6 条 本連絡会の会員になろうとする者は、別に定める分担金を添えて入会申込書を提出し、運営委員会の承認を得なければならない。

(分担金)

第 7 条 本連絡会の事業活動に経常的に生じる費用に充てるため、会員は、規程において別に定める分担金を支払わなければならない。

- 2 既納の分担金は、いかなる理由があってもこれを返還しない。

(任意退会)

第 8 条 会員は、退会届を運営委員会宛に提出することにより、退会することができる。

2 前項の規定にかかわらず、第9条の規定に該当する恐れのある場合または第10条1号に該当する恐れのある場合は運営委員会の承認を得なければ退会できない。

(除名)

第 9 条 会員が次のいずれかに該当するに至ったときは、総会の決議によって当該会員を除名することができる。

- (1) 本連絡会の名誉を著しく傷つける行為を行った場合。
- (2) 本連絡会の目的を明らかに著しく損なう行為を行った場合。
- (3) その他除名すべき正当な事由があるとき。

(会員資格の喪失)

第 10 条 会員は、次のいずれかに該当するに至ったときは、その資格を喪失する。

- (1) 第 7 条の分担金の支払義務を 2 年以上履行しなかったとき。
- (2) 正式加盟学協会会員の全員が同意したとき。
- (3) 当該会員が死亡又は解散したとき。

第 4 章 総会

(構成)

第 11 条 総会は、すべての正式加盟学協会会員をもって構成する。

- 2 前項の総会をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律上の社員総会とする。

(開催)

第 12 条 総会は、定時総会として毎事業年度終了後 3 箇月以内に 1 回開催するほか、必要がある場合に開催する。

(招集)

第 13 条 総会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事の過半数によりその招集事項を決定した上、委員長が招集する。

(議長)

第13条の2 総会の議長は、その総会において出席の正式加盟学協会会員の中から選出する

(議決権)

第 14 条 総会における議決権は、正式加盟学協会会員1 名につき 1 個とする。

(決議)

第 15 条 総会の決議は、議決権の過半数を有する正式加盟学協会会員が出席し、出席した当該正式加盟学協会会員の議決権の過半数をもって行う。

- 2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、総正式加盟学協会会員の半数以上であって、

総正式加盟学協会会員の議決権数の 3 分の 2 以上に当たる多数をもって行う。

(1) 会員の除名

(2) 定款の変更

(3) 解散

(4) その他法令で定められた事項

3 正式加盟学協会会員は、代理人によってその議決権を行使することができる。

4 正式加盟学協会会員は、書面および電磁的方法による議決権の行使ができる。

5 代理人、書面および電磁的方法により議決権を行使した者は、総会の出席者として取り扱う。

(議事録)

第 16 条 総会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 議長及び総会に出席した正式加盟学協会会員より選出された議事録署名人 1 名以上は、前項の議事録に記名押印する。

第 5 章 役員

(役員の設定)

第 17 条 本連絡会において、理事を設置し、理事のうち 1 名を委員長、2 名を副委員長とする。理事の員数は、3 名以上とする。

2 前項の委員長をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律上の代表理事とする。

(役員を選任)

第 18 条 理事は、総会の決議によって選任する。

2 委員長は、理事の互選によって選定する。

3 副委員長は、委員長が推薦した上、理事の互選によって選定する。

(理事の職務及び権限)

第 19 条 理事は、法令及びこの定款で定めるところにより、その業務を執行する。

2 委員長は、法令及びこの定款で定めるところにより、本連絡会を代表し、その業務を

執行する。

3 副委員長は、委員長を補佐する。

(役員任期)

第 20 条 理事の任期は、選任後 1 年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時総会の終結の時までとする。

2 補欠として選任された理事の任期は、前任者の任期の満了する時までとする。

3 理事は、第 17 条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事としての権利義務を有する。

(役員解任)

第 21 条 理事は、総会の決議によって解任することができる。

第 6 章 運営委員会

(運営委員会)

第 22 条 本連絡会は、運営委員会を設置する。

2 運営委員会は、すべての正式加盟学協会会員をもって構成する。

3 本会各規程の改廃は、運営委員会の決議により行うものとする。

4 その他、運営委員会に関して必要な事項は、別に定める。

第 7 章 資産及び会計

(事業年度)

第 23 条 本連絡会の事業年度は、毎年 11 月 1 日に始まり翌年 10 月 31 日に終わる。

(事業計画及び収支予算)

第 24 条 本連絡会の事業計画書、収支予算書については、委員長が作成し、総会において承認を受けるものとする。これを変更する場合も、同様とする。

2 前項の書類については、主たる事務所に、当該事業年度が終了するまでの間備え置く

ものとする。

(事業報告及び決算)

第 25 条 本連絡会の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、委員長が次の書類を作成し、第 1 号、第 3 号、第 4 号の書類については、定時総会に提出し、第 1 号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については承認を受けなければならない。

(1) 事業報告

(2) 事業報告の附属明細書

(3) 貸借対照表

(4) 損益計算書（正味財産増減計算書）

(5) 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の附属明細書

(剰余金の分配の禁止)

第 26 条 本連絡会は、剰余金の分配を行うことができない。

第 8 章 定款の変更及び解散

(定款の変更)

第 27 条 この定款は、総会の決議によって変更することができる。

(解散)

第 28 条 本連絡会は、総会の決議その他法令で定められた事由により解散する。

(残余財産の帰属)

第 29 条 本連絡会が清算をする場合において有する残余財産は、総会の決議を経て、公益社団法人若しくは公益財団法人又は公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第 5 条第 17 号イからトまでに掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与し帰属させるものとする。

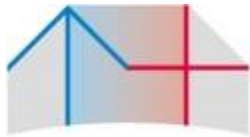
第 9 章 公告の方法

(公告の方法)

第 30 条 本連絡会の公告は、主たる事務所の公衆の見やすい場所に掲示する方法により行う。

附則 令和 2 年 8 月 7 日設立登記

附則 この改正は総会で議決された日（令和4年3月29日）から施行する。



男女共同参画
学協会連絡会

一般社団法人

男女共同参画学協会連絡会

設置目的

学協会間での連携協力を行いながら、科学技術の分野において、女性と男性がともに個性と能力を發揮できる環境づくりとネットワーク作りを行い、社会に貢献することを目的とする。

【行政】

1999年6月：男女共同参画社会基本法」公布・施行

2000年6月：内閣府男女共同参画推進本部主催「男女共同参画社会づくりに向けての全国会議」開催（シンポジウム「科学の進捗と男女共同参画」

2000年12月：男女共同参画基本計画」閣議決定

【日本学術会議】

2000年6月：「女性科学者の環境改善の具体的措置について」の要望及び「日本学術会議における男女共同参画の推進について」の声明が採択



2002年7月：男女共同参画学協会連絡会準備会開催

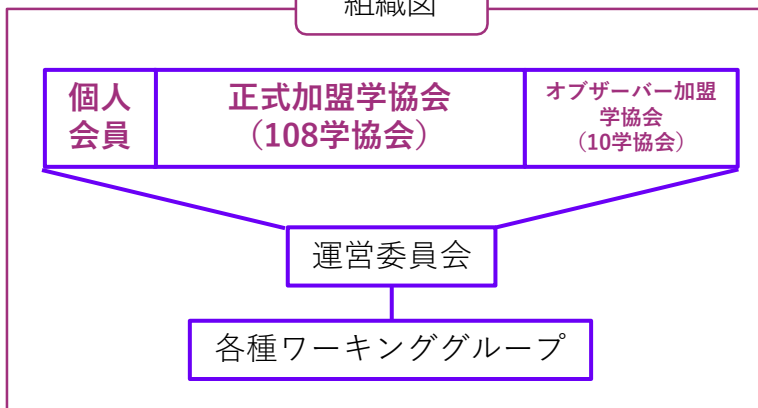
2002年10月7日：男女共同参画学協会連絡会設立集会

14学協会（化学工学会、高分子学会、日本宇宙生物科学会、日本植物生理学、日本数学会、日本生物物理学、日本生理学、日本天文学、日本分子生物学、日本動物学会、日本化学会、日本女性科学者の会、日本物理学、応用物理学）

2020年8月7日：一般社団法人へ移行

正式加盟 54学協会、オブザーバー加盟 57学協会

組織図



主な活動

大規模アンケート
シンポジウム
加盟学会の活動調査
要望・提言
女子中高生の理系選択支援

連絡先

男女共同参画学協会連絡会 第22期幹事学協会（一般社団法人日本応用数理学会）
第22期事務局アドレス danjo_office22@djrenrakukai.org

正式加盟学協会
(108学協会)

化学工学会, 高分子学会, 日本宇宙生物科学会, 日本化学会, 日本原子力学会, 日本女性科学者の会, 日本植物生理学会, 日本数学会, 日本生態学会, 日本生物物理学会, 日本生理学会, 日本蛋白質科学会, 日本動物学会, 日本比較内分泌学会, 日本物理学会, 日本森林学会, 地球電磁気・地球惑星圏学会, 日本神経科学学会, 日本バイオイメージング学会, 日本糖質学会, 日本育種学会, 日本結晶学会, 日本地球惑星科学連合, 日本繁殖生物学会, 生態工学会, 錯体化学会, 日本進化学会, 遺伝学普及会, 日本遺伝学会, 日本建築学会, 種生物学会, 日本獣医学会, 日本質量分析学会, 日本魚類学会, 日本畜産学会, 日本木材学会, 日本技術士会, 日本植物学会, 園芸学会, 日本農芸化学会, 日本解剖学会, 日本中性子科学会, 「野生生物と社会」学会, 計測自動制御学会, 日本体力医学会, 日本熱帯医学会, 日本応用数理学会, 日本衛生学会, 日本健康学会, 日本内分泌学会, 日本国際保健医療学会, 日本海洋学会, 日本地形学連合, 日本熱帯生態学会, 日本加速器学会, 映像情報メディア学会, 自動車技術会, 精密工学会, 地盤工学会, 電気化学会, 日本データベース学会, 日本液晶学会, 日本磁気学会, 日本火災学会, 日本機械学会, 日本金属学会, 日本女性技術者フォーラム, 日本鉄鋼協会, 日本分析化学会, 土木学会, 石油学会, 日本科学者会議, 日本バイオインフォマティクス学会, 日本水産増殖学会, 日本表面真空学会, 日本鳥学会, 日本放射光学会, 歯科基礎医学会, 日本セラミックス協会, 植物化学調節学会, 日本天文学会, 日本植物バイオテクノロジー学会, 日本組織細胞化学会, 応用物理学会, 日本流体力学会, プラズマ・核融合学会, 日本数式処理学会, 日本植物病理学会, 日本発生生物学会, 日本蚕糸学会, 日本霊長類学会, 日本土壌肥料学会, 日本放射線影響学会, 日本DNA多型学会, 日本食品科学工学会, 日本腎臓学会, 日本薬学会, 日本脂質栄養学会, 軽金属学会, 日本科学教育学会, 日本航空宇宙学会, 日本衛生動物学会, 日本神経化学会, 日本燃焼学会, 日本内分泌攪乱化学物質学会, 日本高血圧学会, 日本水産学会, 情報処理学会, 日本生化学会

オブザーバー加盟学協会
(10学協会)

日本痛風・尿酸核酸学会, 日本魚病学会, 日本地質学会, 日本コンピュータ外科学会, 日本大気化学会, 日本統計学会, 日本気象学会, 日本昆虫学会, 日本ロボット学会, 日本時間生物学会

幹事学会 (1年ごと)

- 第1期：応用物理学会
- 第2期：日本物理学会
- 第3期：日本化学会, 日本原子力学会
- 第4期：日本分子生物学会
- 第5期：日本生物物理学会
- 第6期：日本地球惑星科学連合
- 第7期：電子情報通信学会
- 第8期：高分子学会
- 第9期：日本宇宙生物科学会・生態工学会
- 第10期：日本生理学会
- 第11期：日本動物学会
- 第12期：日本数学会
- 第13期：日本植物生理学会・日本植物学会
- 第14期：日本生化学会
- 第15期：化学工学会
- 第16期：日本建築学会
- 第17期：日本物理学会
- 第18期：日本農芸化学会
- 第19期：日本技術士会
- 第20期：日本生物物理学会
- 第21期：日本生態学会
- 第22期：日本応用数理学会

幹事学会の主な仕事

- リエゾンメールの配信 (約700名)
- 運営委員会 (年3回) の開催
- シンポジウム (年1回) の開催
- ホームページ管理
- 分担金の徴収
- 女性比率調査 or 加盟学会活動調査
- 大規模アンケート項目決め or 大規模アンケート実施 or 大規模アンケート解析 or 大規模アンケート英訳 or 提言・要望活動

大規模アンケート

- 2003年 第1回大規模アンケート
設問項目24 (所属39学会)
回答数19,291件
コア学会：応用物理学会
- 2007年 第2回大規模アンケート
設問項目36 (所属64学会)
回答数14,110件
コア学会：生物物理学会
- 2012年 第3回大規模アンケート
設問数46 (所属98学会)
回答数16,314件
コア学会：日本神経科学会
日本動物学会
- 2016年 第4回大規模アンケート
設問数42 (所属90学会)
回答数18,159件
コア学会：化学工学会・日本建築学会
- 2021年 第5回大規模アンケート
設問数43 (所属115学会)
回答数19,506件
コア学会：日本技術士会・日本生物物理学会

追加した設問

任期付き研究員

介護
海外での研究経験

新規施策への認知度
WLBに関わる制度

資格について

女性比率調査 (2年ごと)

- 総会員数
- 一般会員数
- 学生会員数
- 会長・副会長
- 理事・監事
- 評議員・代議員
- 委員会
- 学会誌編集委員
- 英文論文誌編集委員
- 和文論文誌編集委員
- 男女共同参画委員
- その他の委員会の委員
- 年会シンポジウム貢献者・学会賞等受賞者の女性比率*

*2023年調査の追加項目

加盟学協会活動調査 (2年ごと)

- 男女共同参画委員会の有無
- 男女共同参画シンポジウムの開催回数
- 保育所利用者延べ人数
- 学会賞*
- シンポジウムオーガナイザーの女性比率*
- シンポジウム講演者の女性比率*
- 学術集会参加者の女性比率*

*2022年調査の追加項目

無意識のバイアスリーフレット配布

2016年10月に開催した学協会連絡会シンポジウムにおける Machi Dilworth 先生の基調講演の内容をまとめたリーフレット

シンポジウム

- 設立記念集会(2002,東京)
- 1周年記念シンポジウム (2003,東京) 「男女が共に生きる社会」
- 2周年記念シンポジウム (2004,東京)
「多様化する科学技術研究者の理想像：学協会アンケートが示すもの」
- 3周年記念シンポジウム (2005,東京) 「21世紀の産業を拓く男女共同参画社会」
- 第4回シンポジウム (2006,東京)
「育て、女性研究者!!理工系女性研究者支援の新しい波」
- 第5回シンポジウム (2007,愛知)
「真の男女共同参画へ向けて意識を変えよう！」
- 第6回シンポジウム (2008,京都)
「科学・技術の成熟と新たな創造をめざして
- 第二回連絡会アンケート調査報告から学ぶもの -」
- 第7回シンポジウム (2009,東京) 「持続可能社会と男女共同参画」
- 第8回シンポジウム (2010,埼玉) 「男女共同参画と社会」
- 第9回シンポジウム (2011,茨城)
「今、社会が科学者に求めることーソーシャル・ウィッシュ」
- 第10回シンポジウム (2012,東京) 「科学・技術における性差」
- 第11回シンポジウム (2013,東京)
「多様性尊重社会を目指してー第3回大規模アンケート結果報告よりー」
- 第12回シンポジウム (2014,東京)
「女性研究者・技術者を育む土壌～連携・融合による支援をめざして～」
- 第13回シンポジウム (2015,東京)
「国際的な視点から見た男女共同参画の推進」
- 第14回シンポジウム (2016,東京)
「国際的にみて日本の研究者における女性割合はなぜ伸びないのか？」
- 第15回シンポジウム (2017,東京)
「ダイバーシティ推進における産学の取り組み」
- 第16回シンポジウム (2018,東京)
「今なお男女共同参画をはばむもの新たな次のステップへ」
- 第17回シンポジウム (2019,東京)
「科学・技術分野の次世代育成と環境づくり」
- 第18回シンポジウム (2020,オンライン)
「女性研究者・技術者の意志・能力・創造性を活かすために
～女性リーダーが例外でない社会をめざして～」
- 第19回シンポジウム (2021,オンライン)
「女性研究者・技術者を育む土壌を耕し、意思決定の場を目指す人材を育成する
～より多くの女性研究者・技術者を意思決定の場へ～」
- 第20回シンポジウム (2022,東京&オンライン)
「男女間の積極的格差改善措置(女性限定公募・クォータ制など)について考える
～より公平な社会の実現を目指して～」
- 第21回シンポジウム (2023,東京&オンライン)
「フィールドワーク分野のダイバーシティとインクルージョン
～フィールドワークの研究分野で誰もが能力を発揮し輝くために～」
- 第22回シンポジウム (2024,東京&オンライン)
「女子中高生の進路選択～環境にとらわれず自分の興味を伸ばせるように～」

第 22 期 男女共同参画学協会連絡会 担当

第 22 期幹事学会 一般社団法人 日本応用数理学会

- 委員長 今井 桂子 (中央大学 理工学部 教授)
- 副委員長 佐古 和恵 (早稲田大学 理工学術院 教授)
- 副委員長 中口 悦史 (大阪大学 スチューデント・ライフサイクルサポートセンター 教授)
- 委員 石田 祥子 (明治大学 理工学部 准教授)
- 磯島 伸 (法政大学 理工学部 教授)
- 岩崎 悟 (大阪大学大学院 情報科学研究科 助教)
- 陰山 真矢 (岡山理科大学 理学部 講師)
- 神山 雅子 (株式会社ブリヂストン デジタルソリューション AI・IoT 企画開発部門)
- 齊藤 宜一 (東京大学大学院 数理科学研究科 教授)
- 佐々木 多希子 (武蔵野大学 工学部 准教授)
- 花谷 嘉一 (株式会社東芝 研究開発センター)
- 森山 園子 (日本大学 文理学部 教授)

第 22 期男女共同参画学協会シンポジウム資料集

2024 年 10 月 12 日発行
一般社団法人 男女共同参画学協会連絡会
<https://djrenrakukai.org/>

[禁無断転載] 本誌に掲載する著作物を転載または引用する場合には、掲載する刊行物に「第 22 期男女共同参画学協会連絡会シンポジウム資料集」から転載または引用した旨をご付記くださるようお願い申し上げます。

第22回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム
女子中高生の進路選択
～環境にとらわれず自分の興味を伸ばせるように～

【日時】2024年10月12日(土)10:00～16:30
【会場】中央大学茗荷谷キャンパス特大教室(1W01)
& オンライン
※一般の方はオンラインでご参加ください



申込みフォーム
一般参加締切10月4日(金)

【プログラム】
10:00～11:30

開会挨拶 速水謙(日本応用数学会会長)
歓迎の挨拶 中島康予(中央大学ダイバーシティセンター所長)

講演「多様な出会いが拓く未来：アンコンシャスバイアスを超えて
～男女共同参画学協会連絡会に支えられた、女子中高生夏の学校(夏学)の20年～」
永合由美子(NPO法人女子中高生理工系キャリアパスプロジェクト代表理事)

連絡会活動報告

11:30～13:00 ポスターセッション(昼食を含む)

13:00～16:30 女子中高生の進路選択
～環境にとらわれず自分の興味を伸ばせるように～

来賓挨拶 岡田恵子(内閣府男女共同参画局 局長)
先崎卓歩(文部科学省科学技術・学術政策局 科学技術・学術総括官)

講演1 「女子中高生の進路選択をとりまくジェンダー」
寺町晋哉(宮崎公立大学准教授)

講演2 「『女子中高生のための関西科学塾』の19年、そして最近思うこと」
細越裕子(大阪公立大学教授/女子STEAM人材育成研究所所長)

講演3 「女子中高生理工系進路選択支援プログラムが与えた影響：夏学での経験」
朝井都(大阪大学特任研究員/(株)リコー)

パネル討論

パネリスト：永合由美子、寺町晋哉、細越裕子、朝井都、
森義仁(お茶の水女子大学教授/女子中高生理工系進路選択支援WG委員長)、
佐藤南帆(九州大学修士課程1年)
ファシリテーター：中口悦史(連絡会第22期運営委員会副委員長)

閉会挨拶

幹事学会からの挨拶 今井桂子(連絡会第22期運営委員会委員長)
次期幹事学会からの挨拶 佐藤宣子(日本森林学会)

【主催】一般社団法人男女共同参画学協会連絡会(幹事学会：一般社団法人日本応用数学会)
【後援】内閣府男女共同参画局、文部科学省、厚生労働省、経済産業省、
国立研究開発法人科学技術振興機構、日本学術会議、独立行政法人国立女性教育会館、
一般社団法人国立大学協会、一般社団法人日本私立大学連盟、中央大学、
特定非営利活動法人女子中高生理工系キャリアパスプロジェクト

第 22 期 男女共同参画学協会連絡会 事務局

JSIAM 一般社団法人 日本応用数理学会
THE JAPAN SOCIETY FOR INDUSTRIAL
AND APPLIED MATHEMATICS